

Nihon University CST Department of Oceanic Architecture and Engineering
The architectural design works 2020

日本大学理工学部 海洋建築工学科

建築設計製図優秀作品集 2020

「海抜0メートル地帯水設計画」 中村正基

「環境と住空間を考える —親水公園沿いに建つ住宅—」

安藤大翔・久野祐璃・法橋礼歩

「蘇る器 —東京産の建材を用いた設計より—」 藤田大輝

「土による都市の回帰 建設残土を用いた都市の新しい姿」 古角虎之助

「Waterfront Office FUNABASHI」

小出将貴・及川一也・小川朋華・牛奥理子・中村瑠里

「水辺に佇むマイ・スペース+ others」 熊本一希・富永玲央・八阪終吾

「水と共に生きる集合住宅」 松井良太・山田莉央

「Architecture Is More 抽象表現芸術の制作手法を建築に用いる」 福田晃平

「生活のおすそわけ ~湧水文化の継承と再編が循環する住まい~」

石井健聖・大久保将吾・駒形史紗・佐藤駿介・鈴木亜実

「未成熟の遺産 —住×遺産×植林×観光の交わる足尾銅山転換計画—」 山戸善信

「「たまり」の上に立つ」 神林慶彦

「生業に宿る 宿場町の構図と生業の関係性による小田原の再編」 佐藤俊介

「ミクロの決死隊」

稲毛皓輝・金井和奏・松本日菜子・佐瀬智之・松下 毅・川名神威・立石千遥・堀内大晟

「都市の商住共棲 —商店街における商店と住宅の新たな暮らし—」

古角虎之助・中村正基・神林慶彦・山戸善信

令和二年度 設計製図担当教員一覧

1年生（ベーシックデザイン演習）

佐藤信治（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科
菅原 遼（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科
安藤 亮（ベーシックデザイン演習）／（株）環境システム研究所
奥村梨枝子（ベーシックデザイン演習）／YTRO DESIGN INSTITUTE
川久保智康（ベーシックデザイン演習）／川久保智康建築設計事務所
小平純子（ベーシックデザイン演習）／（株）竹中工務店
新田知生（ベーシックデザイン演習）／向日葵設計
鶴田伸介（ベーシックデザイン演習）／熊工房

2年生（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）

佐藤信治（デザイン演習Ⅰ）／海洋建築工学科
小林直明（デザイン演習Ⅱ）／海洋建築工学科
菅原 遼（デザイン演習Ⅰ）／海洋建築工学科
小野和幸（デザイン演習Ⅰ）／KAJIMA DESIGN
勝又 洋（デザイン演習Ⅱ）／大成建設（株）
金子太亮（デザイン演習Ⅱ）／空間研究所
川久保智康（デザイン演習Ⅰ）／川久保智康建築設計事務所
木内厚子（デザイン演習Ⅰ）／STUDIO 8
高野洋平（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／高野洋平建築設計事務所
玉上貴人（デザイン演習Ⅰ）／タカトタマガミデザイン
筒井紀博（デザイン演習Ⅱ）／筒井紀博空間工房
鶴田伸介（デザイン演習Ⅰ）／熊工房
森田敬介（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／森田建築設計事務所
山田晶子（デザイン演習Ⅱ）／かめ設計室

3年生（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）

佐藤信治（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／海洋建築工学科
小林直明（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／海洋建築工学科
穴澤順子（建築メディアデザイン）／光井 純アンドアソシエーツ建築設計事務所（株）
内海智行（デザイン演習Ⅲ）／ミリグラムスタジオ
桔川卓也（デザイン演習Ⅲ）／ナスカ
玉上貴人（デザイン演習Ⅲ）／タカトタマガミデザイン
筒井紀博（デザイン演習Ⅲ）／筒井紀博空間工房
長谷川洋平（デザイン演習Ⅲ）／（株）長谷川大輔構造計画
光井 純（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／光井 純アンドアソシエーツ建築設計事務所（株）

4年生（総合演習）

佐藤信治（総合演習デザイン系）／海洋建築工学科
小林直明（総合演習デザイン系）／海洋建築工学科
桜井慎一（総合演習計画系）／海洋建築工学科
山本和清（総合演習計画系）／海洋建築工学科
菅原 遼（総合演習計画系）／海洋建築工学科
寺口敬秀（総合演習計画系）／海洋建築工学科
吉田郁夫（総合演習計画系）／清水建設（株）

「遺したものが繋げる新しい住まいと産業」 中野沙紀・福田晃平・藤田大輝・水口峰志

「F-CUBE ー変化を許容する街ー」 今井晴貴・今村勇紀・梅津伶衣・大川実優・岡 滉介

「ハンマーヘッドクレイターミナル周辺 海の駅計画」 太田優人・望月 柚

「北極点における浮体式活動拠点の提案
ー環境配慮型ホテルを併設した国際研究施設の設計ー」 山本壮一郎

「ランドスケープとプレゼンテーション」
有馬成美・石本かえで・太田優人・永野千紘
植松百花・岡田 祐・望月 柚

「インドネシア共和国における水上交通を活用した首都移転計画の提案
ー木質資源を活かした環境配慮型の複合庁舎の設計ー」 黄 起範

「点、線、面から空間をつくる」
尾崎太亮・金井和奏・立石千遥・富永玲央・田中陽介・谷内颯真・
仲澤和希・永吉琉亮・八坂柊吾

「都市型リゾート機能を有したホテル」 太田優人・森山美波

「水族館」 関 亮太・齋藤瞬汰

「街のアートミュージアム」 久野祐璃・法橋礼歩

日本大学理工学部 海洋建築工学科

建築設計製図優秀作品集 2020

CONTENTS

1年生 (ベーシックデザイン演習)	2
2年生 (デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ)	8
3年生 (デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン)	16
4年生 (総合演習)	27
卒業設計	33
修士設計	44
コンペ受賞歴一覧	48

1年生（後期：ベーシックデザイン演習）

【担当】 佐藤 信治
菅原 遼
安藤 亮
奥村梨枝子
川久保智康
小平 純子
新田 知生
鶴田 伸介

ベーシックデザイン演習 （後期）

第1課題

「ミクロの決死隊」
（出題：佐藤信治）

【課題趣旨】

課題は普段見慣れたものの視点を変える訓練から始まります。皆さんの体が身長15～18mm位の大きさにまで小さくなったとします。見慣れていた文具や家電など手に取ることでできる小さなものがまるで未来都市や巨大な構築物のように見えるでしょう。ミクロの大きさになった皆さんは普段は外側から見ているものの中に自由に入りし内部空間をじっくりと眺めることができます。見たことのない空間に入り周りの質感や表情を見つめます。細部まで想像してください。さまざまな驚きや発見があるでしょう。内部空間にあなた自身が立ち最も魅せられた光景を表現してください。空間は意外なところにも存在します。あなたが見つけたこの内部空間を丁寧に描いてください。そして絶妙のタイトルをつけその空間の特質を説明してください。

【提出物】

- (1) ケント紙に描いた作品。裏面に①担当講師氏名、②学生番号＋氏名、③描いた対象物とタイトルを記入
- (2) 作品タイトルと空間の説明文を記したA4サイズレポート用紙1枚。レポート用紙の最初に、同じく上記を記入

【採点基準】

- (1) 描く対象物への着眼点（誰でも知っている身近なものでありながら、一見とてものようには見えないという視点を選んでください）
- (2) 表現の密度
- (3) 説明の適切さ
- (4) 必ずどこかに立っていることがわかるような視点であること

第2課題

「点、線、面から空間をつくる」
（出題：川久保智康）

【課題趣旨】

これまでの課題をとおして、空間のスケール感や表現方法の基礎について学びました。今回の課題では、シンプルなエレメントを組み合わせて、空間やその造形を考察し、模型や図面を用いてアイデアの具体化を試みます。ここでは、空間は線材や面材といった部材の集合によって成立させます。もちろん模型として成立することが前提ですが、構造は重要視しなくても良いので、より純粋にここにあるべき空間を導き出してください。計画地は本学船橋図書館の中庭です。「図書館の機能を拡張し、皆さんにとって有意義な場所」を計画します。図書館の機能を拡張し、皆さんにとって有意義な場所」を計画します。以下を参考にしながら、具体的な使い方（機能）や造形のテーマは各自で設定してください。

- ・空間的機能の例：屋外の図書閲覧スペース、休憩スペース、レポートの作業場、グループ学習のスペース、友人との語り場、カフェなど
- ・形態操作の例：反復、相似、増幅、入れ子、すれ、回転、反転、連続、流れ、貫入、断片、隙間など

【学習目標】

- (1) 計画地に赴き、実際の空間を体感する。
- (2) エスキース（計画のスケッチ）と模型製作を繰り返すことで完成品を作り上げる過程を理解する。
- (3) 「かたち」ではなく、「空間」をつくることを意識する。
- (4) デザインの主旨を、言葉（文章）、スケッチ、模型で表現する。

【採点基準】

- (1) 表現したいコンセプトやイメージが実現されているか。
- (2) スケール感を把握しているか（空

間に人物模型を置いて、空間と人との関係を示すこと）。

- (3) 水面を設けた人は、水の魅力を生かしているか。
- (4) 模型やデザイン主旨をきちんとつづけているか。

第3課題

「水辺に佇むマイ・スペース
+ others」
（出題：菅原 遼、新田知生）

【課題趣旨】

マイ・スペースは文字通り自分のための空間でありながら、「+」の要素が求められます。それは自分以外の誰かとの接点を想定し、その場所を共有できることです。誰は1人でも複数人でもかまいません。人間はそもそも共同体です。そうしたコミュニケーションにこそ、「空間」や「場所」の意味があるので。その場所を訪れる人々に「素敵な何かを」と与える提案を期待します。

【設計条件】

計画地は、本学キャンパスより東陽高速線船橋日大前の北約600mの坪井近隣公園内に位置する。北西側は遊歩道に、南東側は調整池に面した、間口20m×奥行15mのなだらかな傾斜をもつ水辺空間である。休日はジョギングする人、家族で憩う人など、公共な広場や公園的な機能として賑わいがある。該当敷地は公園広場と水辺との間の水際に位置し水陸の環境要素と計画内容がどのような関係をもって魅力ある場所と成り得るかを計画するものとする。

- (1) 「マイスペース」という定義は住まうスペースではなく、趣味や遊び、自身のアトリエやギャラリー、リスニングルームなどプライベートに活動する場所をイメージする。各自でストーリーを設定すること。自身がかわるスペースであれば

設定は自由。

- (2) 「+」はマイスペースにパブリックスペースをプラスすることを意味する。例えば誰かを招いたり、皆でくつろいだり、地域の人たちが休憩できる場所でもよい。誰かと共有される価値を付与すること。
- (3) 水辺を積極的に利用。水辺の水質はきれいな状態であると想定する。建物と水辺との動線は必ず確保し、水辺と岸辺、陸地など場所性をとらえ、関係を深める提案を行う。
- (4) 計画地：千葉県船橋市坪井町1371
- (5) 敷地面積：300㎡（約90坪）
- (6) 延床面積：30～100㎡（ピロティ・外部階段・テラス・バルコニー・庇等は面積不算入）
- (7) 構造：自由
- (8) 階数：自由
- ・地盤は表層から支持地盤となり得る良好なものとする。
- ・電気・ガス・上下水道は供給済み。
- ・建築基準法、都市計画法などの関係法規は適用外とする。

【提出物】

- A2判ケント紙横使い4枚。以下のうち①に1枚、②～⑤に3枚を割り当て。
- ①表紙：設計趣旨や計画説明を文、図（スケッチ・パース等）、写真で構成。
 - ②配置図：1/100（建築物を屋根伏で表現し、道路、隣地、遊歩道、池との位置関係を示す）
 - ③平面図：1/50（各階平面図。1階平面図には外構計画を表現する）
 - ④断面図：1/50（2面以上。1面は水際線を横断し、水域と建物との関係を表現する）
 - ⑤立面図：1/50（各面4面以上）
 - ⑥模型：1/50（プレゼンテーション用。池・遊歩道など周囲もきれいに作成し、建築はこの地盤にしっかり固定すること。現物提出、採点後返却。写真は①に貼付）
- 図面は鉛筆描きを原則とするが、彩色（インキング）も可。

■講評

●「足に灯すひかり」薄暗い箱の中に何やら怪しい不陸と、上空にうがたれたランダムな穴。一見すると気持ち悪い空間ですが、よく見るとそれはクロックスサンダルです。不陸はプラスチック状の滑り止めとなっており、穴は空気抜きとなっている様子がよくわかります。

●「生産者側」大変よく描かれています。これは、どうみても扇風機でしょう。残念なことに、マイクロ人間が乗っ

ているであろう、空間が扇風機としてわかりやすすぎる構図のため、丁寧な表現ですが課題の趣旨とは離れてしまいました。もっと羽先の近いところに立ち、上からの中心のモーター部分がダイナミックに迫ってくるようすと面白い構図になったと思われます。

●「ソントブカッキ」丁寧に密度濃く描けたスケッチです。これは一体何を表しているのでしょうか？ そのヒントは円柱とその先にあるとがった金属の刃のようなものです。これは、爪切りの奥にとらわれたマイクロ人間が空に脱出しようとしたまさにその瞬間を描いたモノと推察されます。

●「紙だけの世界」柔らかい布のような壁と高質な垂直の壁に囲まれ、上空

にはわずかな光が差し込む空間。よく見るとこれはボックスティッシュの中です。布のような部分はティッシュであり、垂直の壁も紙の箱だったのです。質感とプロポーションがよく描けている作品です。

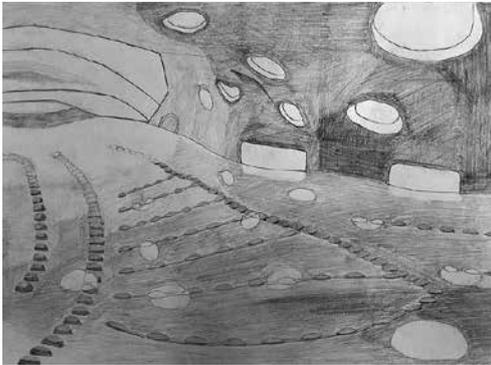
●「針が落ちる」この作品は、危機迫る映画の構図のようです。よく見ると指のようなモノもあり、針のようなモノが何かに刺さっています。そうです、これはステープラーの内部から紙の先端を止めようとするまさにその瞬間を捉えた空間です。

●「ゴミ処理場」悪者にとらわれたマイクロ人間が、今まさに危機を迎えています。そんな緊張感のある構図となっています。これは、鉛筆削りの回転す

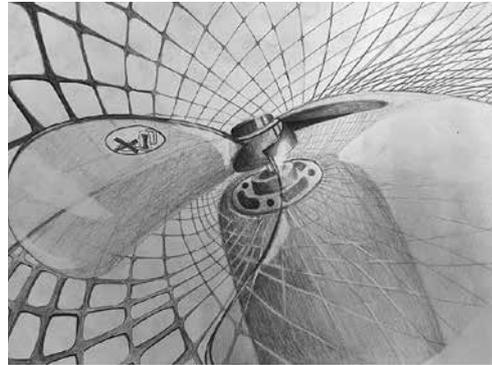
る爪が丁寧に描かれています。

●「色えんぴつ」ミサイルのように整然と並んだ兵器が今まさに飛び出ようとする瞬間、のよう感じられます。正義の使者であるマイクロ人間が、この危機的状況を打破しようとしているように空想できます。よくよく見るとそれは色鉛筆です。タイトルが見たままなので、一工夫ほしい点が残念です。

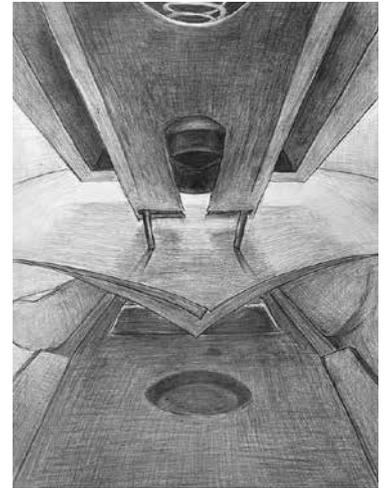
●「メモリー」まさにSF映画に出てくるような近未来的な構図です。無機質な凹凸と天井に穿たれた四角い穴。マイクロ人間の秘密基地から地球を救うために飛び出す、その瞬間のようにも見えます。これはUSBメモリの差し込み口であり、金属の硬質な感じが丁寧に描かれています。 (佐藤信治)



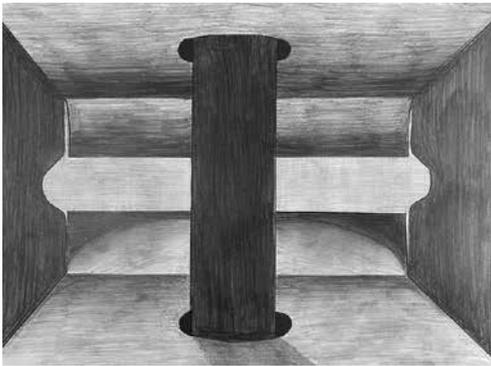
稲毛皓輝「足に灯すひかり」



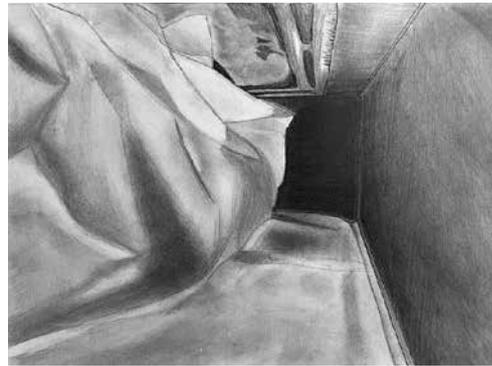
金井和奏「生産者側」



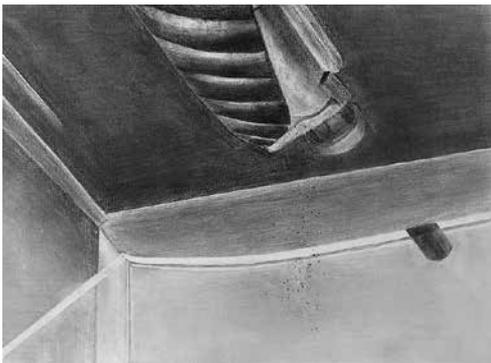
松本日菜子「針が落ちる」



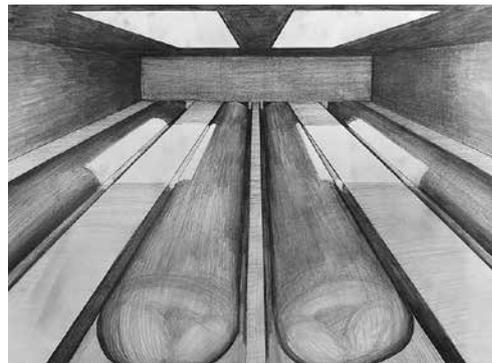
佐瀬智之「ソントブカッキ」



松下 毅「紙だけの世界」



川名神威「ゴミ処理場」



立石千遥「メモリー」



堀内大晟「色えんぴつ」

点、線、面から
空間をつくる

■講評

- 尾崎案：三角形の葉のようなフレームを複数架け渡している。それらの形状は、その接点の位置や接続されるフレーム同士の角度など細部までよく検討されている。この広場に降りてくる自然光により、交差してあらわれる影もこの作品の魅力である。
- 金井案：面材が直行方向で交わり空中に軽やかに浮かんでいる。光と影のコントラストも興味深い。このアイデアがうまく表現できているだけに、全

体に踏襲できなかったかと思う。要素を厳選することでもっと強い印象を与える作品になると思う。

- 立石案：線材によるHP曲面は包み込むような柔らかい印象を作り出している。地上を通過する時に頂部の局面が視線に入り、遠くからも近寄ってみたいくなる。繊細な部材配置は、実際にここに設置されたらと想像すると高揚感がある。
- 富永案：1本の線材に4枚の面材を風車のように並べ、面材の端部で連結していく。システムチックに組み立てられた空間は整然としていながらどこか自然のような雰囲気もあり、作者の言うように竹林の清涼感がある。細部に気を使い丁寧に考えられている。

●田中案：線材を積層させたルーバー状の壁体に面材を差し込むことで、語らい、休憩、移動、学習の場などさまざまな場所となる。使用者が自分たちの場として組み立てる自由度を提示した作品で、学生たちの活動が作品全体の形を絶えず変化させる。

●谷内案：線材を組み合わせて八角形と四角形のフレームを交互に配置した、遊具をモチーフにした作品。象徴的な奥行き感はいま表現できたが、その直行方向ではなっとく感じられない。多角的な空間を追求したい。

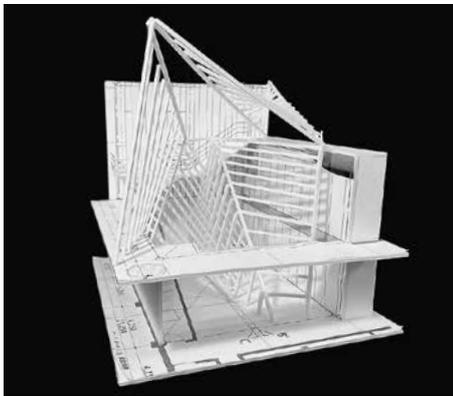
●仲澤案：単一の面材による階段状の空間。移動だけでなく段差に座って本を読んだり、立ち止まることもこの場所の楽しさとなる。二重螺旋の整然

とした佇まいは上手に表現できたが、並行する階段の先に何か仕掛けがあってもよかった。

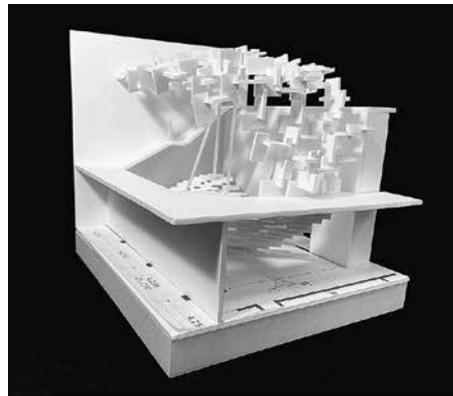
●永吉案：線材による渦状の空間。“流れ”により安らぎを与えようとしている。開放感の確保や光を透過させるための部材間の隙間は密度が高く透過性は高くなかった。どちらかというとき強い印象だが、これはこれでよくできている。

●八坂案：既存の床や階段と接続して、物見台のような空間にたどり着くようになっていいる。そこは学生たちの交流の場となる。どこかの公園にありそうな雰囲気だが、少々ラフに組まれたフレームは親しみが感じられて良い。

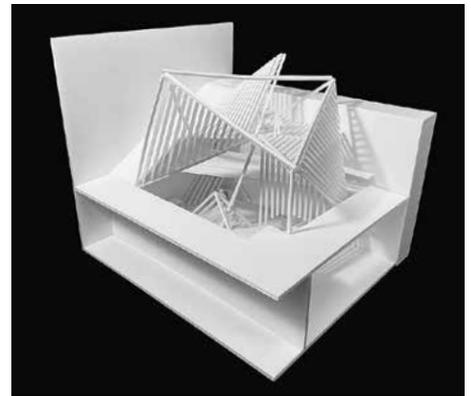
(川久保智康)



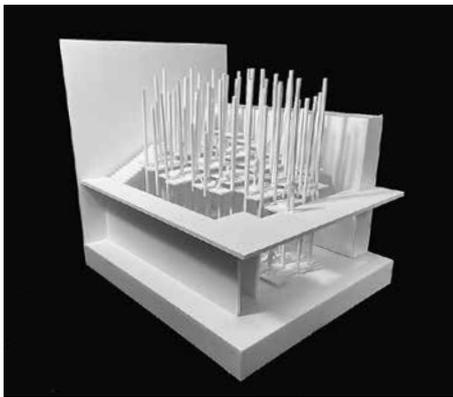
尾崎太亮「入り組み広間」



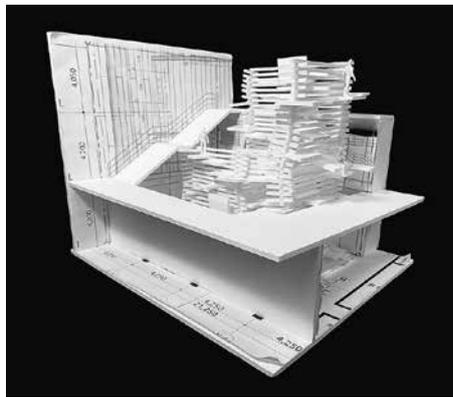
金井和奏「直角と並行から創る流動性」



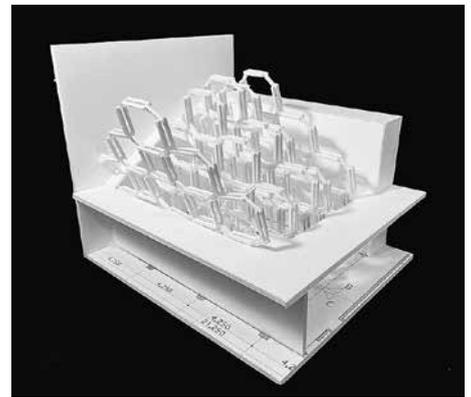
立石千遥「みせる」



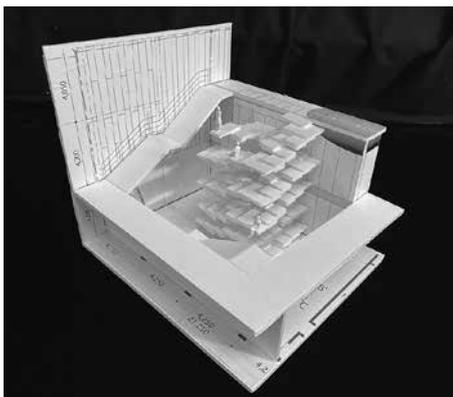
富永玲央「木漏れ日のある空間」



田中陽介「Free」



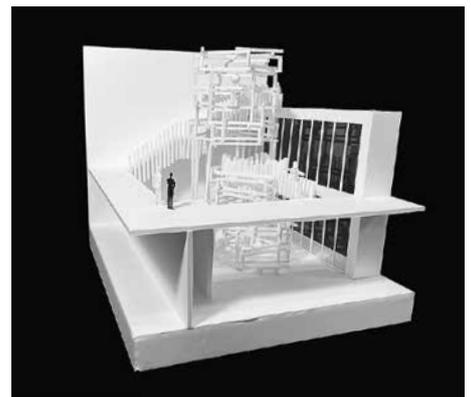
谷内颯真「遊び心を忘れさせない空間」



仲澤和希「二重らせん階段」



永吉琉瑛「ふたつの渦」



八坂柊吾「重なり合う空間」

熊本一希

「Natural flow」

■コンセプト

本提案では、水辺に近づき、貴重な自然を最大限に感じることができる憩いの場を設計しようと考えた。また、新型コロナウイルスの感染拡大以降、ヨガや筋力トレーニングなどの室内運動を行う人が多くなっていったため、マイスペースとしては、落ち着いて、自然の中で運動に取り組む感覚を味わえる空間を設計したいと考えた。まず、

公園に訪れた人の動きを制限しないように建物の屋上を階段で覆った。階段は人の流れを生み出すだけでなく、休憩場所としての自由な使い方が可能となり、自然と水を最大限に感じることができる場となっている。また、建物は3つの半円による曲線形状とすることで、自然に溶け込み景観を損なわないものとした。大きな半円を2階建てとし、1階をマイスペースとすることで、運動に取り組む広い空間をもうけた。壁にはハニカム構造の開口部をもうけることで、外部環境を眺めることができ、どこにいても自然を感じることができるようになっている。

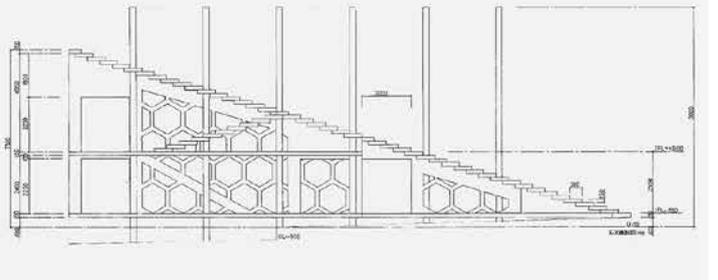
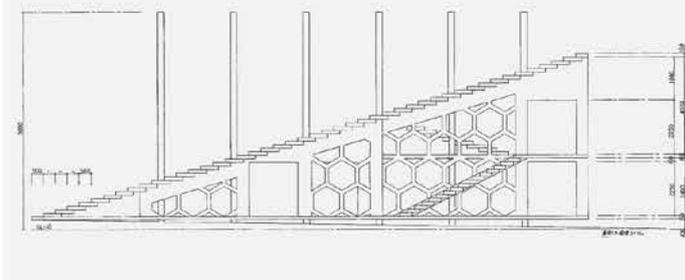
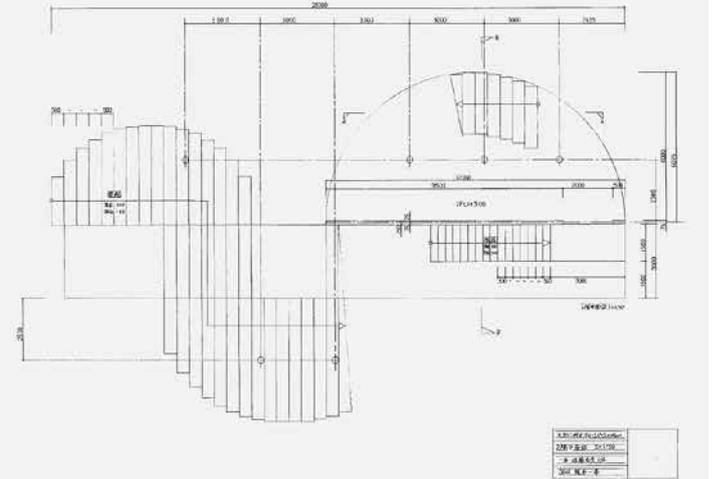
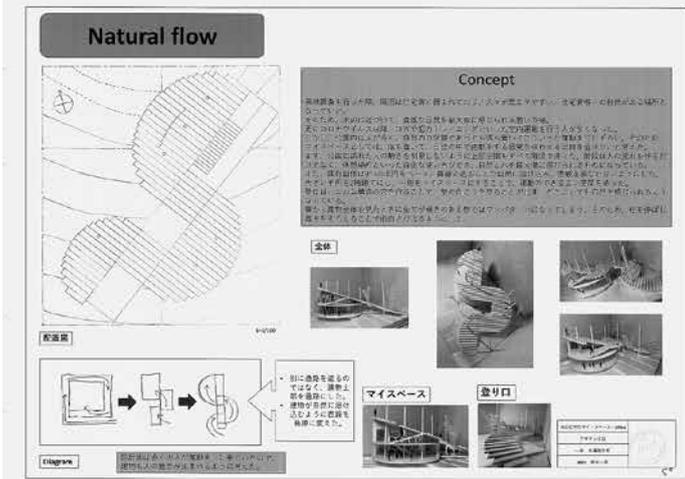
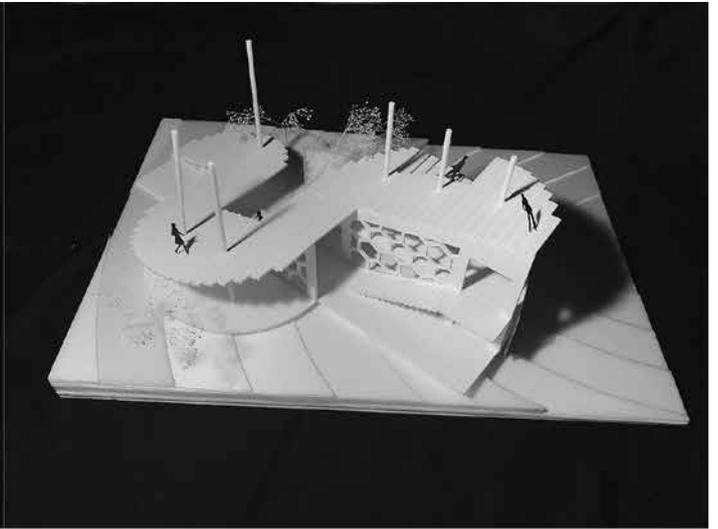
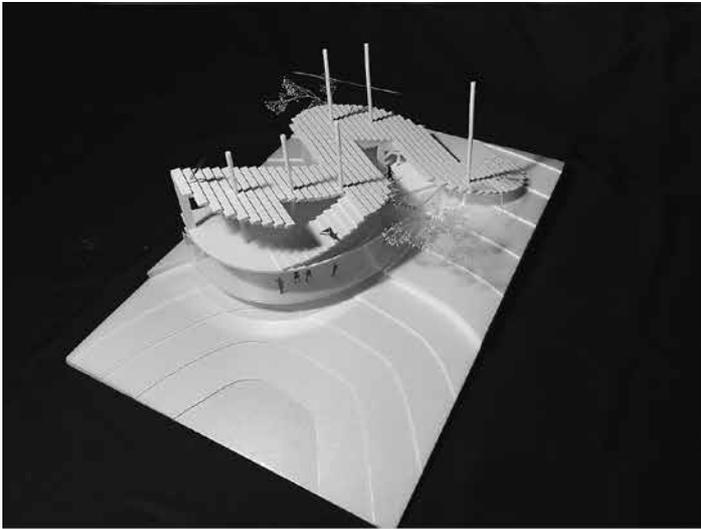
■講評

本課題はマイスペースの他に、+ others とあるように、自分と他者との向き合い方がテーマとなっている。自らの立ち位置すら不明確な大学1年生に他者との位置づけを考えさせるという課題はかなり難しく、さらにここに水辺との関係も考えなければならぬことは学生にとって大きな壁となっている。

しかしながら、自分が何者であるかを見るためには他人の視点で考えた方がわかりやすいという場合もある。そ

こで本提案である熊本君の作品を見ると、水辺に近づきたい自分と、空に向かいたいという自分の乖離した欲求が表現されていることがわかる。さらに、空への欲求は曲がりくねっており一筋縄ではたどり着けない。また、水辺へは一度階段を上ってからでないとはたどり着けないような構成となっている。このような、人間の行動をアフォーダンスする形態操作のおかげで、自分の欲求とそれに介する+ others がつかず離れずの関係性を保ちたいということが詩情豊かに表現されている。こうした計画意図がきれいな図面表現とともに精緻な模型にも現れており、作品の評価を上げている。

(佐藤信治)



ベーシックデザイン演習 第3課題
水辺に佇むマイ・スペース
+ others

富永玲央

「Another Room」

■コンセプト

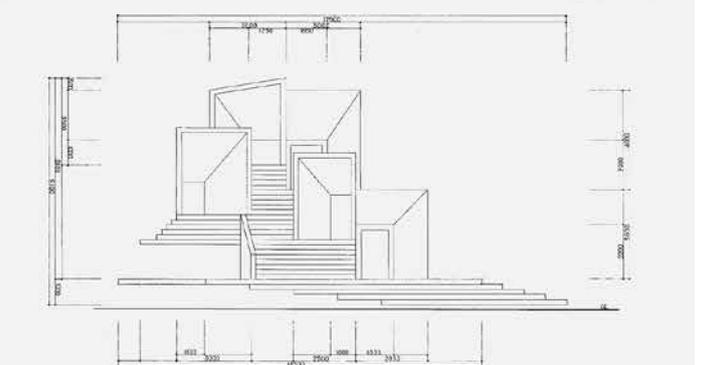
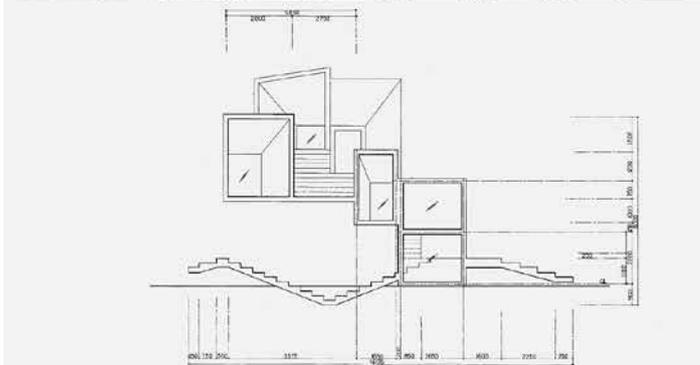
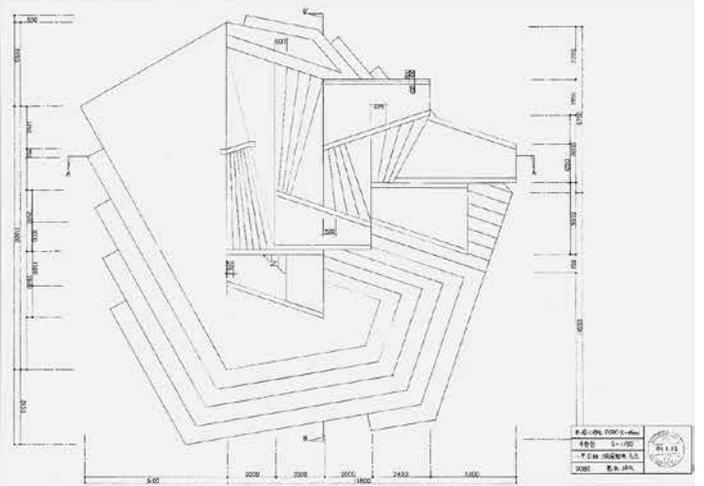
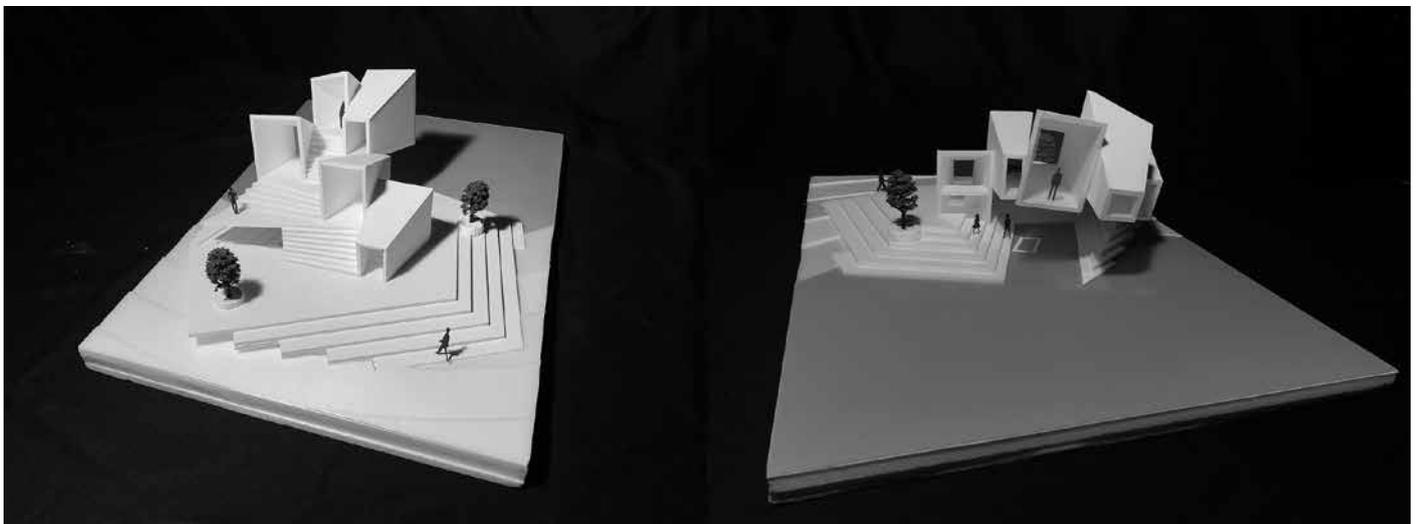
公園には、本を読む老人や広場で遊ぶ子どもたち、ベンチで世間話をする家族など、さまざまな目的をもった人々が集まっている。しかし、本課題の計画地である公園の中には水辺が存在しているが、公園に集まる人々は水辺とは離れた場所で活動を行っていると同地調査を通して感じた。そこで、人々が自分たちのマイスペースを

見つけ、自分のやりたいことに集中できるような空間、そして、公園に來訪した人々が自然と水辺に集まり、水を景観要素として楽しむだけでなく、水を感じることができる建築物をデザインしたいと考えた。また、この建築物は、自分の部屋のように落ち着くことができる空間であるため、もうひとつの部屋という意味である「Another Room」というタイトルとした。

■講評

この課題は毎年1年生の最後に出題されていて、初年度の腕試しの機会となっている。自分と他の何かが+（プラス）されて共鳴するような空間を考えて表現する。また水辺の親水性について初めて考える機会でもある。計画地は大学近くの公園にある池のほとりで、近隣住民の運動や子どもの遊び場として利用される憩いの場である。富永案は、メガホン状の小さな空間を組

み合わせることで、全体としての形を構成している。跳ね出した構造は一見ダイナミックでありながら、一方で植物が光を求めて水面を這うようなしなやかな印象も受ける。とても興味深い造形になっていた。メガホン状のシンプルな空間ユニットの大きさや角度を少しずつ変える操作は、水辺の景色が広がって現れたり、また落ち着きたい時は閉じていくような空間を選ぶこともできる。効果がきちんと考えられていて、なかなか緻密である。作者曰く直感的なアプローチによる作品とのことだが、スタディーの結果が上手に表現されていて、計画のリアリティーも評価できる。何より彼の建築に対する志向を感じる力作である。(川久保智康)



2年生（前期：デザイン演習Ⅰ、後期：デザイン演習Ⅱ）

【担当】 佐藤 信治
小林 直明
菅原 遼
小野 和幸
勝又 洋
金子 太亮
川久保智康
木内 厚子
高野 洋平
玉上 貴人
筒井 紀博
鶴田 伸介
森田 敬介
山田 晶子

デザイン演習Ⅰ（前期）

第2課題

「環境と住空間を考える
一親水公園沿いに建つ住宅―」
（出題：高野洋平、木内厚子）

【課題趣旨】

社会的な背景を踏まえて現代の家族像や生活スタイルを考慮しつつ、周辺環境や景観を配慮した住宅の設計を行います。住まい手の個性を最大限に活かす住空間をイメージし、これからの『住まい方』の提案を求める課題です。

敷地は江東区門前仲町付近、古石場川親水公園に面した古くからある街区。都心に近く生活の利便性が高く、富岡八幡宮や深川不動尊の門前町で江戸の下町の風情を残した地域です。それぞれ一方向で接道し、運河跡をなぞる親水公園の散歩道や広場とは視覚的なつながりを持っています。公園と敷地は約1.2～2.5mのレベル差があります。

【学習目標】

- ・現代の家族のありかたや生活スタイルを考える。
- ・住宅空間のスケール感、単位空間や基本寸法を習得する。
- ・エスキースからプレゼンテーションまで、設計プロセスを学ぶ。
- ・住宅としての機能を満足するだけでなく、空間的魅力を考察する。
- ・製図記号等の図面表記のルールを理解し、建築図面の作図および表現の方法を習得する。

【敷地条件】

- (1) 東京都江東区牡丹3丁目24-6周辺
- (2) 準工業地域
- (3) 建ぺい率60%、容積率300%
- (4) 最高高さ制限10m以下
- (5) 第3種高度地区、準防火地域、下町水網地域
- (6) 構造は自由。地盤は良好

【設計条件】

- (1) 生活スタイルは各自自由に設定。

- (2) 家族構成は夫婦+子2人の4人以上の家族を想定。2世帯も可。
- (3) 駐車スペースは1台以上設置する。
- (4) 家族それぞれの寝室（個室）、および居間、食堂、台所のほか、収納等生活に必要な諸室を計画する。
- (5) 各室への動線をよく考えて計画する。とくに家事動線に配慮する。
- (6) 各屋の大きさは適宜設定を行う。
- (7) 家族の距離感や関係を配慮する。
- (8) 内部と外部の関係や、親水公園や近隣住民との関係を十分考慮する。
- (9) 各敷地にはそれぞれ特徴があり、その敷地を活かした計画を行う。
- (10) 延床面積120㎡～150㎡程度。階数制限なし、最高高さの制限を守る。

デザイン演習Ⅱ（後期）

第1課題

「街のアートミュージアム」
（出題：筒井紀博、玉上貴人）

【課題趣旨】

東京都立木場公園内の計画地において、街のアートミュージアムを計画するものである。課題タイトルに「街の」とつけているのは、街の顔となり、地域とつながりを持つ建築の提案を求めるためである。アートミュージアムが街にどのような影響を与えるのか、選定した展示コンテンツにふさわしい空間の質はどうあるべきか、敷地の特性を読み取り、より具体的なイメージを膨らませながら図面を描いてほしい。

【計画敷地および周辺条件】

計画地面積：3,842.20㎡

- (1) 敷地形状、接道条件、周辺状況等は添付資料敷地図を参照。
- (2) 現況は都立木場公園として利用されており地盤の起伏が2mほどある。設計においては更地として計画。
- (3) 計画地中央に仙台堀川が流れるが、河川内の建築計画も可とする。

- (4) 用途地域：準工業地域、建ぺい率60%、容積率300%、準防火地域。
- (5) 電気・ガス・上下水道完備、地盤良好。

【計画建物設計条件】

- ・延床面積：約1,000㎡とする。
- ・構造形式は自由。階数制限はとくになく、必要によって階数も可とする。
- ・周辺の公園空間や河川との関係性を活かした外構計画をすること。
- ・車いす来客用兼作品搬出入用として、駐車場1台分を設けること。一般来客用駐車場を計画する場合は適宜。
- ・駐輪場を10台以上設ける。必要面積は設計資料集成などを参照のこと。
- ・広場、テラス、中庭、水盤、東屋、屋上庭園等、適宜自由に設けてよい。

第2課題

「水と共に生きる集合住宅」
（出題：金子太亮、勝又 洋）

【課題趣旨】

木場公園仙台堀川沿いの敷地に水辺との関係性を配慮して集合住宅を計画するものです。複雑な社会状況下において、「水辺に集まって住まう」とはどうあるべきなのでしょう。これまでのように親水空間をつくってたんじ集まればよいというわけではないかもしれません。水と共に暮らし、共に生きていく喜びを感じられる集合住宅を提案してください。

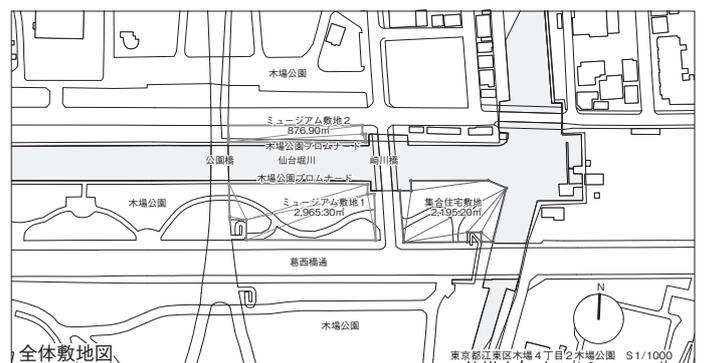
【計画敷地および周辺条件】

計画地面積：2,195.20㎡

- (1) 敷地は、添付資料敷地図参照のこと。
- (2) 敷地条件は準工業地域（建ぺい率60%、容積率300%）。防火地域。
- (3) 電気・ガス・上下水道などは整備されている。地盤は良好である。
- (4) 現存する敷地内の建物は、更地として計画する。

【計画建物設計条件】

- (1) 鉄筋コンクリート造、地上3階建て以上5階建て程度の中層集合住宅。
- (2) 規模は80人が集まって住むために必要な戸数とし、1戸の床面積および間取りの設定は自由。
- (3) 住戸形式はフラットタイプのほか、メゾネット、トリプレット等、立体的な住戸形式としてもよい。
- (4) 入居者同士の交流や、広く地域に開放できる利用方法を提案する。
- (5) 共用エントランスには、メールコーナーを設ける。
- (6) 共用部として、管理員室・ゴミ保管庫・ポンプ室などを設ける。
- (7) 直通階段やバルコニーで二方向の避難経路を確保する。
- (8) 延床面積を算定すること。外気に有効に開放され、屋内の用途に供しない部分は延床面積に算入しなくてよい。
- (9) キッチン、浴室、トイレは適宜設置。
- (10) 水辺との関係性に配慮して計画。



デザイン演習 I 第2課題
環境と住空間を考える
 ー親水公園沿いに建つ住宅ー

安藤大翔

「交わる家」

■コンセプト

歴史、素材との「交」

本提案は、現代的な要素としてRC造、下町らしい要素として縁側、江戸の伝統模様である麻の葉の木組みをパーテーションとして表現することにより、これらの要素をランダムに組み合わせることで多様な要素が交り合う現代の下町・門前仲町を住宅全体で表現した。

自然との「交」

2階に大きなルーフトラスを設けることで自然との交わり、親和性を表現した。また、公園との調和や親和性を生み出すことを目的に屋根部に芝生を敷いた。

人、地域との「交」

まるで親水公園の延長線上にあるような階段状の敷地に広いオープンスペースを設けることで、下町らしい人と人との交わりが生まれる空間をつくり出した。

彩な住まいのシーンが想定されている。上下階では閉鎖性と開放性を対比させ、各室の個性をさらに強調している。襖や障子に用いられるしきりは、日本の住まいに馴染み深い。緩やかにしきるスクリーンを組み合わせ、外部空間を取り込んだ中間領域をつくることは、住まい方や家族の在り方の変化を十分に許容できるであろう。

2020年度前期は、コロナ禍における生活スタイルの変化を学生とともに模索し、議論を重ねたタムであった。換気通風を確保し、人との距離感を保ちながら、身体感覚として心地よい建築の在り方を探る思考過程から、現代におけるプリティブな暮らしが提案された。(小野和幸)

■講評

本課題は、下町の雰囲気の色濃く残す門前仲町界隈の計画敷地において、周辺の低層住宅や、かつての運河の遺構である親水公園との関係性に配慮した住まいを計画する課題である。

安藤案は、整形な敷地に角度を振った配置計画とすることで周囲に余白をつくり、周辺環境との適度な距離感をつくらうとする計画である。大小2つの高さを持つ木製スクリーンにより、敷地内外の視線を制御しながら、庭に面する部屋、公園を望む部屋など、多

交わる家

形状

長方形の合わせた形状の各階をあえてずらして配置し、複数のパーテーションを角度を変えて設置することによってくつろぎの余剰空間を作り出した。

南側に大きく開けられた開口部の前に設置した大きな木組みのパーテーションが時間によって変わる光の変化と、通り抜ける心地よい良い風、緩やかなプライベート空間をもたらす。心地よい空間づくりを意識して設計に臨んだ。

西側面

一階部分のオープンスペースをガラス張りすることで、道路から親水公園に向けての視線を遮らない開放感と空間の広がりを出した。また、一直線に伸びる一階階下、ガレージから玄関に抜ける土間、縁側部分の大きなガラス扉など部屋全体に風が入り込むような配置を意図した。

南側面

一階部分には大きな縁側と庭のある開放的なオープンスペースを、二階部分にはコンクリート壁で囲まれた閉鎖的なプライベート空間を設定した。

自然との「交」

二階部分には一階からせり出した大きなルーフトラスを設置することで自然との交わり、親和性を表現した。また、公園との外観の調和、親和性を強い屋根にも芝生を敷いた。プライベートを保ちたい二階部分にも開放感を与えるために、ガラス張りの通路を取り囲むように道路側にはコンクリートの壁を、公園側には大きなパーテーションを設置した。通路部分を広く設定することで気候が良くないときは室内でもくつろげるような空間を作り出した。

東側面風呂前

人、地域との「交」

まるで親水公園の延長線上にあるような階段状の敷地に大きなオープンスペースを設置することで、下町らしい人と人との交わりが生まれる空間を作り出した。

北側面

3つの「交わり」

法橋礼歩

「公と私達」

■コンセプト

新型コロナウイルスによってリモートワークが広がっている。リモートワークでは、家という環境下において、子どもであったりペットであったり仕事に影響を及ぼしかねないものが多く存在する。そこで、家と仕事を明確に分け、仕事場を「離れ」のような配置にすることで「公私」に空間的な距離をもたせ、仕事をするときの気持

ちの切り替えや集中を促すものとした。

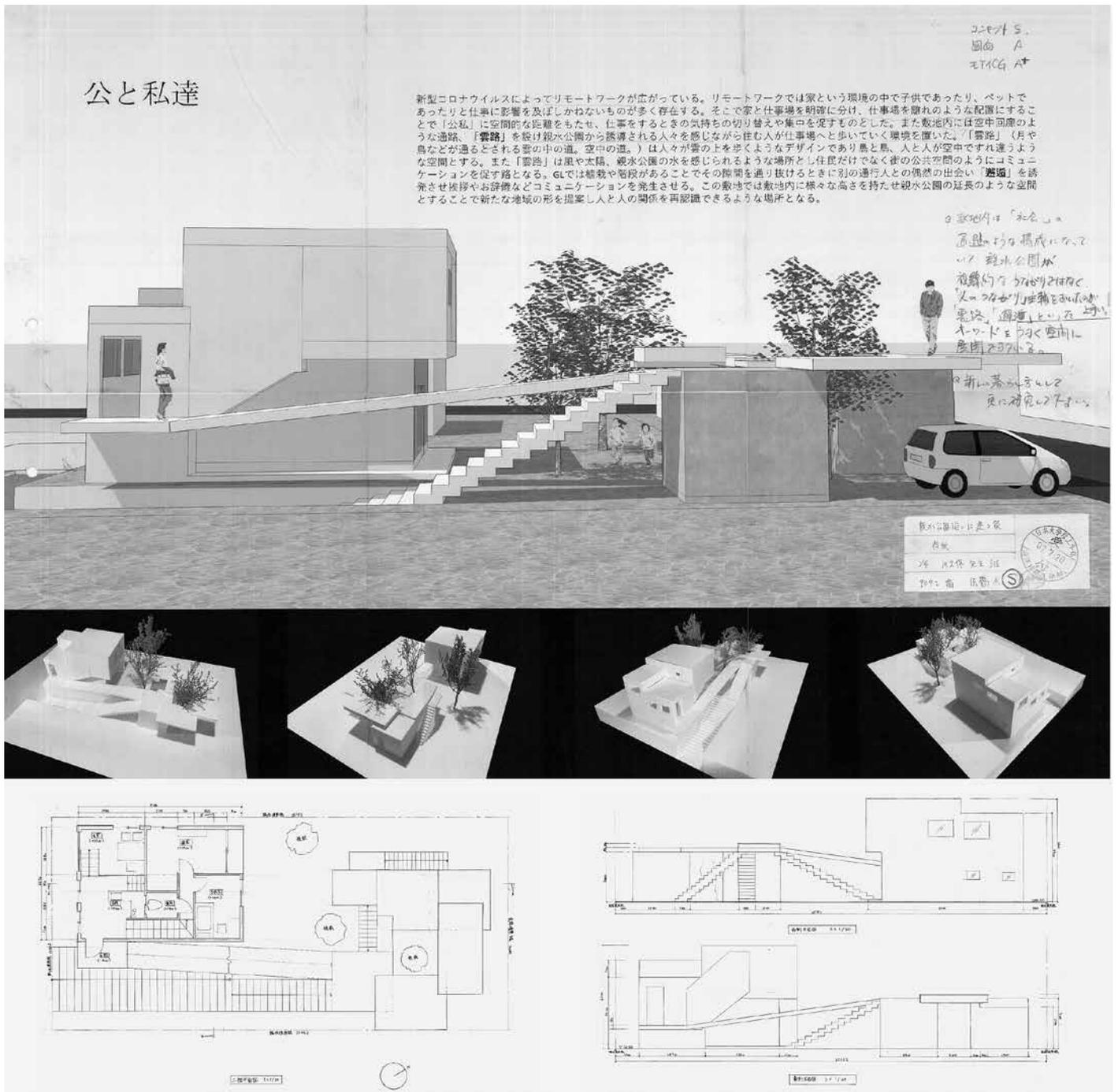
敷地内には空中回廊のような通路として「雲路」をもうけ、親水公園から誘導される人々を感じながら住む人が仕事場へと歩いていく環境を生み出した。「雲路」は人々が雲の上を歩くようなデザインであり、鳥と鳥、人と人が空中ですれ違うような空間とした。また、「雲路」は風や太陽、親水公園の水を感じられるような場所とし、住民だけでなく街の公共空間のようにコミュニケーションを促す路となる。

■講評

門前仲町界限、運河の面影を残す親水公園に面して、3つの計画地が設定されている。学生たちはそれぞれに選択して提案を行う。法橋案は、リモートワークの機会を前向きに捉えて、職場を住宅内に持ち込まれる「社会」として取り扱い、計画地内に住宅棟と職場としての別棟を点在させることで、公私の距離感を保とうとしている。世界的なパンデミック禍での住宅計画と

いうこともあり、この手の解法は多かったのだが、この案が評価に値したのはその点在する棟間に生じた空間であろう。親水公園から街路へと通り抜けできる計画地を選定し、親水公園との高低差をスロープを用いて解消しながら北側の街路へと開放する。さらにそれらを立体的につなぐ空中回廊を設置して、より強く社会との結びつきを求めた。回廊は意図的に幅や高さを制御することで偶発的なコミュニケーションを発生させようと試みている。住宅という言葉は「私」の空間に、「公」の距離感を重ねることで新しい価値を与えている。コンセプトを表現するキーワードもよく考えられている。

(川久保智康)



久野祐璃

「街にとけ、ひろがる」

■コンセプト

敷地調査の際に、屋外でのびのびと過ごす地域の人々の姿を見て、ここではミュージアムを主体とするのではなく、敷地の環境を活かして自然豊かな公園に寄り添うような建物をつくりたいと考えた。

そこで、計画敷地と川のレベル差が大きいと感じたため、敷地を円形に掘り下げて空間つなげる工夫をした。掘

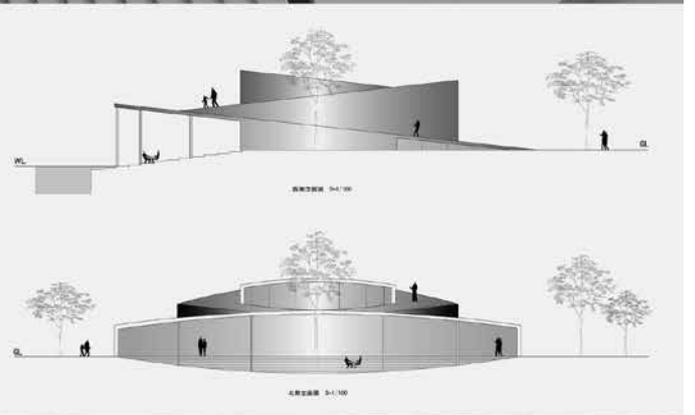
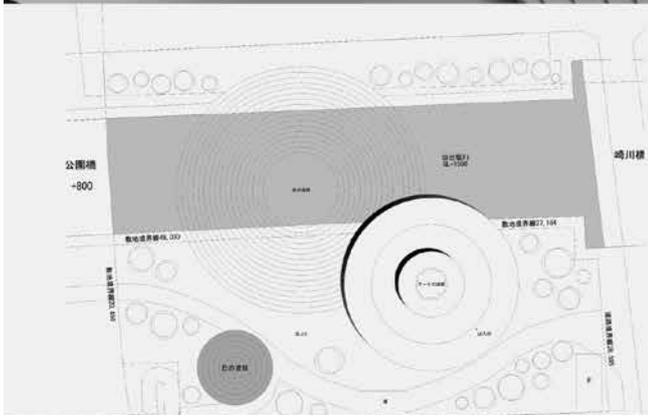
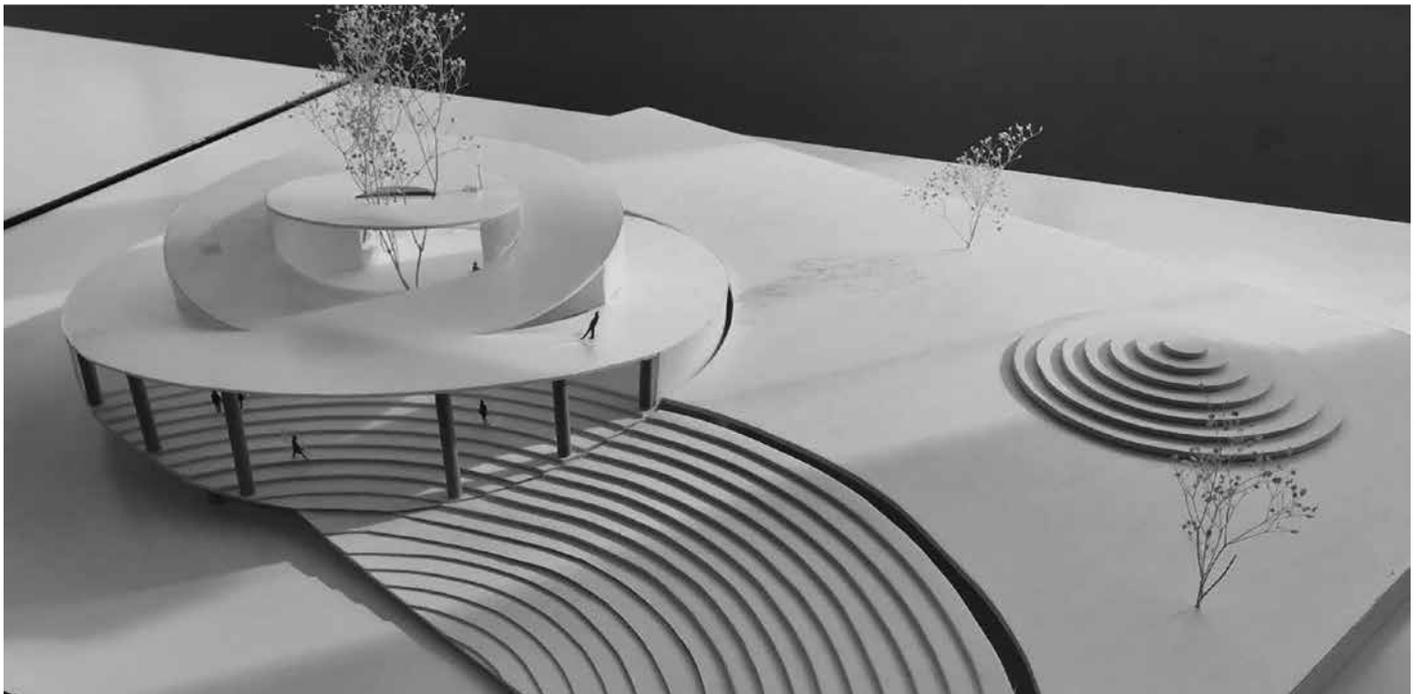
り下げは、波紋をイメージし、この水の波紋を広げることで、川で分断された敷地に一体感を持たせることができる。波紋は人々が水辺に近づくきっかけとなる。そして、水、アート、丘の波紋を重ねることで敷地全体を楽しめるようにした。自然をアートとして捉え、箱根の森美術館のように屋外アート展示を中心とした展示を想定している。展示テーマは「水」、環境、社会、経済、科学といったさまざまな側面から水を捉えた作品を展示する。水をアート作品として可視化することで水の大切さを学ぶことができると考えたからである。また、波紋＝円は始まりと終わりのない形であり、連続性や永遠を表す。これからも永遠に残り、波紋

のように広がっていく美術館にしたいと考えた。

■講評

波紋をデザインモチーフにしたシンプルで明快な建築である。円という形状を面的に広げ、浮遊させながら丘のような建物を立ち上げ、これを水辺に寄り添うように上手く配置した。川を挟んだ広大な敷地に対し、公園に馴染

ませながら敷地全体を大らかに扱い、建物そのものは程よいスケール感でまとめあげている。視線の抜けや展示室への光の取り込み方、柱の表現など、細部まで気を使うことができれば、より完成度の高い作品に仕上がっていた。建築とは、たんに格好が良くて奇抜なデザインを提案をすればよいものではない。設計者がその場所に訪れる人々の視点に立ち、創造を膨らませながら「場所と時代にふさわしいかたち」を導き出すことが大切である。この作品の模型を見たときに、「実際にこんなアートミュージアムがあったら気持ち良さそうだなあ」と感じさせる、清々しい空気感のようなものが宿っていたことが印象的であった。（勝又 洋）



法橋礼歩

「箱と自然と人と」

■コンセプト

新型コロナウイルスによって待ち時間というものが変化している。美術館に入るためQRコードやWEBチケットを用い待ち時間をなくすことで通常の美術館とは異なる空間を提供する。展示室は6種類あり、敷地内を回遊することで複雑な動線が生まれる。展示室が箱として独立し、芸術家が1つの展示室やアトリエとして利用すること

で空間が創られる。思いもしない発見と芸術との出会いが芸術家と見物人、共に環境と作品を考えるきっかけとなる。

箱と川、箱と森、箱と人。展示室の箱はそれぞれの場所によって形態と仕組みをもつことでその場で生まれる美術品、会話、気配が多様性を生み出す。6つの展示室と3つのアトリエを芸術家は作品や季節、知名度などによって場所を選択し展示会を開く。人、時、作品が柔軟に変化し混ざり合う空間となる。

■講評

新型コロナウイルスのパンデミックを受けて新しい美術館のカタチを目指した提案である。法橋君は入館までの待ち時間に疑問をもち、スマホを利用したチケット販売の仕組みを用いて、待ち時間に発生する密空間から美術館を開放した。展示空間を6つに分解し、それぞれプロポーション、窓形状など

の違う箱を既存の公園の樹木、路地を残しながら分散配置した。樹木に囲われたり、水面に浮かんでいたり、水面を眺めたり、水面下にあったり、街路に面してショーウィンドウのようだったり、窓がないけど壁一面が開いたり、キャラクターの違う箱が公園の風景に馴染んでたたずんでいる。好きなタイミングで箱のアートを楽しむことができる。また対岸にアトリエを設けることで鮮度の良い作品を展示し、若手アーティストの育成の場としても利用される。

この美術館はありふれた公園をアート(箱)によってさまざまに拡張し新しい風景を創り出した提案である。
(金子太亮)



1. 回遊の美術館
現在、新型コロナウイルスによって待ち時間というものが変化している。美術館に入るためQRコードやWebチケットを用い待ち時間も変化させる。展示室は6部屋あり、様々なアクセスが可能である。

2. 美術館の拡張
複数の展示室が独立し、箱として存在する。ひとつひとつの箱は、芸術家が一つの展示室やアトリエを借りることで成立する。思いもしない発見と芸術との出会い。芸術家と見物人は共に環境と作品を考える。

3. 展示室の多様性
箱と川、箱と森、箱と人。展示室の箱はそれぞれの場所によって様々な形や仕組みをもつ。そこで生まれる作品、会話、気配までが多様性を生み出す。

4. 展示室の変化
6つの展示室と3つのアトリエが存在する。芸術家は作品や季節、知名度などによって場所を選択し展示会を開く。人、時、作品が柔軟に変化していき混ざり合う空間となる。

水面と箱 街と箱 水辺と箱

開く箱 森と箱 時と箱

デザイン演習Ⅱ 第2課題
水と共に生きる集合住宅

松井良太

「共有は「都合がよい」から「心地よい」へ」

■コンセプト

現在のポストコロナ時代にあたり、在宅勤務が世の中に普及した。コロナが終息しても、在宅勤務の動きはますます強まり、孤独になる人が増加するだろう。社会人にとって、オフィスは人とつながるコミュニティの場である。だが、在宅勤務により、オフィスに集まる習慣が衰退すると、リアルな人と

の接点を失い、孤立する人がますます増えてしまう。

この問題を解決するために、ワークプレイスと住空間を融合し、人と人がつながる集合住宅「白箱と木箱」を提案する。「白箱」は、最小限の要素でつくられた住戸である。住民1人につき、「白箱」が1つあるため、1人の時間、空間が担保されている。「木箱」は、シェアするリビング、ダイニング、キッチンの機能を持つワークプレイスである。人が集まる「木箱」では、水辺に点在させ、さらに豊かな空間にした。

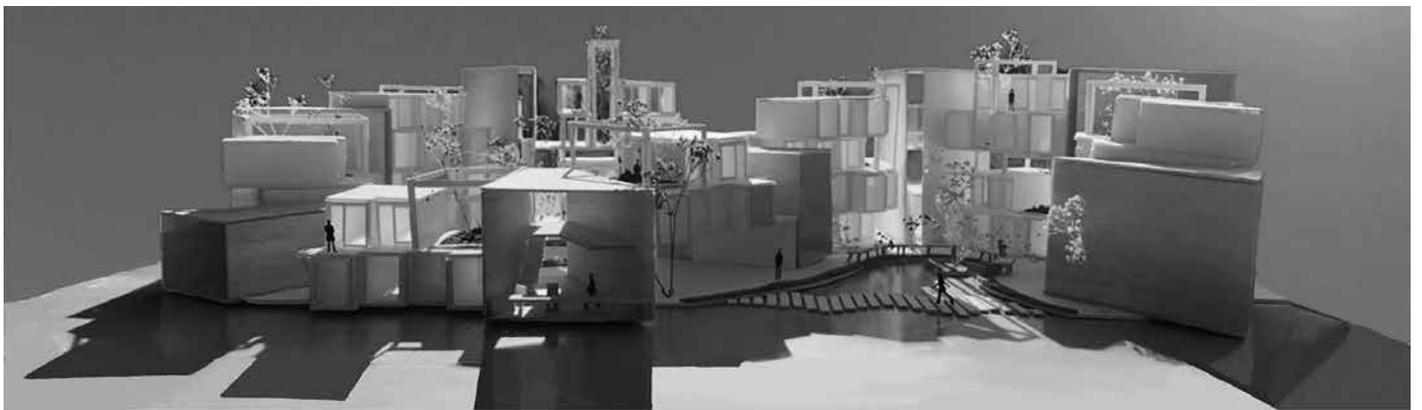
従来、経済面や物の不足に対応するために都合よく物事が共有されてきた。本計画では一緒に住まい、時間を共有

する心地よい空間を提案することで人とのつながりを促進させる。

が変容する社会背景を捉え、都市から切り離された私的な住空間ではなく、多様な生活を享受する都市と水辺空間を融合する場づくりが、シェアハウスの進化を予感させる。建築が機能から解放されたときに、その建築は自由を獲得する。「集合住宅」という課題に対し、閉塞する住人の活動を開放し、都市の活動と融和させながら再構築することで、「村」のような場を提案している。敷地をぐるりと取り囲むように配置した住空間は都市との接点を最大化し、中央にぽっかりと空いた広場は人々の自由な活動を受け入れる。箱が環状に連なるデザインには住人同士のつながりを保ちたいという作者の強い思いがあらわれている。(勝又 洋)

■講評

人々の価値観が揺らぎ、家族の形態



Site plan ~地域でシェアする2つの庭~



Concept ~パブリックとパーソナルのグラデーションにつなげる~

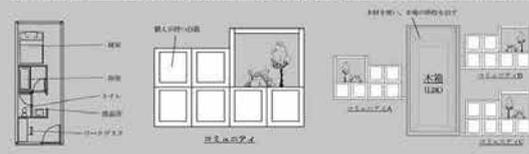
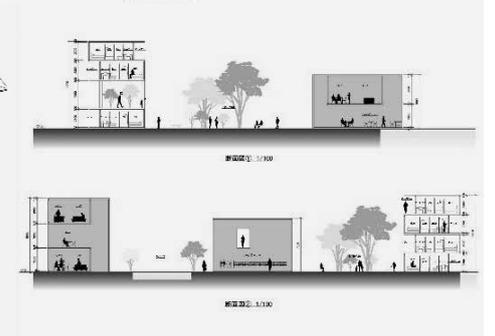
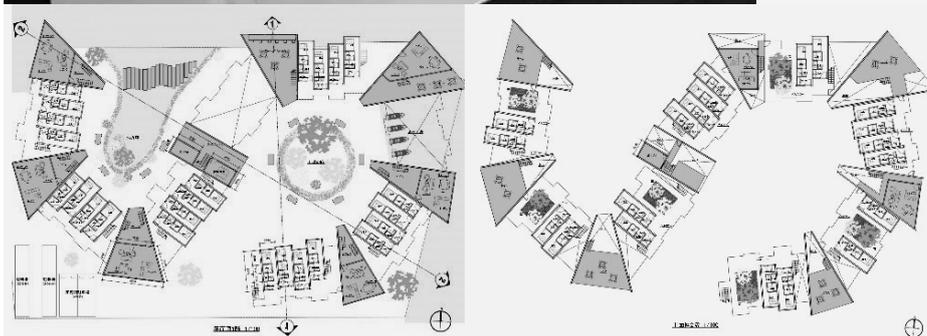


Diagram ~水辺との絡まりしろをつくる~



山田莉央

「分界」

■コンセプト

第1課題の敷地に隣接する形でこの第2課題に取り組む形だった。第1課題では子どもを対象に設計を行ったため、この第2課題でも子どもにスポットを当てた、3~4人を対象とした家族向けの集合住宅を設計した。また、L字型に河川が流れており、その向かいには公園の緑が生い茂っていた。そのことから、「水」と「緑」をどう捉

えるか、どう設計に取り込むのが課題だと考えた。

「水」と「緑」の両方の景観を維持するため「境界線」を作る。そして、その境界線ができると、「水」と「緑」の関係性が途絶える。そこ（分界した空間）に集合住宅を設計し、「水」と「緑」のつながりを再度紡ぎ出す。

片側には「水」を、その向かい側には「緑」を、それぞれの「純粋な美」を楽しむことができる空間を目指した。

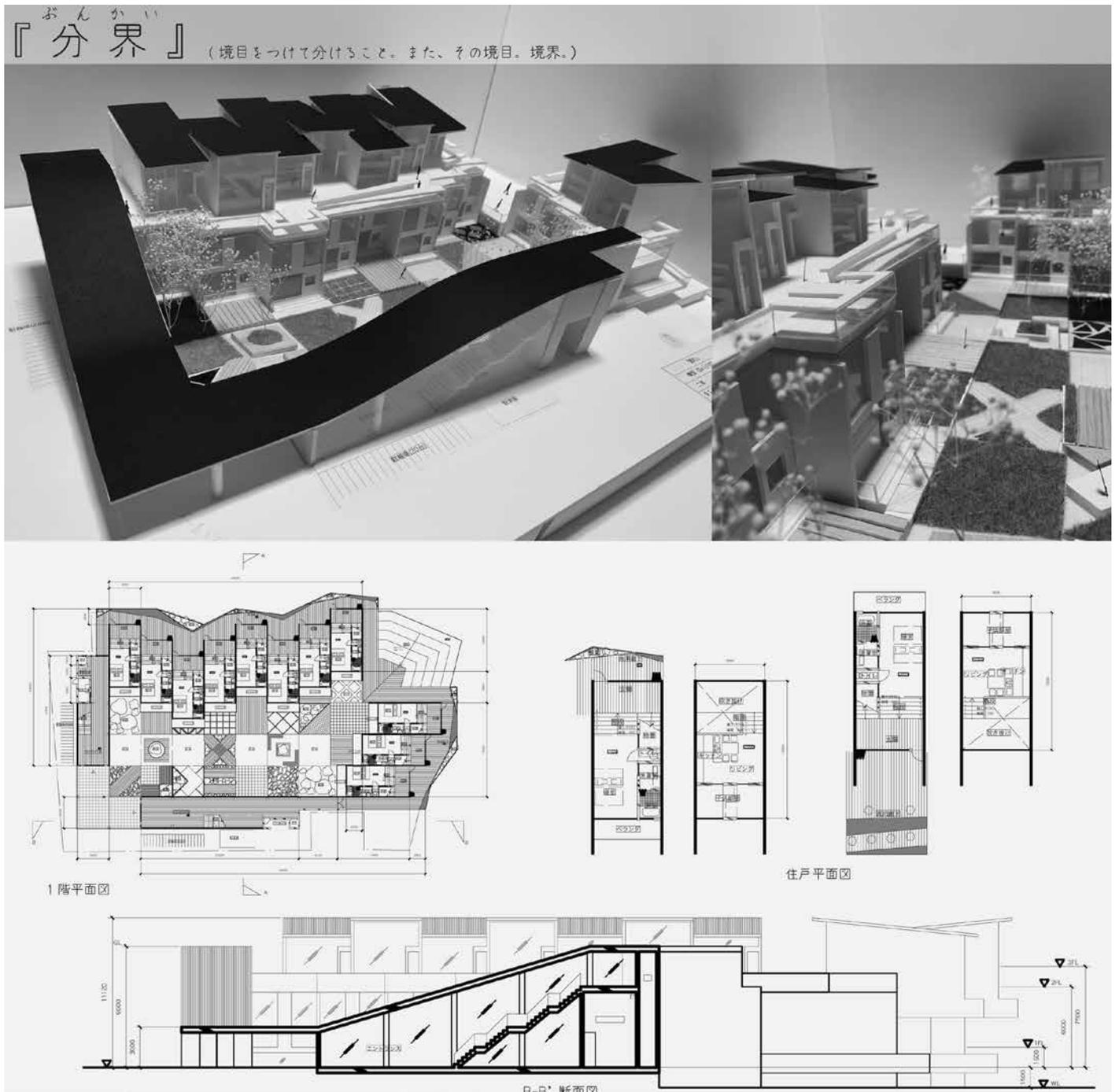
住戸を2層に分け、1層目は「水」から「緑」へと、2層目は「緑」から「水」へと流れていく動線、というように住戸によって異なる流れを設計した。流れをより強く印象付けるため、共用廊下と玄関の窓を全開可能とし、

半屋外空間へと形を変えることができるようにした。

を有する住戸計画で、水辺の景観を引き込んだ住戸と中庭の緑の景観を取り込んだ住戸の2つのタイプが計画され、採光通風に配慮された心地の良い住空間を創出している。1階の住戸は水辺側、2階は中庭側の屋外共用廊下からアクセスする。この提案では、廊下幅を広げてベンチやテーブルを設けて、住民のコモン空間としてコミュニティ形成、仕事場としての利用など、コロナウイルスにより、住まいに求める機能が変わりつつあるなかでこうしたコモン空間を有することが1つの回答になるように感じた。住戸の境界をあいまいにすることで、敷地内に多様な居場所を有した大らかな暮らしを提案する集合住宅である。 (金子太亮)

■講評

山田案は、周辺の環境から緑と水辺の境界を意識し、水辺に沿ってL型の境界を意図し、水辺に沿ってL型に雁行しながら住棟を配置し、道路側にエントランスゲートを設けて建物に囲われた緑あふれる中庭を創り出した。3階建ての計画だが、スキップフロア



3年生（前期：デザイン演習Ⅲ、後期：建築メディアデザイン）

デザイン演習Ⅲ（前期）

第1課題

「ハンマーヘッドクレーターミナル
周辺 海の駅計画」
（出題：内海智行、佐藤信治）

【課題意図】

海の駅とは、国土交通省により登録された、「海から、誰でも、いつでも、気軽に、安心して立ち寄り、利用でき、憩える」船舶係留施設である。当初は大型のヨット、モーターボート等の海洋レジャー利用環境整備や、情報のネットワーク化・提供を目的に設置が推進された。誰でも利用できる船舶係留施設、施設の予約受付案内担当者の配置、公衆トイレ等の設置の3点が必要最低登録要件となる。行政的解釈から休憩施設と地域振興施設が一体となった施設であり、単体としての機能に加え海の駅ネットワークの構築が図られるものと考えられる。加えて以下3つの機能が浮かび上がってくる。

- (1) 休憩機能 海路利用者が24時間自由に利用できる休憩施設の提供
- (2) 情報発信機能 来館者に対してその地域の文化・名所・特産物などを活用したサービスの提供
- (3) 地域連携機能 それぞれの地域（町）の核となり、海路を介した地域（町同士）連携の促進

課題は、この新港地区の突端で内水面の地形と眺望を生かしながら、将来の周辺開発を見据えた海上からの交通拠点としての機能を拡充する。設定敷地エリアは陸上で約9,000平米。内水面の左岸には大棧橋を補完する新たな旅客ターミナルが建設中であり、8万トン級の客船が停泊することになる。そうした環境を見据え、海上の結節点として公共性と賑わいを演出することのできる施設計画を求めるものである。

【設計条件】

- (1) 敷地条件

敷地形状、接道条件、周辺状況は、別添図面を参照。電気・ガス・上下水道は整備されている。地盤は軟弱であり、杭基礎とするが、耐圧盤下の表現は不要。敷地設定範囲外への提案については、各班ごとの指導による。

(2) 建築条件

構造形式は自由。下記程度の規模であれば、建ぺい率・容積率の考慮は不要。基本的に隣地および道路境界より1m以上セットバックさせる。

(3) 計画諸元

- ① 建築諸室：延べ面積約2,000㎡（各室面積の±10%を許容範囲とする）
・ 客用部門（計1,450㎡）：玄関ロビー（200㎡）、休憩ラウンジ（100㎡）、レストラン・カフェ（300㎡）、物産販売店舗（400㎡）、展示スペース（250㎡）、来館者用化粧室（80㎡）、廊下・階段・客用EV（120㎡）
・ 管理部門（計550㎡）：事務室（170㎡）、会議室・応接室（50㎡）、宿直室（15㎡）、給湯室・従業員トイレ（15㎡）、管理エントランス・廊下・階段・人貨用EV（100㎡）、倉庫（100㎡）
- ② 屋外施設：アプローチ、広場、散策路、植栽などを建築と一体のランドスケープとしてデザイン。来館者用駐車場は若洲キャンプ場の既存駐車場を利用するが、専用駐車場として大型車用5台、身障者用5台、サービス用10台程度の駐車スペース確保。

【提出物】

- (1) 表紙：作品タイトル、設計趣旨（テキスト・ダイアグラム、パース、スケッチ、模型写真等で明快かつ視覚的に表現）
- (2) 配置図（縮尺1/500）：建築物は屋根伏とし、外構計画を表現
- (3) 平面図（縮尺1/200）：各階平面、室名は凡例をつけて略号も可。1階平面図には周辺の外構も記載
- (4) 立面図（縮尺1/200）：4面すべて、影や素材等を表現

- (5) 断面図（縮尺1/200、1/300）：2面以上、水域と建物との関係がわかること（南北、東西）
- (6) 模型（縮尺1/200）：模型提出のほか、模型写真2カット以上を表紙にレイアウト
- (7) 内観パース：手描きでもCGでも表現方法は自由。1カット以上

第2課題

「水族館」

（課題担当：桔川卓也、長谷川洋平）

【課題趣旨】

海の駅に引き続き、ハンマーヘッド埠頭施設の隣接敷地に水族館を計画します。計画地は横浜の歴史ある風景を継承し、新たな文化や価値を生み出す出発地点です。横浜を代表する地域にふさわしいコンセプトを立案し、都市型である敷地の特徴を捉えた、魅力的な水族館の設計提案を求めます。

また、周辺施設である第1課題の「海の駅」からの導入や、後期の課題で予定している「リゾートホテル」との連続性に配慮し、一体的なランドスケープを描いた上で、来客機能、飼育・研究機能、設備機能、管理機能のソフトとハードの関係性を考慮した総合的な計画を求めます。

【課題のポイント】

- (1) 敷地条件の把握 立地、敷地の大きさ、施設規模、既存動線の位置を把握し、計画概要を捉える。
- (2) 基本的構成の把握 来館者スペース、管理スペースの関係性を捉える。
- (3) 水族館機能の検討 教育、研究、展示、アミューズメント機能の各ボリューム、動線を検討する。
- (4) コンセプトの立案 課題の趣旨に応じた明快なコンセプトを上げる。
- (5) コンセプトの表現 コンセプトを具現化した水際空間の設計、屋外を含む造形を行う。
- (6) プレゼンテーション 上記各段階

で何を考え選択したか、過程と結果を表現する。

【計画諸元】

- (1) 敷地面積：約11,453㎡
- (2) 延床面積：5,000㎡～6,000㎡程度
- ① 来館者部門：約3,000㎡（エントランスゲート、観覧室、展示水槽、レクチャーラーム、レストラン・カフェ、ミュージアムショップ、休憩コーナー、化粧室、退館ゲート）
- ② 管理部門：約2,500㎡（作業室、飼育室・研究室、事務室、会議室、館長室、宿直室、シャワー室、給湯室、更衣室・従業員用化粧室、管理用エントランス・廊下、荷解きスペース、設備機械室）
- ③ 屋外部門：（アプローチ、来館者駐車場、サービス駐車場）

【提出物】

- (1) 図面表紙
配置図：縮尺1/400
各階平面図：縮尺1/200
立面図（2面以上）：縮尺1/200
断面図（2面以上）：縮尺1/200
- (2) 模型および写真
- ① 模型 縮尺1/200
- ② 写真 キャビネ判4点程度とする。
- (3) 図面提出仕様
A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびダイアグラム、面積表並びに写真を貼ったものを表紙とし、レイアウト、着色は自由。図面表現はCADを基本とし他の表現との併用も可とする。

建築メディアデザイン （後期）

第1課題

「都市型リゾート機能を有したホテル」
（出題：小林直明）

【担当】 佐藤 信治
小林 直明
穴澤 順子
内海 智行
桔川 卓也
玉上 貴人
筒井 紀博
長谷川洋平
光井 純

【課題趣旨】

第1課題に引き続き、同じ計画地内の隣接敷地に「都市型リゾート機能を有したホテル施設」の提案を求めるものです。敷地東南側の大さん橋と山下埠頭では国の背策である観光立国を実現させるための一環として、横浜市によるIRの再開発計画が進められています。敷地も含め国内外の観光客誘致も期待されるエリアといえます。

現在計画および建設中の周辺施設を超える付加価値と、リラクゼーション&ホスピタリティを感じさせ、周辺環境に呼応しかつ、海の駅や水族館との相乗効果を図った魅力的な都市型リゾート機能を有したホテルの設計提案を求めます。

【設計条件】

- (1) 計画地 敷地面積：約11,350㎡
・敷地形状や接道条件、周辺状況等は別紙図面参照および現地調査による。
- (2) 計画内容
・延床面積：21,000㎡程度、建物の高さは、31m内とするが、さらなる高層、一部客室コテージタイプ（平屋・メゾネット）も可
・一部海側に張り出した施設計画、または敷地内に海水を入り込ませたラグーン形成も可
・構造形式は自由。木耐火構造集成材または木とS造・RC造とのハイブリット構造等も可
- (3) 計画諸元
*各部門、各室面積は参考例とし、適度な設定を行うことを可とする
*駐車場50台、サービス用5台（屋外および屋内・地下階の複合も可）
- ①宿泊エリア：8,500㎡
ツイン・ダブルルーム100室程度（40~45㎡）、スイートルーム（コテージも可）10室（120~150㎡）、通路、階段等
- ②パブリックエリア：8,300㎡
ロビー・共用スペース、レストラン、ショップ、宴会場・会議場（室）、

ジム・スバ

- ③管理エリア：4,200㎡
裏方サービス諸室、機械室、廊下・その他

【提出物】

- (1) 図面
配置図：縮尺1/400、各階平面図：縮尺1/200、客室平面図・パース：縮尺1/50、立面図（2面以上）：縮尺1/200、断面図（2面以上）：縮尺1/200
- (2) 計画概要（表紙）
①計画コンセプトに合致したタイトル。
②設計趣旨は簡潔に分かりやすく、ダイアグラム、フロー図などを交えて、ビジュアルに表現。
③各階の床面積（部門別）および延べ面積を表としてまとめる。
- (3) 模型および写真
①模型は、全体：縮尺1/400、部分：縮尺1/100程度、A1判サイズ仕上げ。
②写真は、キャビネ判4点程度。

第2課題

「マスタープランとランドスケープ」
（出題：光井 純、穴澤順子）

【課題趣旨】

敷地は横浜ウォーターフロントに展開する多種多様な既存施設に近接し、JR線やみなとみらい線など公共交通機関からのアクセスも良い利便性の高いエリアです。海の駅、水族館、ホテル、ランドスケープが一体となった、魅力あふれる複合開発をデザインし、横浜の新たなデスティネーションとなる設計提案を求めます。

課題はグループによる作業とします。アイデアを持ちより、議論や調整、作業分担のプロセスを経て、一つのグループ作品の完成を目指してください。

【課題のすすめかた】

- ①グループの各メンバーが三施設の課題成果物を持ちより、マスタープラン課題で採用する建築デザイン案を選出し敷地に配置。マスタープランの

視点から計画全体を俯瞰し、建築の機能的な相互関係性と連続性、意匠の一体性を検証。②計画地全体のコンセプト固め。課題敷地の開発計画に携わる設計者・デザイナーの立場に立ち、魅力的な再開発を具現化するためのアイデアやストーリーを、クライアントに訴えられるように、ロジックを構築。③計画コンセプトを実現するための空間イメージ集め。イメージ写真から、1)空間のスケール、2)空間の使われ方、3)空間を創りだすデザイン要素などを読み取り整理することで、マスタープランやランドスケープデザインに生かすことができます。④骨格をつくるにあたり、軸、ノード、シークエンス、ビューコリドールなどの基本的なデザイン手法を学び、計画案に反映。⑤敷地内を人々が自由にかつ活発に往来できる動線を計画。敷地外のどこから人や物が入り、移動するかの理解と整理が重要。「歩者分離」の思想に基づいた道路・園路計画、駐車場配置に留意。⑥高木、中木、低木、地被類など、植物自体の特性やスケールがどのように空間デザインに生かされるかについての理解を深める。樹木のないエ

リア、樹木の密なエリア、樹木の粗密感も空間デザインに大きな影響を及ぼします。⑦ウォーターフロントの開発においては、水際空間のつくりかたが、開発地の環境向上、空間の質、人々のアクティビティの多様化に作用します。人と水との心地よい関係性の構築をこころがけた屋外空間のデザインを行ってください。

第3課題

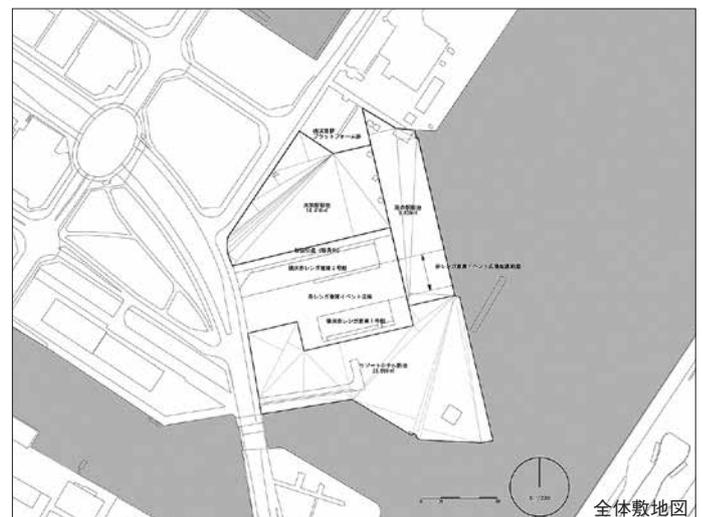
「プレゼンテーション」
（出題：光井 純）

【課題趣旨】

年度を通じて学習したことを総括する学習として位置づけ、これまでのすべての課題の成果を一つのプレゼンテーションとしてまとめて説明する技術を学ぶための演習です。

【課題の想定】

課題敷地のマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、東京オリンピックに向けてこの江ノ島の敷地を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対してデザインプレゼンテーションを行う設定とします。



太田優人

■コンセプト

「海」と「陸」の間に海の駅はたたく。海と陸の違いはなんだろうか。海から上陸してきたとき、陸にしかないもの「地面」と「植物」と「建物」、そして「道」を見たときに初めて「陸に上がった」実感が湧くのではないだろうか。その「道」を中心にこの海の駅は物語られる。

大屋根を支える柱は、巨大な樹木から連想し、地面のエネルギーの力強さ

を感じる。

また、巨木はあいまいな境界を生み出し、空間に広がりを持たせる。そして巨木に沿って寄り道をするように、展示スペースや物産販売店、レストランなどを経由する散歩道“promenade”が巡る。自由に、好きな場所からアクセスし、行き止まりを作らない。

海の駅は、船乗場であり、駅である。大空間から圧迫された空間へ誘導され、普段とは違う乗り物に乗る特別感や期待感がいっそう強くなる。逆も然り、上陸し、建物に入れば前方に赤レンガ倉庫からみなとみらいまでのカーテンウォールの大パノラマを臨む。カーテンウォールは景色を透過し、「海」と

「陸」の中間領域に光を注ぎ、両者を結んでくれる。

■講評

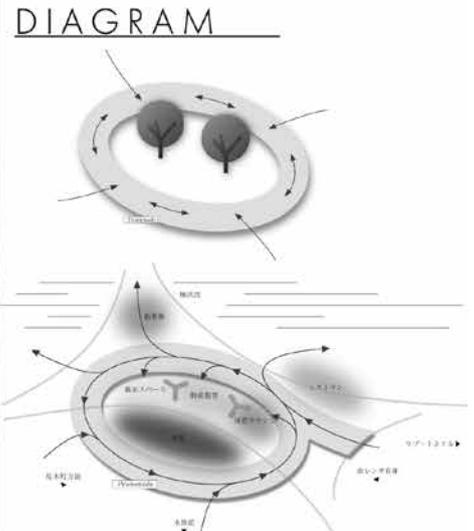
この作品の特徴は帆船を思わせる軽やかな屋根の形状と、中庭を囲みながら諸機能を包括する低層の建物との美しい対比が端的に表現されている点である。またプロムナードと命名された回遊式の動線による全体構成は、来客とBOHの動線とが繋がりがつつも、綺麗にゾーン分けされたわかりやすい構成となっている。

パースでも見られるように、海を包み込むよう展開される屋根のデザインは海辺の賑わいに空間的な秩序を作り出す。軽やかな屋根の下の空間は、そ

こに居るだけで快適で楽しい空間となっている。とくにレストラン空間は、海へと漕ぎ出す建築全体の雰囲気がよく表現されている。屋内の樹木の幹と呼ばれるV字の柱が天井を支えているように見えるが、実際の屋根構造はやや不明である。またV字の柱は空間のプロポーションや軽やかさを目指す意図からすると、やや重厚に思える。またこれほどのスパンを支えるには、さまざまな工夫が屋根構造に必要となるだろう。

しかしながら、水辺の良さを室内に取り込んだ軽やかな空間イメージと、よく整理・洗練された平面計画は完成度の高いデザインへと結びついている。

(光井 純)

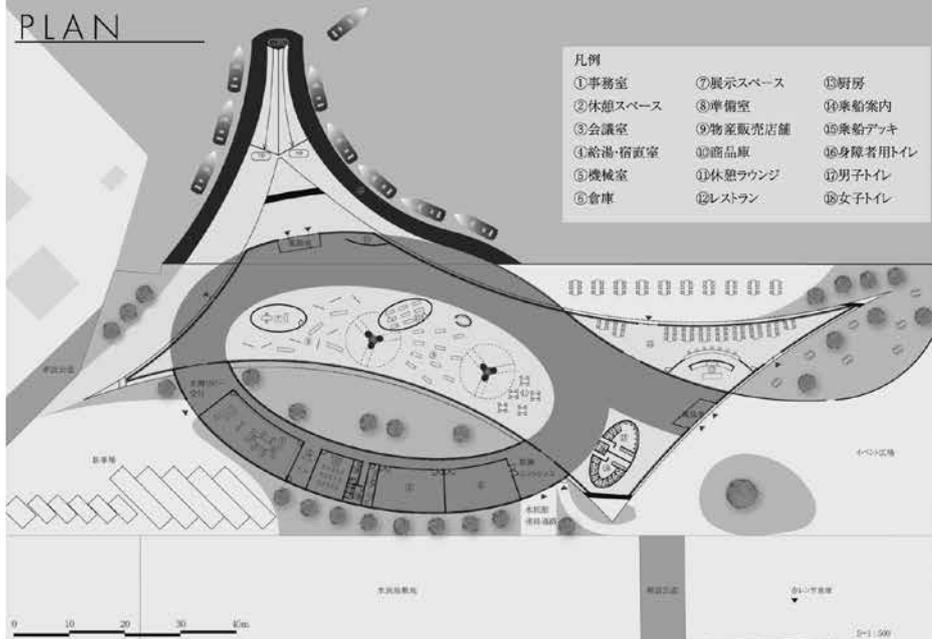


Promenade

並木道を散歩する感覚で、連続した空間を、自由に、好きな場所にアクセスできるように回遊性のある切れない動線を作る。

樹木の幹

大屋根を支える柱は樹木の幹を連想させ、大屋根は木陰のような空間を演出する。それぞれのエリアの隔たりの曖昧さが、解放感を作り出す。



望月 柚

■コンセプト

計画地は日本大通り駅から徒歩10分、みなとみらい駅からは徒歩20分と交通の便が悪く、地域の人々の集客力が商業施設としては弱い。そこで初めに横浜市のまちづくりに目を向けた。横浜市中区では水際線へ向かう水・緑が整備されており、今後のまちづくりでも緑豊かな環境を目標として掲げている。ここから本計画でも緑の豊かさに重点を置き、さらに四季を意識することで、

各季節で新たな表情が生まれ新鮮味を感じられる。これによって何度でも足を運びたいような施設となる。商業施設として集客力を高めることはもちろん、地域の人々が気軽に訪れ、コミュニティを形成できるような施設を目指した。また、躯体を積み重ねるようにボリュームを作ることで縦軸の動線が複数生まれ、訪れるたびに異なる道を楽しむことができる。ボリュームを雁行配置とすることで単調さがなくなり外部動線にも動きが生まれる。施設内はスキップフロアを設け大きな吹き抜けを作ることで開放感をもたらした。複数の動線と四季折々の景色によって人々の憩いの場となるような海の駅となる。

■講評

海洋建築工学科では、3年生前期で「海の駅」を題材に初めて「公共建築」の課題に取り組むこととなる。2年生まで取り組んできた「特定の使い手のためにつくる住宅課題」との設計手順の違いを理解することができずに課題を取り組んでしまうことが多い。

そんな中、望月案は計画地である「みなとみらい」のまちづくり計画を把握し、現状課題解決と将来の都市構造の発展を見据えた計画である。

広域的な視点を持ちながら周辺のランドスケープと一体的に建築物をデザインし、敷地内・外の動線、さらには

建物の内と外がつながっていくような提案である。

どんな建物でも、敷地の歴史や特性などを綿密に調べ、市民（使い手）の意見に耳を傾けながら、それらの与条件を再構築しつつ、建築のデザインに反映していく能力が設計者として求められる。

望月案は、このような設計プロセスとして重要な事項をきちんと踏まえてながら建築の提案に落とし込んでいる。

建築によって都市の抱えている問題を解決し、敷地の持っているポテンシャルを引き出そうと試みた望月案は、「このまちの海の駅」として公共性の高い建築の在り方に対応できていると考え、高く評価した。（桔川卓也）

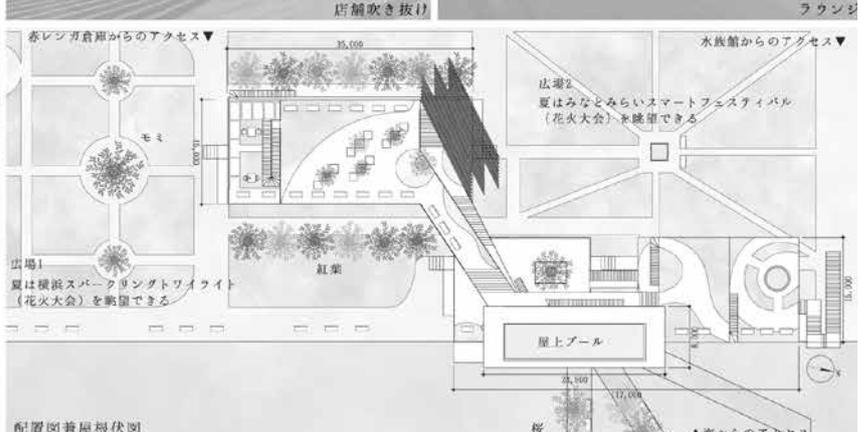
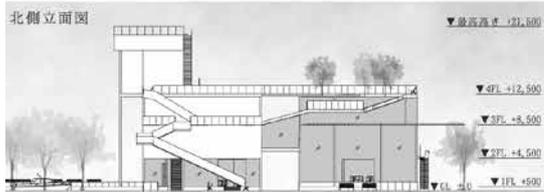


計画概要

横浜赤レンガ倉庫は駅から徒歩10分と交通の便が悪く、地域の人々の集客力が弱い。横浜市中区では水際線へ向かう水・緑が整備されており、今後のまちづくりでも緑豊かな環境を目標として掲げている。そこで緑の豊かさに重点を置き、四季折々に表情が変わり、何度でも足を運びたいような施設を提案する。商業施設として集客力を高めることはもちろん、地域の人々が気軽に訪れコミュニティを形成できるような施設を目指した。

数多の動線

箱の重なりと抜けた空間により外部動線が数通り生まれる。内部空間から外部空間へ出る動線を含めるとさらに空間のつながり方が広がる。これらが何度訪れても異なる動線を利用でき、新鮮味へとつながる。



関 亮太

■コンセプト

山に雨が降り人里を流れやがて海に注ぎ込み再び蒸発し、雨になって降ってくる。森と海のつながり、山と河のつながりの中を循環する水の流れを展示空間とした。水の循環と生き物のつながりをテーマに、水が巡回していく様子と水とともに生きる海洋生物をスロープで緩やかにめぐりながら観察できる水族館をコンセプトとした。

横浜の海を浄化するフィルター機能

を持たせることで、環境への負荷を軽減し、人と海の緩やかなつながりを設計する。

水族館の構成としては、旧税関事務所の頭上に同じ面積の巨大な水塊を設けることによって来館者は巨大な水塊に圧倒されるとともに、かつて海であった横浜の姿に思いをはせる。

緩やかなスロープにより上下階をつなぐとともに、ぐるぐる巡回した後、屋上中央から降りてくるという一本書きの動線計画となっている。

■講評

この水族館のプロジェクトにはいろいろなメタファーが込められている。

1つ目は建物の核となる大水槽が、か

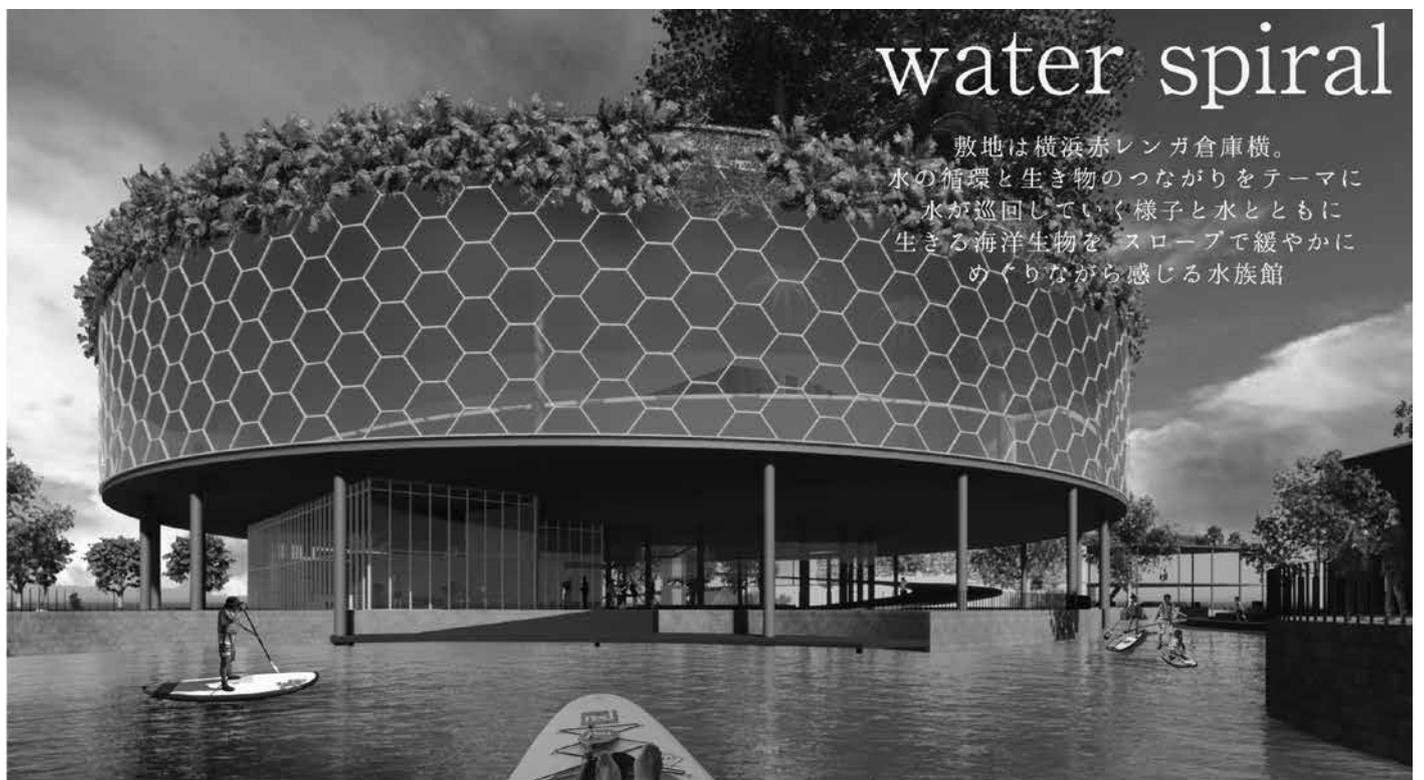
つてこの場所に存在した税関事務所の平面形状を立体的に立ち上げた形をしていること。次に地球上の水の循環をテーマに、横浜湾の海水を館内に取り込み浄化し、水質調整を行うことで展示水槽の水として利用していること。そして屋上から下階へと重力によって流れる水に並行し、観客動線をスパイラル状に構成していることである。そうしたすべてが、横浜で生命を展示する水族館をデザインするという基本的な取り組み姿勢につながっている。屋上に最初の水源を暗示する森を設え、さらに水族館の外観では水分子の共有結合をモチーフにするなど、よく考えられたデザインである。

また全体の形状はスパイラルのスロ

ープに沿って円筒型になっており、ガラスの円筒が空中に浮遊する形状となっている。近接する赤レンガ倉庫の直線的な形状に対し、シンプルな円形は都市の風景としてもコントラストが効いていてなかなか面白い。

スパイラル状の動線は外観のガラス面に沿って配置され、水槽展示を楽しみながら、同時に横浜湾の風景が楽しめる工夫がされている。屋根からゆっくりとスパイラルの動線を辿って降りると、最後には外部へと解放されパースにあるような水のアクティビティを楽しむこともできる。図面の完成度も高く、デザインの背後にある物語もしっかり作られた秀作である。

(光井 純)



water spiral

敷地は横浜赤レンガ倉庫横。
水の循環と生き物のつながりをテーマに
水が巡回していく様子と水とともに
生きる海洋生物を、スロープで緩やかに
めぐりながら感じる水族館

CONCEPT

山に雨が降り人里を流れやがて海に注ぎ込み雨になって降ってくる
森と海のつながり、山と河のつながりの水の流れを 展示空間 とした

旧税関事務所 の頭上 に同じ面積の巨大な水塊を設けることにより
来館者は巨大な水塊に圧倒されるとともに
かつて 海であった 横浜 の姿に思いをはせる

DIAGRAM



今はほとんど存在感のない税関事務所

税関事務所跡の上空に巨大な水塊遺構を残しつつタッチプールを作る

スロープにより上下階をつなぎ屋上から降りてくる一本書きの順路

RELATION



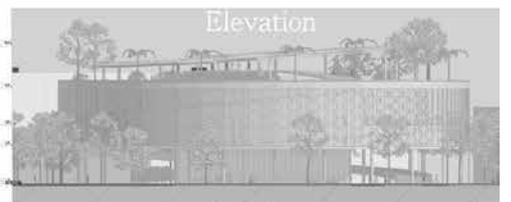
SITE



Circulation



Elevation



Section



齋藤瞬汰

■コンセプト

水族館には、永遠のテーマである「海の中にあるような空間を作る」ということがある。この考えは、水域との境界を限りなく無くして間近で感じてもらうためではないだろうか。しかし、人間は水槽というガラスの中の水域を超えることができない。なら、逆なら可能ではないかと考えた。つまり、水槽側が人間の活動空間の建築を取り込むようにして、水槽側が人間と水域

との空間の境界を変える。それは、水槽内に本来人間が活動している人工物や空間が溶け込むことで境界を変化させることが可能になる。例えば、街中のビルを見上げた時に、そのビルの合間に水域が存在してビルの合間を魚や海獣などの海の生物が空を飛ぶように自由に回遊する。このような光景は、フィクションの世界でしか見えないがこの景色を現実で生み出すことで、水域と人間の境界を完全には消せないが新たな感覚で水域と人間の境界が今までとは変化したと感じてもらえると考えた。そこで私は、未来で起こり得るかもしれない水没した都市という境界が混雑した形を水族館に落とし込む。

■講評

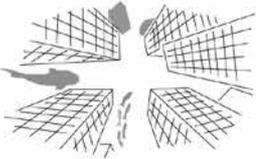
“海中に居るように感じられる水族館”はこれまで多くの学生が挑んできたテーマである。その手法はさまざまだが齋藤案は「図と地の反転」という操作により解決を計ろうとしている。つまり建築の中に水槽を点在させる一般的な水族館の考え方を反転し、水槽の中に建築を点在させることでビル群の合間を魚が泳いでいるシーンを作り上げた。彼はこれを「水没都市」と呼び将来起こりうる災害時の姿も予見し

ている。少し深読みするならば魚が空を飛んでいるという比喩から物語性を感じ取ることもできれば、魚が人を観察する、という哲学的な問いかけも孕んでいるように思わせる。そんな想像力をかき立てる案である。点在させた複数のキューブ状の観覧室を水の流る感じさせる曲面状の外壁で囲んだ構成はコンセプトを明快に伝えていて秀逸である。一方でダイアグラムとして描いてはいるもののその水没感を伝える表現が足りないのが悔やまれる。この施設で得られる体験をもっと視覚化できれば、心に響く魅力的な案になったのではなからうか。それだけの強度と可能性がこの案にはあると思う。
(玉上真人)



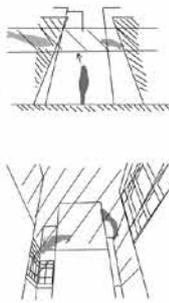
水槽と建築

人間は、水槽という水の境界を超えることができない。しかし、建築なら可能ではないかと考えた。つまり、水槽側が人間の活動空間である建築を取り込むように空間の境界を超えていく。



水槽の位置

建築の隙間に、水槽を配置している。そうすることで、水域との境界が混在するため、館内を魚が泳いでいるように見える。だから、建物内から外を見れば水域が見え、まるで館内が水没しているように錯覚する。



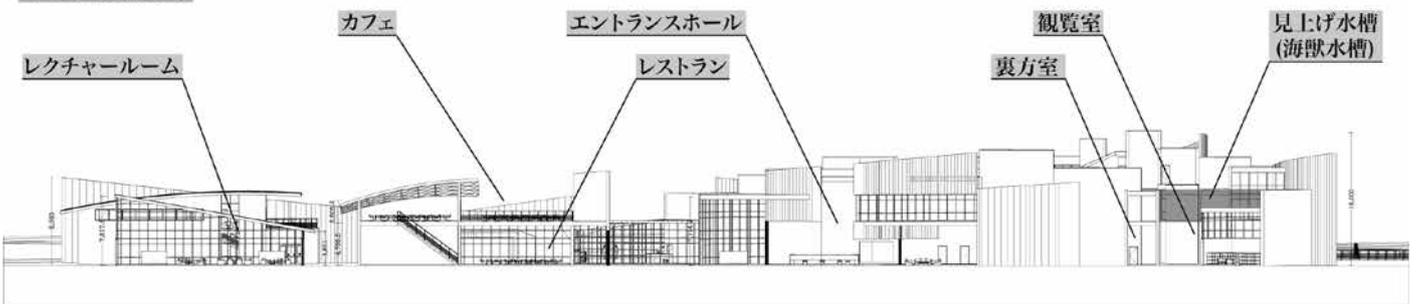
ゲストが感じられる魅力

従来の水族館で観察する魚がいつも見ている場所にはない。それは、水槽内ではなく、建築のという感覚だ。だから、「そんなところを泳ぐのか」という驚きを与える。これが水没する水族館の魅力である。

内観パース



水族館断面図



太田優人

■コンセプト

日本において、外国との貿易を中心として栄えた横浜は幾何学的な街計画が行われてきた。幾何学にはそれぞれ次のような意味を持つ。

1. 円：始まりも終わりもないため、完全形・永遠・完璧さの普遍的な象徴で、神・地球を循環する水・生のサイクルを示す。「円」は、決して途切れることのない連続性や永遠を表す。
2. 三角形：三角形は数字の3と象徴

体系を共有し、始まり・中間・終わりを表す。母親は子どもを産み、育て、成長させる。同じように三角形も「成長」や「拡大」をもたらす意味を持つ。

3. 四角形：世界を構成する数。四大要素「火」「土」「風」「水」、春夏秋冬を表す四季。人間の身体を構成する「頭」「胴体」「脚」「腕」の4つの部分、東西南北の4つの方位、キリスト教の象徴である十字架など世界の完全性を表す。
4. 渦巻き・螺旋・流線形：地球の自転、つむじ風、渦といった自然の強い力と関連付けられる。「渦巻き」は、魂が永遠の生命に向かって進化していくことを象徴する。

■講評

本計画案は、横浜の赤レンガ倉庫に隣接する敷地に建つ都市型リゾートホテルである。ホテルの周辺には、海の駅や水族館などが立ち並んでおり、それらはサークル上の巨大な回廊上の通路でつながっている。このため宿泊棟は、この円弧に沿った形に湾曲しており、都市的な風景の中に屹立している。

具体的な空間構成としては、各施設をつなぐ大きな回廊に沿うように建てられた客室棟とその下部にある円形のエントランス棟、その両者をつなぐピロティ状の吹き抜け空間となっている。吹き抜け空間には、円弧状の回廊から直接的にアプローチすることができるため、海の駅や水族館とを直接的に結

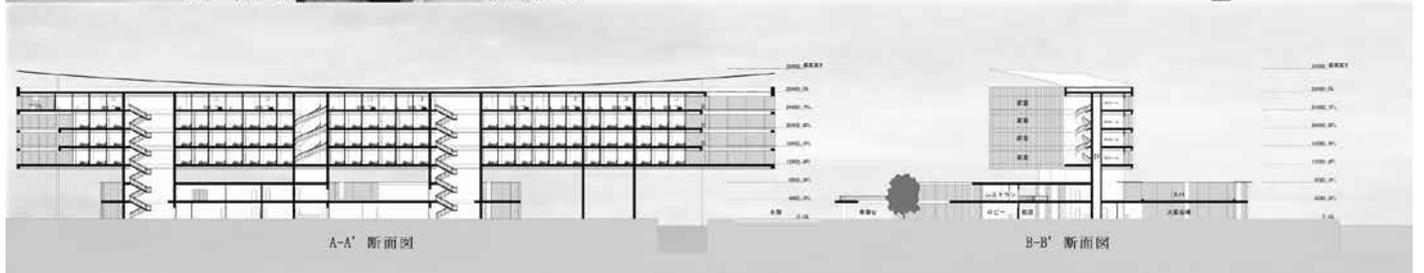
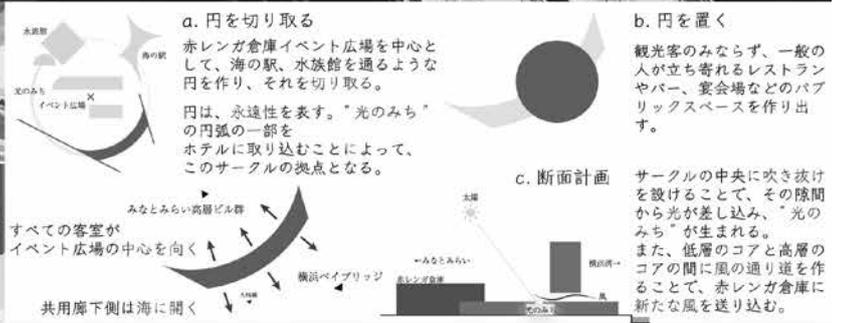
びつける歩行者専用空間となっている。

本施設の特徴はこの回廊とそれに沿うような客室棟に他ならない。この敷地周辺に訪れた宿泊客は、この回廊を利用して自動車等に煩わされることなく海の駅に向かったり、水族館に訪れたりすることが可能となっている。客室は、円弧の外側に通路を設けており、客室は円弧の内側に視線を向けることとなる。これは、敷地内に赤レンガ倉庫を取り込んでいるためであり、どの客室からもこの赤レンガ倉庫を視認することが可能となっている。

こうした客室の構成については、埋め立て地特有の一見すると雑然とした外部空間の捉え方についての考え方を示しているといえよう。(佐藤信治)

赤レンガと光のみち

赤レンガ倉庫、みなとみらい、横浜中華街、山下公園、ハンマーヘッド、大栈橋、横浜ベイブリッジなど横浜には賑わいが生まれる場所が多く存在する。
"光のみち"を通して、「海の駅」、「水族館」と連携し、横浜の賑わいの拠点となるようなリゾートホテルを目指す。



森山美波

■コンセプト

敷地である横浜は大型商業施設、レジャースポットなど再開発が進んでいるため、常に新しく、変化している街である。また郊外部を中心に樹林地や農地が分布しており、多様な自然環境が残されていることが特徴である。しかし都市開発に伴う土地改変により、市街地の緑被率は減少傾向にある。生物の生息場所も喪失・分断化されている。

そこで「森林のように成長するホテル」をコンセプトに、横浜の緑地減少問題を解決する。ホテルの緑地化は、海と陸をつなぐ生物の生息・生育の場として重要な役割を担う。苗木から森林を形成するような植栽計画であるため、月日が経つと木々が成長し、ホテルも変化する。

■講評

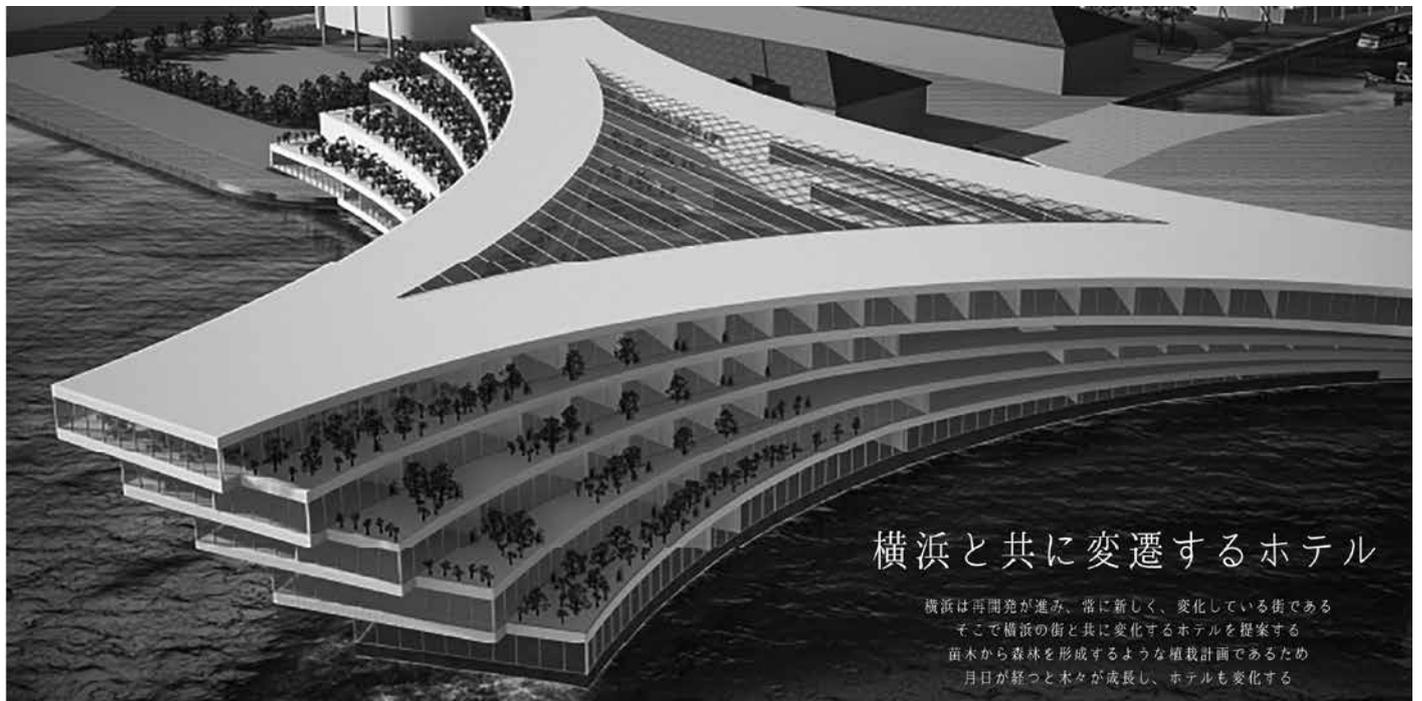
ホテルのデザインにおいて、何度でも立ち寄りたくなることはとても重要である。部屋の雰囲気が変わり映えないのでは泊まる楽しみも半減してしまう。このホテルの基本的なプラン形状は凹型曲線の辺を持った三角形のボリュームを、回転させながら重ね合わ

せたものであり、この発想には目を見張るものがある。ずらしながら回転させることで、一方にテラスの形状を作り上げ、反対側は片持ち梁によって迫り出した客室構成となっている。そのため、テラスに面する部屋では必然的に空へと広がる空間の印象を持たせ、一方反対側では横浜湾の水面と迫り出し形状との間に生まれる、海へと向かう方向性を持った空間となる。それは中央のアトリウム空間に対しても同様である。またテラスと植物の関係においても明確に意識され、今後ランドスケープデザインと建築デザイン、そしてインテリアデザインとの統合が図られると、さらに魅力あるデザインとなるだろう。

また作品の解説にもあるように、三角形のそれぞれの曲線は海の方、赤レンガ倉庫の方、そして街の風景を意識した構成にもなっている。泊まるたびに望む風景が変化し、空間の雰囲気も変化するこのホテルは、シンプルな構成ながら、その形状の扱いが非常に秀逸である。

アトリウム空間や客室空間、そして動線の空間構成についても、ずらしながら回転させていく幾何学の特徴がうまく用いられ、図面で表現されるとより一層建築デザインとしてインパクトのあるものになっていくだろう。この幾何学構成の利点を使いきれていないところに若干物足りなさを感じる。

(光井 純)



横浜と共に変遷するホテル

横浜は再開発が進み、常に新しく、変化している街である。そこで横浜の街と共に変化するホテルを提案する。苗木から森林を形成するような植栽計画であるため、月日が経つと木々が成長し、ホテルも変化する。

ダイアグラム

赤レンガ倉庫 敷地 海 夜景
魅力を取り入れる

中庭
内側の客室も景色をつくる

5' ずらし重ねる

灌風に強い樹木
内陸向きの樹木

各階をずらすことで
植物の成長を妨げない

Forest

中庭

水辺の緑地化

郊外 ← → 市街地

海辺の緑地は海と陸を繋ぐ
生物の生育・生息の場として
重要な役割を担っている

客室

断面・植栽計画

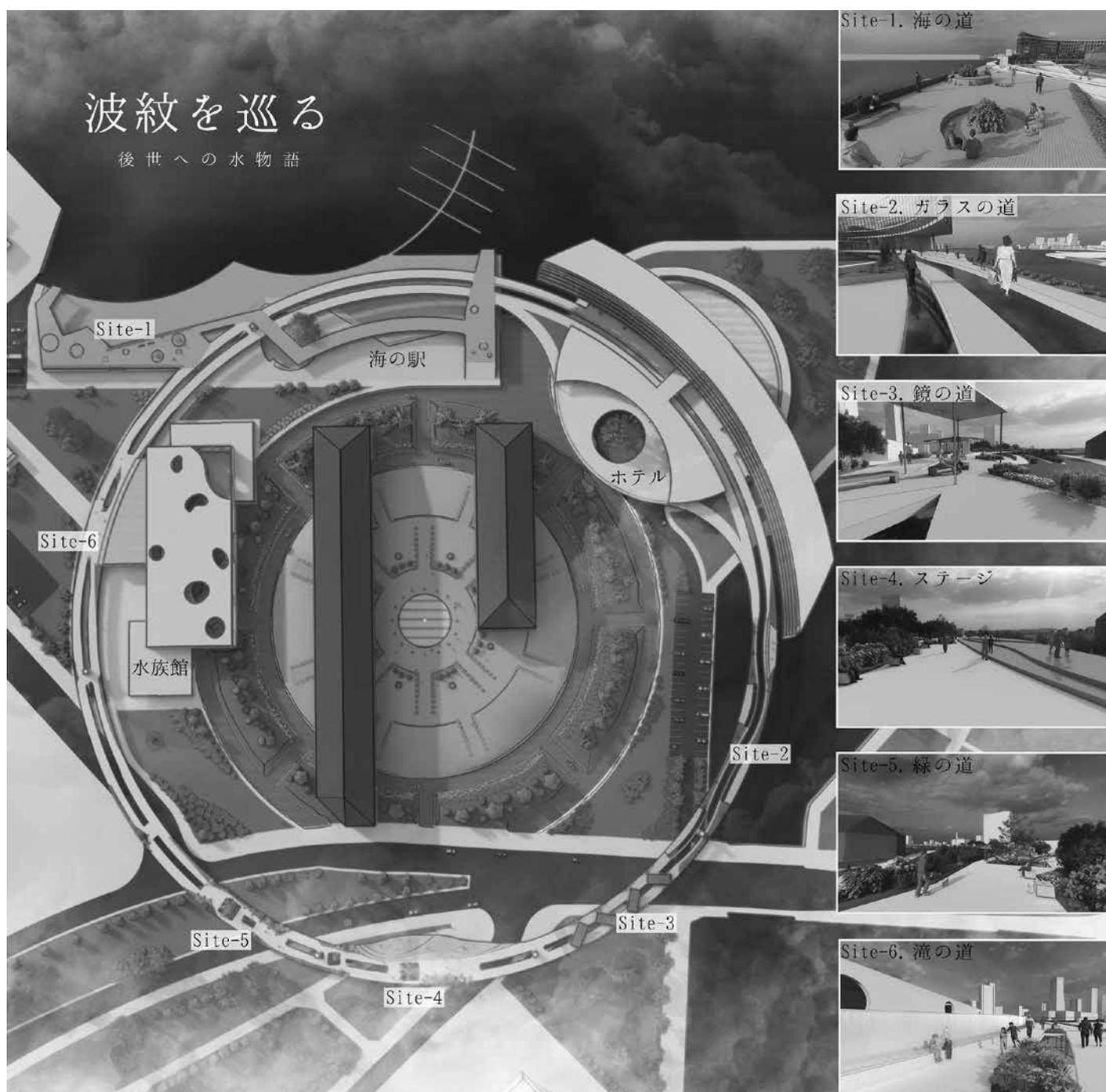
ホテル内を
風が吹き抜ける

サルスベリ
タスカローラ
ファイリヤ
プラン
オオシマ
ザクラ
アメリカン
ディエゴ
ファイリ
アオキ
オリーブ

▼標高基準 +21.000
▼SFL +17.000
▼FL +13.000
▼SFL +9.000
▼SFL +5.000
▼FL +1.000

ホテル内廊下

有馬成美・石本かえで
・太田優人・永野千紘



■コンセプト

ペリー来航以来、横浜は日本の玄関口の役割を担ってきた。中でも赤レンガ倉庫は、外国との貿易を通じて多くのもが集まる拠点の1つであった。しかし、時代は流れ、横浜赤レンガ倉庫は放置され、近年開発により活気を取り戻したばかりである。そして現在はモノと人が集まる場所になっている。

計画地は、みなとみらい21地区と関内地区をつなぐ重要なエリアにある。しかし、今日において、この2地区を結び役割を担えていないのではないだろうか。

コンセプトは波紋を巡る、後世への水物語である。文明開化は、横浜を起点として、静かな水面に一滴の雫が落

ちた時、同心円状に広がる波紋のように全国に広がっていった。私たちはその波紋の軌跡を想起し、ランドスケープに落とし込んだ。そこに注ぎ込まれる歴史・賑わいは、波紋のように伝播し、場所・時間共に地域へとつなげる役割を果たす。みなとみらいのシンボルである赤レンガ倉庫を中心とした、一本のサークルを作ることで各施設をつなぐ。来場者に、円内はそれぞれの施設が独立しているのではなく、1つの同じ空間を共有しているという認識を持たせ、一帯の非日常・特別な体験・空間を共有するつながりが生まれる。さらに、円のもつ「永遠性」、「連続性」を謳い、今後もつづく横浜の発展を象徴する。

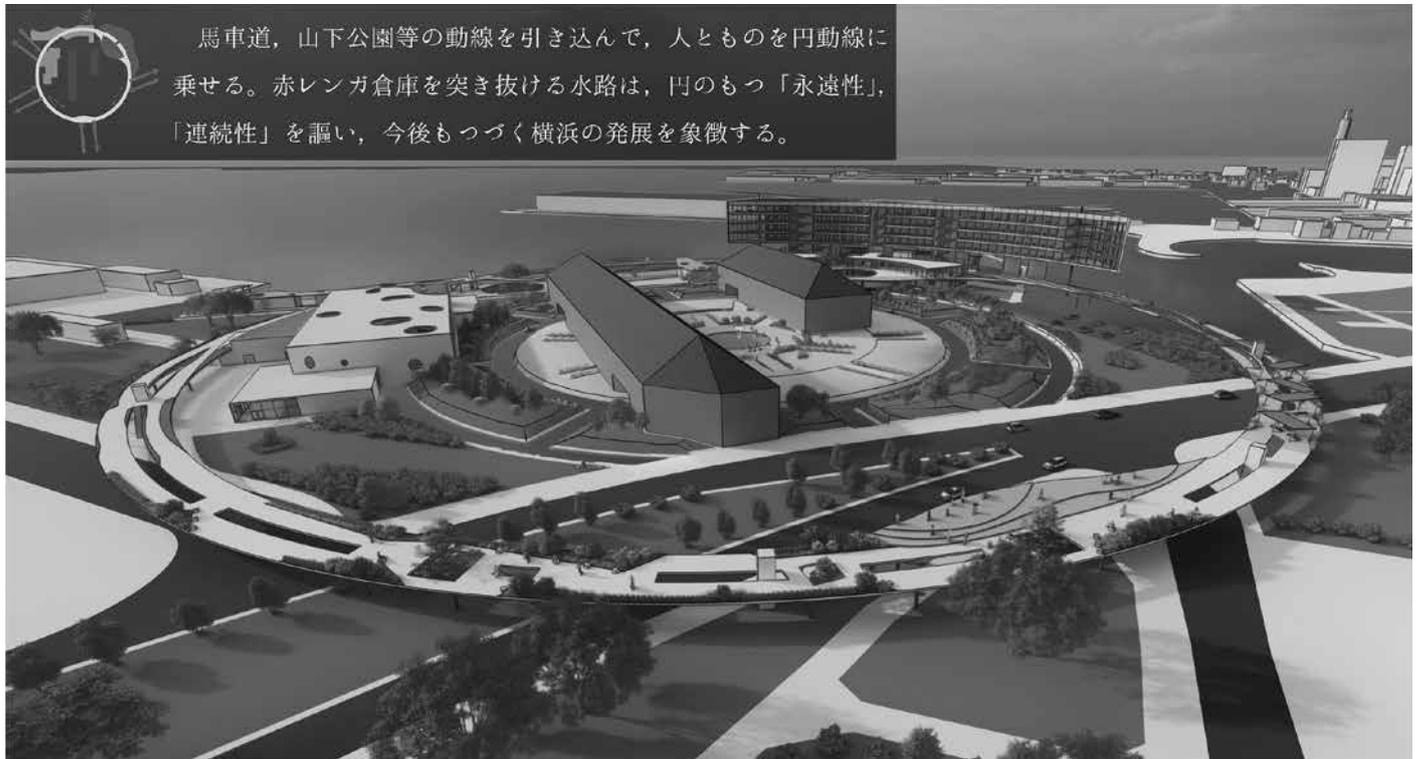
■講評

本計画案は、横浜の赤レンガ倉庫を取り込んだ敷地に建つ海の駅と水族館および都市型リゾートホテルを統合するランドスケープである。この計画案の最大の魅力はこの大きな回廊である。この回廊を用いることで、赤レンガ倉庫に中心性を持たせ、さらにそれぞれの施設をつなげる役割を果たしている。

敷地全体は、赤レンガ倉庫を中心に据えており、ここから波紋状に水路や通路が敷地の外へと広がっている。その最外周部にあるのが大回廊ということになる。この回廊は地上から持ち上げられており、自動車等とは歩車分離の関係を保っている。このため、利用

者は安心してこの回廊を歩くことができるようになっていく。さらに、この回廊は2重構造になっており、その間には水路や緑、休憩スペースなどを挟み込んでいる。このため、巨大な構造物にありがちな茫洋とした空間となっていないのが最大の特徴である。

具体的な空間構成としては、海に飛び出たところに海の駅を設け、ここから入った人は大回廊に沿って、水族館やホテルに容易にアクセスすることができる。昼だけでなく夜の風景についてのデザイン的な工夫や、季節ごとの緑地の使い方などの工夫が見られると、もっと多様な楽しみが得られたはずであると考えられその点については改善の余地があると思われる。(佐藤信治)



クルーズの機能を持つ海の駅



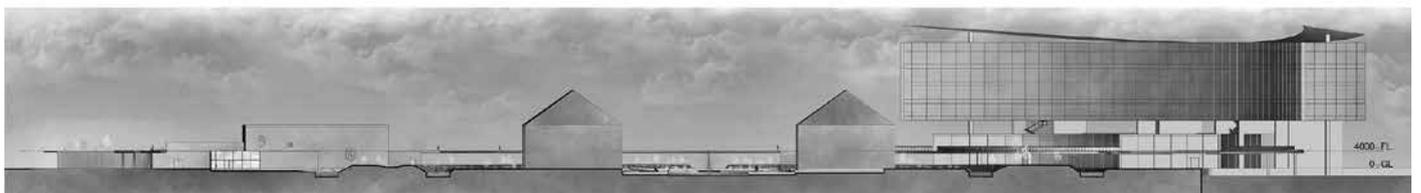
非言語のレジャーである水族館



観光客・地域住民の交流の場であるホテル



このサークルの海からの玄関である海の駅、非言語のレジャーである水族館、そしてサークルの拠点であるホテルが赤レンガ倉庫・イベント広場を囲ったとき、人とものが集まる場が生まれる。



植松百花・岡田 祐・望月 柚

■コンセプト

計画地であるみなとみらいは日帰りの観光客が約70%であることやクルーズ船客は都内での宿泊が多数を占めること、桜木町などの駅前のジョッピングモールが栄えていることなどから海沿いというポテンシャルに対して集客力が弱い。集客力を高めるためには買い物以外の目的を持たせることが必要である。そこで5つの「つながり」を意識して

本計画を提案する。「道・施設」のつながり、「昼と夜」のつながり、「姉妹港」のつながり、「植物・季節」のつながり、「素材」のつながりを5つの「つながり」とした。とくに道のつながりと植物によるつながりが敷地内の空間に大きな影響を与えている。集客力を相互的に高めることを目的とし、各施設と赤レンガ倉庫をつなぐ空中回路を設置した。この空中回路は上部を歩けることはもちろん、下部に日陰空間が生まれ、人々の休憩スペースやコミュニティの場としても活躍する。敷地内では四季折々の植物の色づきが楽しめる。5つの「つながり」によって人々が集い交流する、新たなみなとみらいの顔となる。

■講評

海の駅、水族館、都市型リゾートホテルの3施設だけではなく、隣接する歴史的建造物赤レンガ倉庫との建築的関係性を重視し、当敷地のポテンシャルを最大限生かしたランドスケープ案といえる。また敷地内の建築だけでなく、「昼と夜」「姉妹港」「植物・季節」「素材」とのつながりを加え5つの「つながり」をランドスケープのコンセプトとし、それが全体計画マスターデザインとつながっている点が評価された。横浜・サンディエゴ・バンクーバー・オークランドの姉妹都市の各都市の植生との共存、つまりバン

クーバー「キバナフジ」・オークランド「オレンジ薔薇」・サンディエゴをイメージした広場などを設置している。季節のつながりにおいても特徴のある「ひまわり」「さくら」などを設置し、サークル状の空中回廊で結び付けている。訪れた人々はこの場所においても5つの「つながり」を感じることができる。また素材のつながりとして、歴史的建造物赤レンガ倉庫の自然素材の煉瓦と空中回廊軒下の木、竹素材の Bamboo Dome との連続性も考慮されている。歴史的建造物のオーセンティシティを確保しながらランドスケープおよび建築計画が統合的にコントロールされていることが評価された。
(小林直明)



Circle

つながりことで生まれる空間

計画概要

みなとみらいは日帰りの観光客が約70%であることやクルーズ船客は都内での宿泊が多数を占めること、桜木町などの駅前のジョッピングモールが栄えていることなどから海沿いというポテンシャルに対して集客力が弱い。集客力を高めるためには買い物以外の目的を持たせることが必要である。そこで5つの「つながり」を意識して本計画を提案する。

5つの「つながり」



No. 01 道・施設



空中回路で道の駅・水族館・ホテルをつなぐ

No. 02 昼と夜



海賊船を模したワイナリーが夜の集客を呼ぶ

No. 03 姉妹港



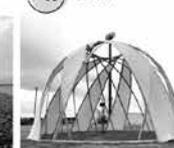
横浜市の姉妹港をイメージした植物を植える

No. 04 植物・季節



四季折々の植物により季節ごとの表情を生む

No. 05 素材



建物の内装と広場の日除けに竹を用いる



海の駅を抜けた先のネモフィラ



一面に咲き誇るひまわり



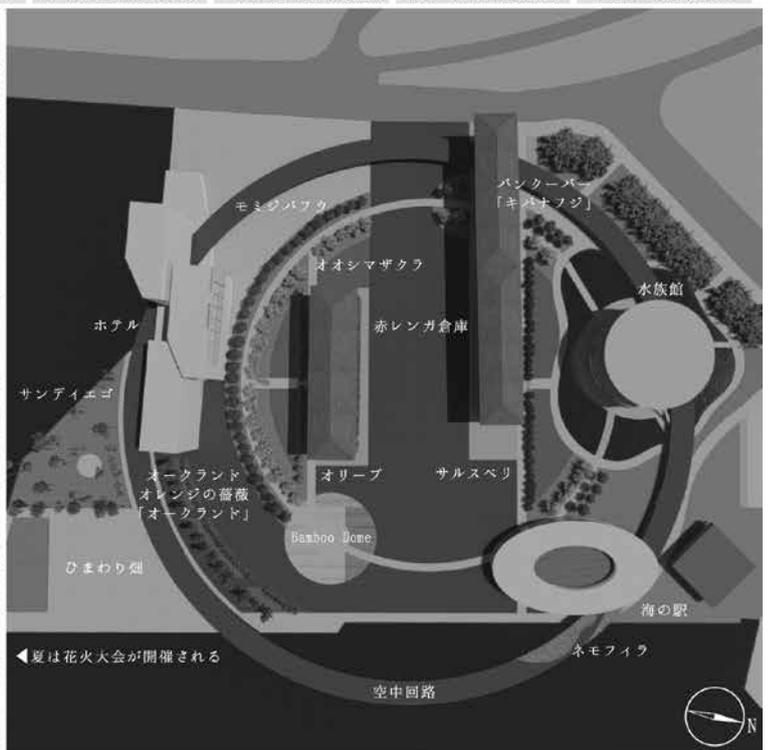
空中回路から見る花火大会



サンディエゴをイメージした広場



空中回路によってできた下部空間



4年生（総合演習）

【担当】 佐藤 信治
小林 直明

桜井 慎一
山本 和清
菅原 遼
寺口 敬秀
吉田 郁夫

総合演習

デザイン系

「外との新しいつながりをもった住まい
（日本建築学会設計競技）」
（担当：佐藤信治、小林直明）

【応募要領】

昨今、新聞を開くたびに、テレビやネットでニュースを見るたびに、「ひきこもり」「孤独死」「幼児虐待」といった記事を目にする。大きな社会的関心を集めているものの、一般的にはそこに建築的課題を見いだす議論はほとんどなされていない。

私自身は、これらの問題の原因の一つは、現代日本の住まいの在り方にありそうに思っている。具体的に言えば、住まいの社会や外部への開き方、外とのつながりの喪失が、これらの社会問題を住まいの中で引き起こしている要因の一つなのではあるまいか、と疑っている。

考えてみれば、ひとつながりの世界から特定の部分を分節し、そのうえで完全に切り離すのではなく、内部の様子をうかがい知れたり、内部へ入れたりといった、内外を微妙につなぐ妙味の中に建築は成立していると言える。そして日本の伝統建築は、縁側、引戸、土間、掃き出し窓、暖簾などの種々の建築的エレメントを発明、発展させ、外とつながった住まいをつくり出してきた。

ところが、おそらくはドアの普及とともに、日本の住まいは、戸建てにおいても集住においても、周辺社会やコミュニティとのつながりを急速に失い始めたのではなからうか。ドア一枚を閉じれば簡単にひきこもることができるようになった。また、かつてもあったはずの独居者の自然死は、ドアが閉じられた瞬間に壁の向こう側に切り離されてしまった孤独死となり、さらには周囲の人々が介入できない外壁の向

こう側で幼児虐待が見過ごされている。そのような状況を生み出しているのではなからうか。

こうした視点から、現代の住まいの外壁に、時代に即した「外とのつながり」を持たせるべく考えることは、現代の日本における身近でありながら、大きな建築的な課題と思える。今回の課題は、現代における「外との新しいつながりをもった住まい」を提案してほしい。 審査委員長 山梨知彦

【応募規定】

A. 課題：「外との新しいつながりをもった住まい」

B. 条件：実在の場所（計画対象）を設定し、何を「外」と捉え、如何にして住まいの中とつないだのかを明記してください。

C. 提出物

- 応募申込書
- 計画案

以下の内容を A2サイズ 2枚に収めてください。模型写真等を自由に組み合わせ、わかりやすく表現してください。

- ①設計主旨
- ②計画条件・計画対象の現状
- ③配置図、平面図、断面図、立面図、透視図

c. 作品名・設計主旨

「b. 計画案」の作品名と設計主旨を記載したものを A4サイズ 1枚に印刷してください。

d. データを収めた CD または DVD
以下の①～④を CD または DVD 1枚に収めてください。CD または DVD には、作品名と代表者の氏名・所属を明記してください。

- ①「a. 応募申込書」の Word ファイル
- ②「b. 計画案」を A3サイズ 2枚に縮小した PDF ファイル
- ③作品名および設計主旨の要約のテキストデータ
- ④顔写真

計画系

「船橋港親水公園を中心とした隣接商業施設との回遊性及び賑わい空間・施設の提案」
（担当：桜井慎一、山本和清、菅原 遼、寺口敬秀、吉田郁夫）

【課題趣旨】

船橋市は千葉県の北西部に位置し、東京都心と県庁所在地である千葉市中心部のほぼ中央で共に半径20km 圏域に位置している。市の人口は約64万人、面積は85.62km² で、東京湾の最奥部に位置し、海上交通・陸上交通の要所として栄えた歴史がある。また、船橋市の沿岸部はかつて遠浅の海岸であったが現在は殆ど埋め立てられ、唯一、三番瀬のみが当時の名残を見せている。

船橋は江戸時代には将軍家の台所に新鮮な魚介を献上する御菜浦であり、現在でも東京湾奥部で本格的に操業されている唯一の漁港として、東京湾近海魚の水揚げや海苔の養殖が盛んに行われている。それらは、江戸前と呼ばれる魚介類で豊洲市場を通じて東京の寿司屋等で消費される高級品として取り引きされている。さらに船橋港親水公園に隣接する浜町地区には、巨大商業施設の「ららぽーと TOKYO-BAY」が展開し、隣接県からの利用者も多く一大経済拠点となっており、2013年には東関東自動車道「谷津船橋IC」も整備され、その利便性もさらに向上している。その他にも船橋市の集客拠点として、晩春には潮干狩りで賑わう「ふなばし三番瀬海浜公園」があるが、市中心部からの公共アクセスが少なく、繁忙期には周辺道路の交通渋滞を引き起こす要因にもなっている。

そこで本授業の課題として、県内でも有数の大きな集客力を持つ「ららぽーと TOKYO-BAY」に接する船橋港親水公園から東関東自動車道を挟んだ浜町2丁目地区の臨海部を対象に、船橋市の地域的特性を活かし巨大商業施

設に訪れた人々を誘い、臨海部との回遊性を目指した賑わい空間の創出及び施設提案を行うものである。なお、提案施設として、海老川または船橋港の水面を利用した着底式若しくは浮体式の海洋建築物を導入することを必須とする。さらに、船橋臨海部の拠点である「船橋港」「船橋港親水公園」「ふなばし三番瀬海浜公園」を一体的に結び水上交通及び施設整備も提案に含むものとする。

【浜町2丁目市有地概要（計画地内）】
・面積4000㎡、商業地域、建ぺい率80%、容積率400%
・隣接する県企業庁の土地を活用することも可とする。

【計画上の主なポイント（ヒント）】

- ①周辺商業施設（「ららぽーと TOKYO-BAY」等）の来訪者を導き入れる計画として検討する。
- ②東関東自動車道によって分断されている計画地を一体化させ回遊性のある計画を検討する。
- ③それぞれの拠点施設が持つ資質・資源を明確化し来訪者のニーズを考慮した計画を検討する。
- ④地域特性や来訪者属性を考慮して計画対象地にどのような施設が必要かを検討する。
- ⑤船橋臨海部の三大拠点に対して点から線にする整備計画を検討する。
- ⑥各自の提案に基づいた適切な施設の規模を類似の事例を調べて設定する。

生活のおすそわけ

～湧水文化の継承と再編が循環する住まい～

石井健聖・大久保将吾・
駒形史紗・佐藤駿介・鈴木亜実
■コンセプト

このまま何もしなければ針江のカバタは消滅すると考える。内を「カバタのある生活」、「針江の住民」、外を「湧水の新たな利用」、「移住者」と捉え、カバタのある生活を送ってきた人々が残る今だからこそ、その生活を移住者におすそわけしつつ、湧水利用の新たな用途を取り入れた住まいを提案することで、針江の住民と移住者を

つなぎ、カバタのある生活を継承する。この提案で外と捉えたものが針江の湧水文化に触れることで内に取り込まれ、新たな外に針江の文化を継承する担い手となる。内と外が交わる時に継承が生まれ、外は段々と内になり、また新たな外とのつながりを生むことでカバタのある生活を継続させる新たな循環を創出する。現在は外から垣間見ることのできないカバタのある生活を、移住者におすそわけし、湧水を従来のような利用だけでなく、新たな利用方法を取り入れた住まいを提案することで針江の住民と移住者をつなぎ、継承が生まれ、外は段々と内になり、また新たな外とのつながりを生むことでカバタのある生活を継続させる新たな循環

を生み出す。

■講評

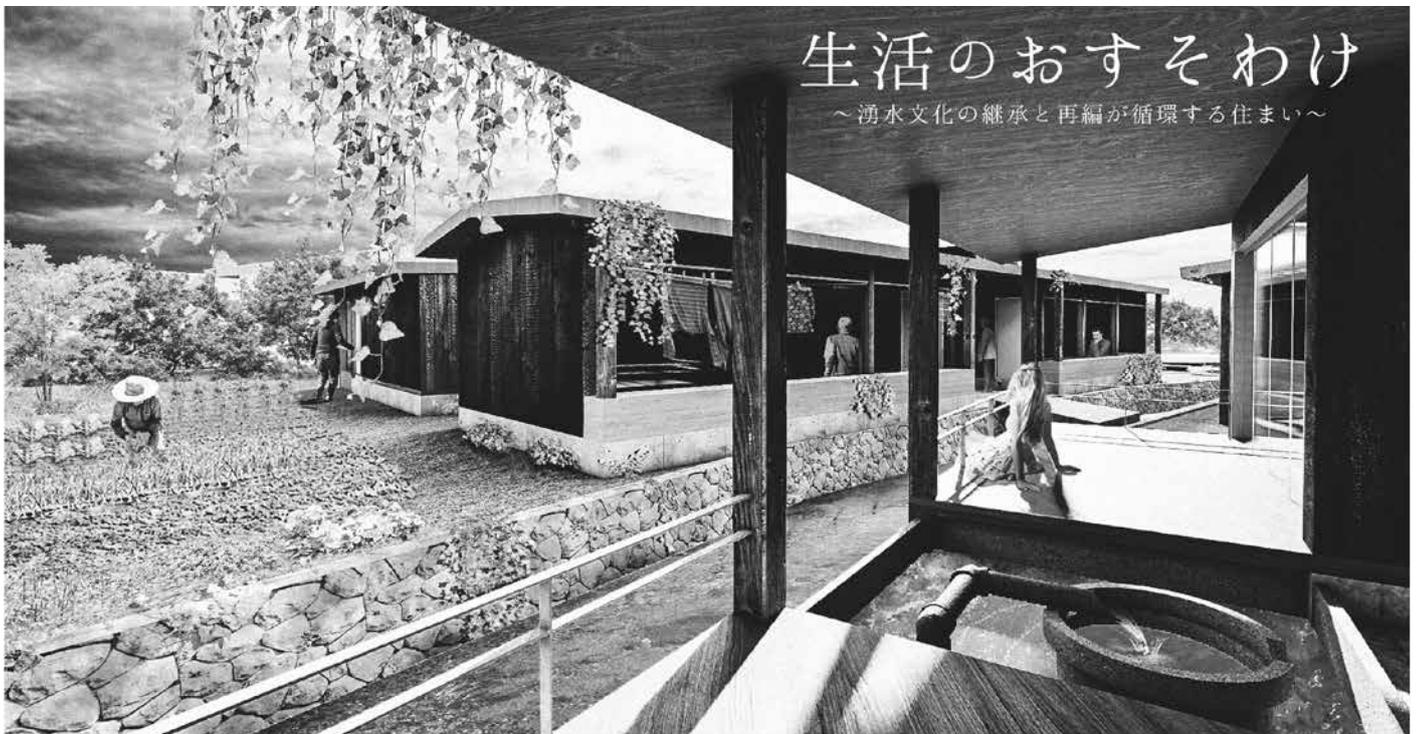
2020年度の日本建築学会コンペの課題「外との新しいつながりをもった住まい」は、新型コロナウイルス流行の兆しが微塵も感じられない状況で想定されたものであった。しかしながら、本課題の趣旨は、都市的な濃密な交流以外に外部環境や自然環境とのつながりと建築のあり方を模索するというものである。

計画案の趣旨は、琵琶湖周辺の集落で古くから守られてきた「カバタ」という、独自の水路設備をまちづくりに積極的に活用しようとするモノであった。とくに敷地に選ばれた滋賀県高島

市の針江地区は上水道が整備される以前より、豊富な琵琶湖の水源を用いた水路網を利活用してきた。具体的な構成としては、高齢化によって維持管理が難しくなってきた地域の家屋を水路を活用することで若い移住者を呼び込もうとする点にある。昔からの住人を内とし、移住者を外とするが、伝統文化の水路を使い、これを伝承していく過程で、移住者を内側に引き込もうとする提案である。伝統的な家屋の内部を改修し、生活の質を高めるとともに、水路による交流の文化によって各家屋をつなげていくことが評価された。

本提案の佐藤駿介君ほか4名が学部生のみで与えられる、タジマ奨励賞を受賞している。
(佐藤信治)

日本建築学会設計競技2020 タジマ奨励賞



生活のおすそわけ

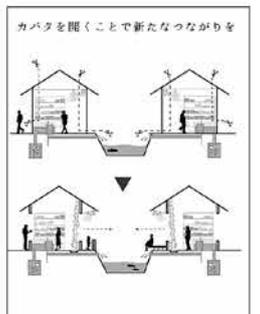
～湧水文化の継承と再編が循環する住まい～



緑化によってつながる住まいたち



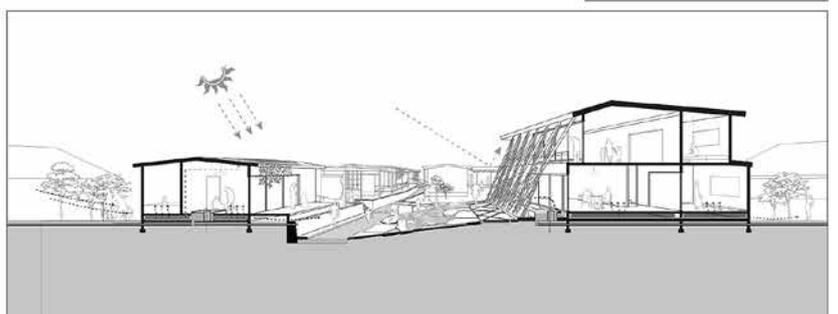
川に開くことで水のつながりを感じる



カバタを開くことで新たなつながりを



カバタとの付き合い方を継承



都市の商住共棲

—商店街における商店と住宅の新たな暮らし—

古角虎之介・中村正基
・神林慶彦・山戸善信

■コンセプト

戦後の闇市から始まった立石仲見世商店街。

1階で商いをし、2階に人が住み生活をした。しかし、都市の現代化に取り残された闇市由来の狭く暮らしにくい空間によって、人が住むことはなくなった。

そして、ここも再開発の波から逃れることはできない。現在の再開発の手

法は、その場所の風景を跡形も無く失くす。この場所の地域性の継承と土地の持つ特性という観点から、今ある建物を活用しながら減築と増築を行い、商店街を多様な要素が組み合わさった1つの住まいとする新たな再開発を提案する。3640×2600を1つのグリッドとして構造のフレームを入れ、既存に合わせた防災計画と生活の部屋を再構成していく。

商店街の中で生活するため既存の店を考慮し、居酒屋の延長にダイニングがあるような、商と住が混在し建物間で個々に切り分けられていた空間が横につながる配置とした。上階の住戸から共有部を低層に設けることで住まいが商店街に広がっていく断面計画とす

る。商と住が一体となった生活の仕組みを構築し、そこから生まれた賑わいが都市へ広がっていくことを考えた。

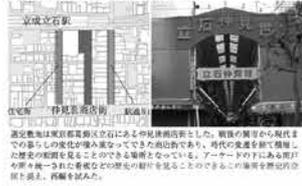
■講評

現在都市部で行われている再開発事業は画一的な超高層建築と街区で切り分けられ、事業効率が重視される傾向が強いなか、再開発から取り残された

地区の活性化および、大規模再開発とは異なる視点での街づくりの考え方を問題提起している作品といえる。また、大規模再開発と今回提案を共存および連携させることで、新たな賑わいが新しい都市にも広がっていくとしている。過去には1階で商いをし、2階に人が住み生活をした商店街の原風景を残しつつ、余剰スペースは減築し、かつS造の耐震フレームを挿入することで防災耐震化も図っている。また再び訪れた賑わい以上を許容できるようにするために、空中回廊で商店街を連続させ、空き家となった居住空間を多様性のある用途と連携させさらなる賑わいの活性化を図っていることは評価できる。
(小林直明)



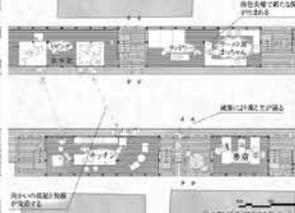
01 時代の変遷が刻まれた商店街



02 防災 - 歴史をつなぐ処方箋



03 空間構成 - 小さなグリッドの集合体から成る



遺したものが繋げる 新しい住まいと産業

中野沙紀・福田晃平
・藤田大輝・水口峰志

■コンセプト

本提案では“我々の住まいから見放されているもの”を外として捉えた。我々の住まいから見放されているものとは、過去に我々の住まいの中に存在するはずであった、または本来存在するべきであるのにも関わらず、見放され我々の認識の外に追いやられているものとする。ここでの我々とは我々の認識の内に住む人々のことを表す。

そこで産業が盛んなこの地においてインフラとして機能し我々の住まいの中に存在するはずであった未成線南方貨物線遺構、今後の産業の担い手として機能し、我々の住まいの中に存在するべきである外国人労働者の住まい、そして世界中で深刻化し食される機能を持ち我々の住まいの中に存在するはずであった食品ロスを取り上げる。いずれも我々の住まいから見放され、認識の外に追いやられたものである。これらの外とされたものが我々の住まいとつながり、共存することで古いものと新しいものが混在する現代社会に即した開かれた住まいが可能になる。

■講評

都市の既存ストックである廃線鉄道高架の土木工作物と建築との融合提案である。普通であれば取り壊される土木工作物を再利用することで、解体および新築のエネルギーを削減することができるため SDGs にもつながっている。人類の共通文化である「食」を通して、地域の再活性化と外国人実習

生との動き口および外国人とのコミュニケーションを誘発することで、外国人実習生の地域隔離の抑止、つまり異文化交流にも貢献することができている。「食」の文化を市場から調理および食べるという消費にまで及んだ、食のライフサイクルでの人アクティビティ想定し、それらの機能が連続した廃線鉄道高架の土木工作物の下部と一部上部に整然と配置している、それにもかかわらず、豊かな建築空間との連携が感じられる。加えて住居を設置することで食・住の連携も図られている。高架上部には太陽光パネルを設置し自然エネルギー利用も採用され、遺したもので人と物のライフサイクル・アセスメントにつなげている。(小林直明)



今井晴貴・今村勇紀・梅津伶衣
 ・大川実優・岡 滉介

■コンセプト

本施設は、海上での物資運搬の役割を担う「斛」と計画地周辺に放置されている「自転車」を活用することで、わが国が抱える放置問題を解決し、「出展者」のこだわりを表現できる計画になっている。おもに出展者はネット販売を行うハンドメイドアーティストで、実物の商品を見て購入したい人の要望に応える。ハンドメイドを趣味

程度で行う人々は、自転車をリメイクした店舗での簡易出展をし、斛店舗での出展の足掛かりとなる。本職の人には斛を貸し出し、出展者が整備所で斛を自由に改造し、多様な出展方法が可能。また、「ハンドメイド」と「再利用」を印象付けるために、自転車をシェアサイクルに活用し計画地へのアクセスを容易にし、整備所やアーティストの交流の場である工房を、来場者に見えるようにする。みなとデッキ広場では外部のハンドメイドイベントを開催してもらうことで、イベント参加者に本施設への興味を引きつけ、新規出展者を増やす。

このように、クリエイティブな人々が集まり、彼らによって自由な街が創

られ、変化に順応する施設計画になっている。

■講評

計画地のある船橋市は東京湾の最奥部に位置し、海上交通・陸上交通の要所として栄えた歴史がある。また、計画地は、大型商業施設ららぽーとやIKEAが立ち並び隣接県からの利用者も多い。

このような立地の中で、本チームは全国どこにでもみられる大型商業施設誘致という街の没個性化の流れに対して、ヤミ市で賑わった船橋の歴史を手掛かりにして個性化を図る計画である。ここの施設で販売する商品はハンドメイドを中心としたオリジナル性の高い

一点ものとし、「斛」を海面に並べて店舗として用いていることを提案している。さらには、「放置自転車」をリサイクルして荷台に商品を並べるアイデアも魅力的である。評価されるのは、「クリエイティブな人々が集まり、彼らによって自由な街が創られ、変化に順応する施設とする」というこのチームの目標をこれらのアイデアで具体化させたことである。ハンドメイドアーティストの個性を斛店舗や自転車店舗といった移動の自由度を持つ施設と組み合わせることによって変化のある賑わい空間としている。さらには、イベントや工房見学など、新規出展者を増やすプログラムも充実させている。

(吉田郁夫)

F-CUBE

—変化を許容する街—

計画テーマ

現在の計画地周辺には、ららぽーとやIKEAといった大型商業施設が立ち並んでおり、「建物」や取り扱う「商品」は主流なものばかりで、街の没個性化が進んでいると考える。そのため、「F³ (F-CUBE)」を提案し、個性化を図るための3要素のFを用いる。まず、ヤミ市があった船橋の過去「FACTOR」から他の商業施設と異なった商品や販売形態を用いる。次いで、ハンドメイドを中心としたオリジナル性

の高い一点ものの商品を扱う「FASHION」。さらに、出展者の用途に合わせ、放置された斛や自転車を改造する出展方法の自由度、水面での自由度を生かした自由な店舗形態「FLEXIBILITY」。

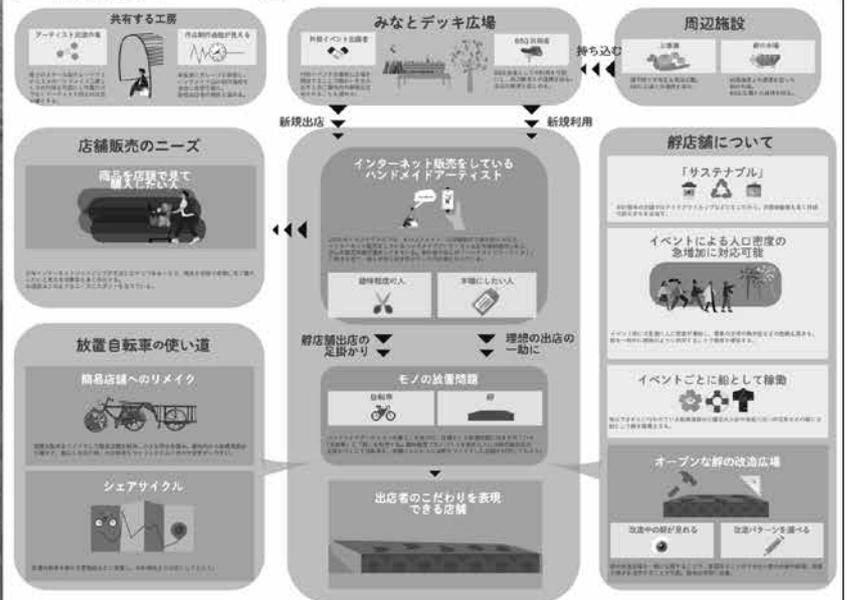
これによって、クリエイティブな人々が集まり、彼らによって自由な街が創られ、変化に順応する施設を計画する。



配置計画



施設計画スキーム図



小出将貴・及川一也・小川朋華
・牛奥理子・中村瑠里

■コンセプト

昨年から流行した新型コロナウイルスの影響により多くの人々の行動が制限され、生活スタイルも一変した。千葉県船橋市でもその影響は顕著にあらわれており、千葉県内では感染者数が一番となっている。要因としては、船橋市内の働く人口が63%と高いことや共働き世帯が増加していることがあ

られる。そこで、船橋市に第二の働ける場の提供と海上レジャー施設を整備し、今後のwithコロナ時代をより住みやすくするために提案を行った。

■提案

【オフィス】今回の計画敷地である主要敷地と計画水域にそれぞれオフィスを計画した。主要敷地には多くの人々が密接を避けつつ交流できるオフィスを、計画水域には個人で集中できるオフィスを計画することで多くの人々の需要に対応できる。

【水上レジャー施設】長期間の在宅ワークにより、健康被害やストレスなどの新たな課題が露呈したことから、働ける場のみではなく、勤務の合間にストレスを発散できる水上レジャー施設

を、ボート、カヌー、サップの3種目展開し、より交流を深められる場を計画した。

■講評

2021年4月から7月にかけて実施した授業の成果である本作品の制作は、コロナ禍による緊急事態宣言のためすべてオンラインで実施された。企業の中には、本社機能を地方に移転し、それに合わせて多数の従業員も家族で転居したものもあり、都心のオフィス需要は減少して空き室も生じ、長年、解決策が見いだせなかった東京一極集中が緩和される契機になるのではないかと期待する声もある。

本作品は、開放的な大きな空間、風

が吹きやすい自然環境、ストレス発散に役立つ昼と夜の景観、といった都市ウォーターフロントの特性を活かしたシェアオフィスやサテライトオフィスを、船橋港に面した市有地および海面上の人工地盤に整備する計画の提案である。

標準的な日本の都市住宅では、長期の在宅勤務は無理が多く、三密を避けた快適な執務環境の提供方法の1つとして、都心に通うことなく自宅近傍で効率的に仕事に集中できるオフィス空間が求められている。ウィズ・コロナの時代が当面続くことが予測されている現在、都市型ワーケーションともいえる本計画は、時機を得た提案として高く評価できよう。(桜井慎一)

ウォーターフロント オフィス フナバシ

WATERFRONT OFFICE FUNABASHI

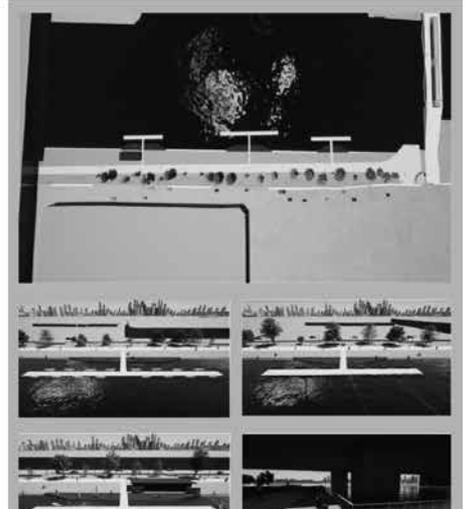
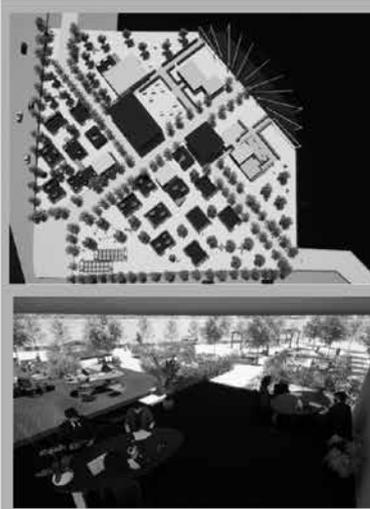
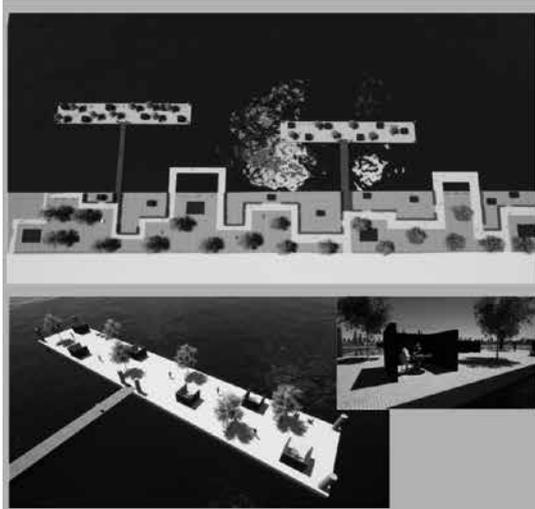
敷地概要



<敷地周辺状況>

- ①ららぽーと、IKEA等大型商業施設が多い
- ②市内人口の6割が働く人々
- ③共働き世帯が増加中

近隣施設との差別化
第2の働ける場の提供

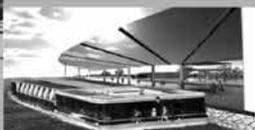


オフィス×回遊性創出



レンタサイクル事業

水上バス事業



【担当】 佐藤 信治
小林 直明



卒業設計

未成熟の遺産

一住×遺産×植林×観光の交わる
足尾銅山転換計画

私は卒業設計に対して1つの強い思いがありました。それは“地球の狭間となる建築はどう在るべきなのか”という点です。生物である人間と地球は密接な関係の中で生きてきました。それに対し、技術の進化とともに洞穴での生活から石、木を使う生活、そしてコンクリートや金属を使う人工的なものになっていきました。人命を守るために進化してきた建築は確かに災害などから人間を守っているでしょう。しかし地球をコントロールしようとするかのように挟まった建築は、地球に殻を被せ、人間との距離を段々と乖離させていると思います。現に公害を含め、さまざまな環境問題が起きており、そのための対策が現在も多く考えられ

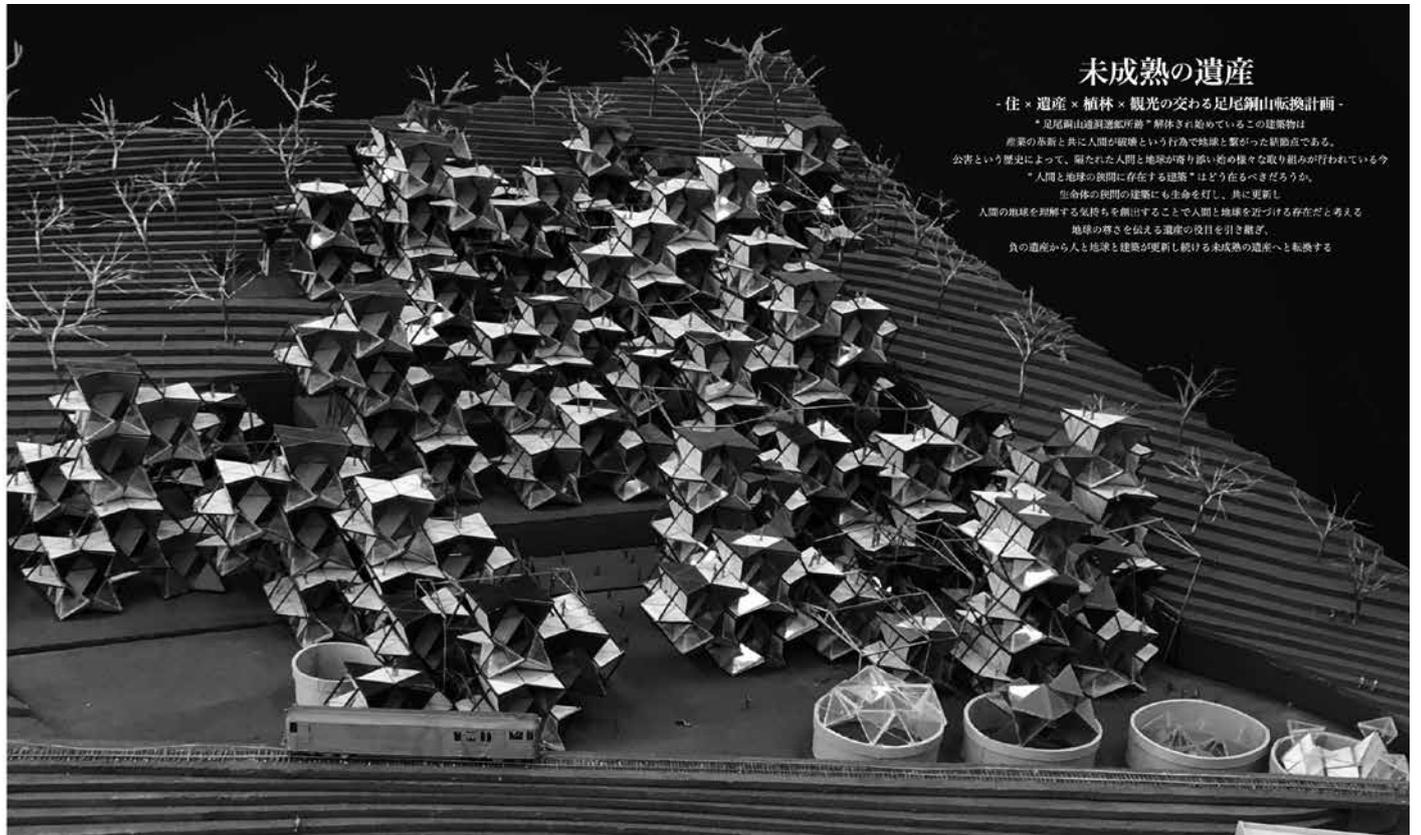
山戸善信

ています。

私の卒業設計ではそんな現代の生活の中で、あくまで私たちは生き物である地球の上に生きていることを再認識させてくれるような建築を目指しました。生き物ではない建築を透過して地球が見えてくる建築を計画するため、生き物や植物の機能や構造からヒントを得て技術開発に活かす生物模倣(biomimicry)の考え方を取り入れようと考えました。本提案ではその土地における地球を模倣することで建築化し、敷地である足尾銅山近辺が生活を通して肌身に感じるような建築を設計することを目指し、生物化された建築は常に人間、地球とともに成長し続けるという思いも込めて、「未成熟の遺

産」という題名を付けました。

設計内容として、本提案では足尾銅山に残る工場跡地に「地球に倣う」設計手法を用い、足尾町の植林文化を支える宿泊施設と住宅、苗木育成場を含めた複合施設を設計いたしました。敷地は足尾銅山通洞選鉱所跡。銅の生産量で日本の産業に大きく貢献した工場跡地ですが、発展と同時に地球環境を壊し、負の遺産として在り続けた工場跡地です。しかしこの工場跡地も町の衰退とともに解体が始まっています。そんな足尾町に芽生えた新たな文化として植林活動があります。鉱毒により禿山となってしまった山々に苗木が植えられ、少しずつ緑が戻ってきています。本提案ではこの植林文化を支えな

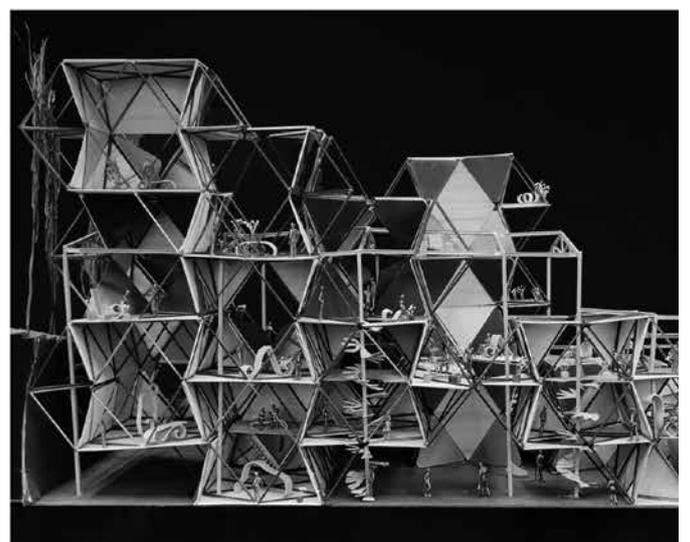
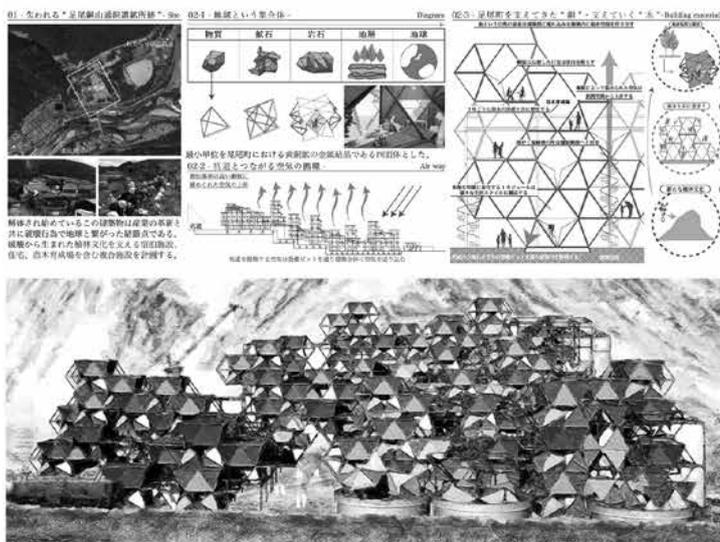


未成熟の遺産

一住×遺産×植林×観光の交わる足尾銅山転換計画

「足尾銅山通洞選鉱所跡」解体され始めているこの建築物は産業の基盤と共に人間が破壊という行為で地球と繋がった契機点である。公害という歴史によって、覆われた人間と地球が寄り添い始め様々な取り組みが行われている今「人間と地球の狭間に存在する建築」はどう在るべきだろうか。

生命体の仕組みの建築にも生命を打し、共に更新し人間の地球を理解する気持ちを醸出することで人間と地球を近づける存在だと考える地球の尊さを伝える遺産の役目を引き継ぎ、負の遺産から人と地球と建築が更新し続ける未成熟の遺産へと転換する



から、より人と地球が近づける建築空間と地域コミュニティの場を計画しました。

設計手法として実際に緑を取り込むことや、自由な曲線で造形をする地球の「ような」建築ではなく、その土地の地球の構成に倣って空間を構成していく「地球に倣う設計手法」としました。具体的には銅の金属結晶体である正四面体から空間を構成し、正四面体特有の傾斜を活用することで採光や雨水の流れ、風の通りといった自然現象をより身近に感じられる空間を目指しました。また、敷地の目の前にある渡良瀬川は敢えて計画に取り入れませんでした。かつて工場の有害物質がこの川から拡散されたという負の川ではあ

りますが、今では魚も泳ぐ綺麗な川へと戻っています。この綺麗になった現実には植林活動を含め、この地に人間が鉱毒事件後に行ってきた活動の成果でもあると思います。そんな川に建築をすかさずと介入させるのではなく、渡良瀬川はこの町の地球との距離感を表す物差しのような存在であるべきだと考え、介入することはしませんでした。しかしそれと同時に親水空間の魅力は大学で学んできた上で活かしたいと思い、雨水を建築間に通る仕組みを考えました。水辺や低層部に親水空間があるだけでなく、全建築内部に親水空間を作り、天気を含む環境の変化をより感じられる建築を考えました。

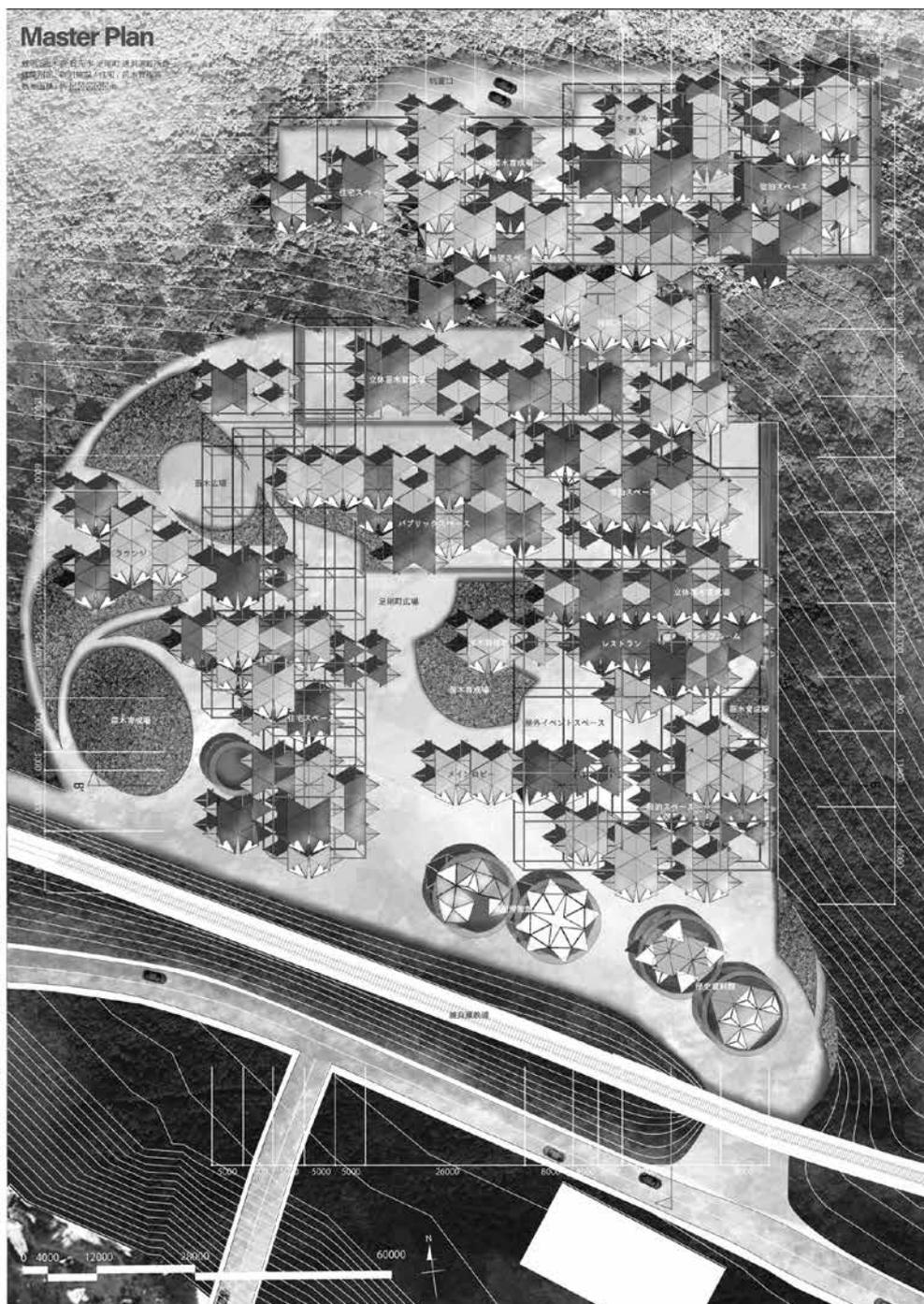
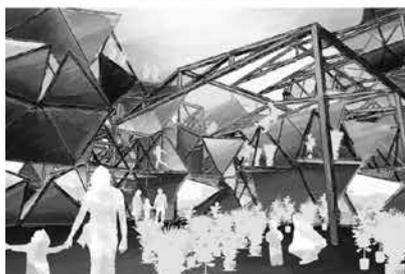
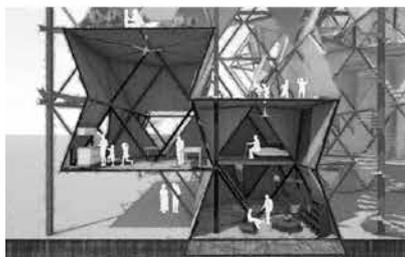
全体配置は人の導線と苗木、既存

の骨組みの交差する点を核とし、そこから肉付けするように配置しました。主要施設は宿泊施設となっており、周りには住宅や図書館など町の生活と近づいた宿泊施設として計画しました。苗木育成場は地上面だけでなく、正四面体の傾斜から採光の面積が多いため、建築内にも立体苗木育成場として設けました。工場跡地の骨組みにコンバージョンとして設計することで、記憶の継承とともに螺旋階段や半屋外空間としての活用、構造面に対しては正四面体との融合による構造的補強に活かしました。

建築素材ではかつて植えられていた木を建材として使い、ここで苗木を育て、植林活動に用います。また育った

木は建材となり、林業のサイクルに合わせて増築されていきます。外壁には銅板を利用しました。銅は時間の経過とともに酸化皮膜を作り、赤褐色、褐色、暗褐色、黒褐色、緑青色に五段階で変色していきます。変色し続ける銅板の特性によってこの土地での生活の歴史がファサードに浮かび上がっていく新たな足尾町の風景を作り上げます。

このようにさまざまな遺産が残り、観光資源に恵まれているにも拘らず衰退している足尾町で、土地性に倣ってできた未成熟の遺産はこの町だけの唯一無二の建築となり、毎年植林活動にボランティアとしてきてくれる方を含めたさまざまな人が訪れる建築として足尾町の核となります。



地元の持つ問題を今自分が持っている力で解決したいという思いから葛飾区と江戸川区でこの卒業設計を行った。まず、敷地に足を運び、そこで私が考えたのは、スーパー堤防のような防災計画では、好きなこの街が壊され作り替えられてしまう現実であったり、もし避難所を1つ設計してもこのまちに住んでいる人、全員は守ることはできないという現実であったり、避難所などの防災施設ではなく、まちの構造を設計しなおさなければならぬのではないかと考えた。

中村正基

水害の危険の迫る東京東部に対し、スーパー堤防のように防災計画主導で行われるまちづくりではなく、川とまちの狭間を再設計することで、水辺の豊かさを享受した新たなまちづくりというものを提案した。

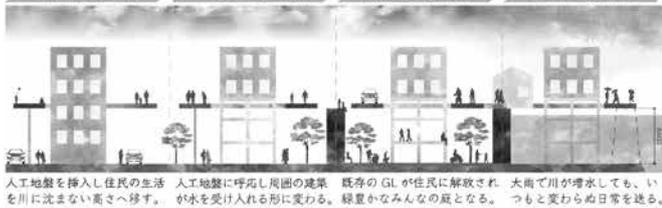
そこで、現在の防災計画であるスーパー堤防のように街を壊すのではなく、川とまちの狭間をデザインすることで、川を受け入れ、今の街の構造を守りな



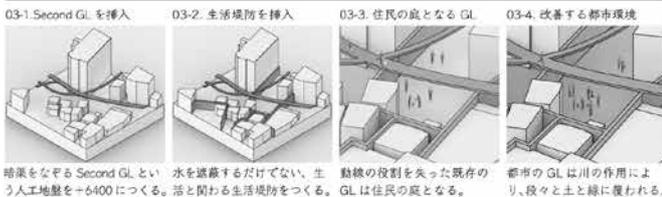
計画敷地は、東京東部に広がる海拔0メートル地帯。ここは今、水害の危機に瀕している。洪水を恐れ行われた防災計画主導のまちづくりにより、まちは川と分断され、そこで暮らす住民は川を恐れ生活をしている。そこで、川とまちの狭間を再設計し、川とともに生活することで今のまちづくりを超える水辺の豊かさを享受した新たな住まい方を提案する。

01. コンセプト -100年かけて川を受け入れるまち-

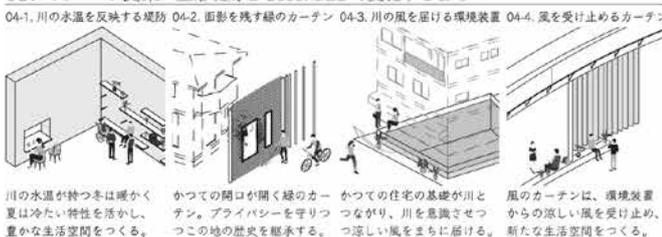
Phase1 (2040s) Phase2 (2060s) Phase3 (2080s) Phase4 (2100s)



02. マクロの提案 -避難をしない防災計画-



03. ミクロの提案 -生活堤防と SecondGL で変化するまち-



部分断面図 - 減水時 - 推定: 2060年 夏頃



がら、避難しなくてもいつも通りの生活を送ることのできるまちに変え、防災計画に留まらずそれを超える水辺の利点を生かした魅力的なまちに更新していこうというコンセプトで計画した。

大きな時間スケールでの話では、SecondGL という人工地盤を設けて、高さ6400のレベルに新たな生活動線を作る。この人工地盤は、かつてその土地にあった暗渠をなぞるように配置しており、既存の土地の記憶を途絶えさせないといった意図がある。次に、住民の生活と関わりの深い生活堤防を挿入する。この生活堤防は、従来の堤防のように生活と切り離されるのではなく、住民の新たな暮らしを創る壁となり、川の領域を都市へ広げていくため

の堤防にもなる。この2つが挿入されることで川が増水してもいつも通りの生活を送れる。

そして、現在のグラウンドレベルである GL は現在持つ既存道路としての役割を失い、住民の庭になる。

さらに、川が増水した時に土砂が溜まり地面が緑に覆われ都市環境の改善にもつながる。スケールの大きい話だけでなく、人間スケールの提案もしており、生活堤防には川の水温を反映させる機構を設け、川の水のもつ特性である冬は気温より暖かく、夏は涼しいという効果を生かし住民の居場所をつくったり、かつての建築の開口が開いた緑のカーテンというものを作って、80年かけて建築が堤防の上に移動した

あと GL にはかつて建物が建っていたという痕跡を残したりする。

また、このパースのように GL での活動のプライバシーを守る仕切りとしても機能する。

さらに、堤防の一部を強化ガラスで透過させ干満差を可視化したエリアを設ける。この機構は、解体せざるを得ない住宅の基礎を再利用して造られており、川との連続性を持たせる。そうすることで日頃から川のことを意識づけさせるとともに川の持つ涼しい空気を街の中に運ぶ。

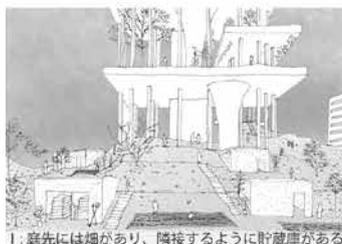
それに加えて、SecondGL から風のカーテンをたらし可変性の高い空間を住民が作ることもできる。この風のカーテンは前述の環境装置と連携し涼

しい風を受け止め、住民の暮らしやすい空間を生み出したり、光の入りにくい GL へカーテンに日光を反射させることで明るさを届ける装置となるなどさまざまな仕掛けを施したりした。

川とまちの狭間を再設計することで川が増水しても、沈まない動線 SecondGL があり続け、いつも通りの生活を送ることができる。避難所を設計するのではなく、街で生活する多くの人を守りたいという気持ちから生活になければならないインフラとなる生活動線を挿入し、水辺の豊かさを活かした街づくりというものを行った。この計画が完成した時、水辺を活かす新たな街というものが始まることを願って設計した。

全国合同卒業設計展「卒、21」総合資格賞





藤田大輝

1. 大量消費がつくる社会

江戸時代以前は何でもリサイクルしていたが、現代社会は埋立地を造ることによってどんなものでも大量消費ができるようになり、自然に還りにくい物質も造り続けられるようになった。これはいわば使い捨てだ。

2. 暮らしの更新と埋立て限界

高度経済成長期やバブル期に開発された建設されたマンションは老朽化を迎え解体を待つばかりであり今後の人口減少に伴い空き家率が増加すると予想されている。東京都の埋立て計画では約50年後に限界を迎え、都市が大量の廃棄物で溢れかえる。しかし、その後の

の未来は提示されていないのである。

3. 循環型ビルド by スクラップ

現代社会の大量生産では再利用したものであっても最終的に埋立地へ廃棄物が投棄される仕組みである。産業廃棄物が土や木のように何度も利用できる建材に置き換えられ、ビルド by スクラップを繰り返すことで徐々に新たな建築へ変化する。そして、部分解体された土や木は自然に還元させる。

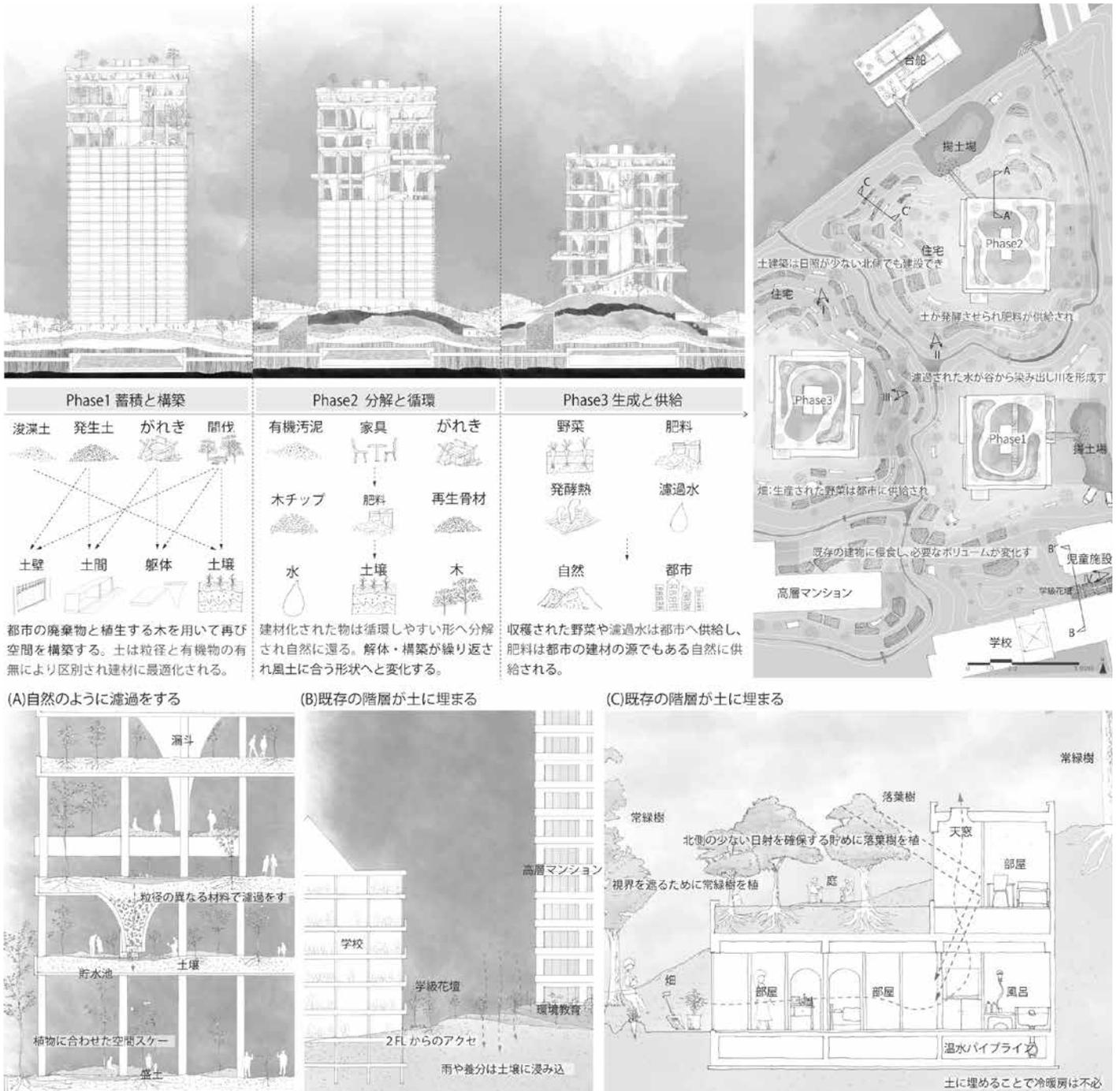
4. タワマンが更新を迎える

臨海部の都市開発の最前線である東京都中央区佃はタワマンの物理的な老朽化と新たな循環可能な暮らしに変わる時期を迎える。計画地はシンボルとなるような新たな循環型都市のあり方を提示するにはふさわしい場所である。

5. 埋立てにより造成された町

人口増加により佃周辺の洲を形成されていた場所でゴミを埋立て処理する従来の処理方法が採用される佃は廃棄物を埋めるために造られたのが始まりである。1673年：江戸時代初期に生ゴミを、空き地や堀、川への投棄が日常的に行われていたが埋立地ができたことで一カ所に集められるようになる。1853年：埋立てが進むにつれ人々が生活する拠点となり、漁業や工業などの産業が発展していく。すると土地が足りず、再び埋立てを行う。2021年：産業が衰退し、再開発が行われるも物理的な老朽化に伴い空き家率の上昇や暮らしの変化に対応しきれない。再開発が行われるエリアである。

第52回毎日・DAS 学生デザイン賞 入賞 / オンライン卒制展2021 秋吉浩気賞

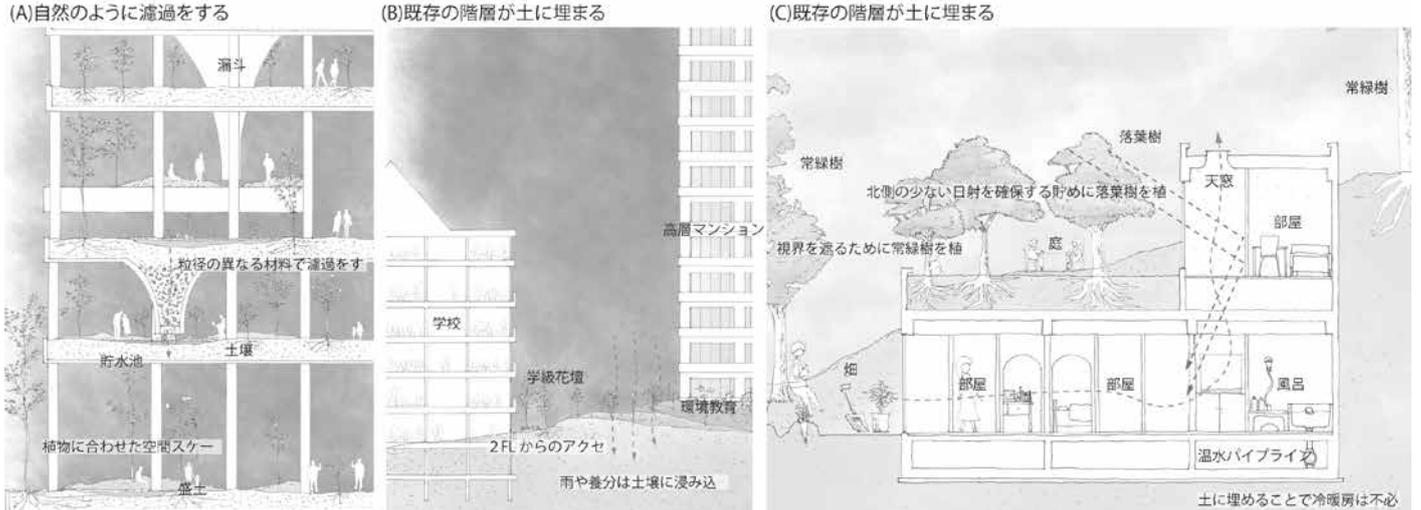


Phase1 蓄積と構築	Phase2 分解と循環	Phase3 生成と供給
浚渫土 発生土 がれき 間伐 ↓ ↓ ↓ ↓ 土壁 土間 躯体 土壌	有機汚泥 家具 がれき ↓ ↓ ↓ 木チップ 肥料 再生骨材 ↓ ↓ ↓ 水 土壌 木	野菜 肥料 ↓ ↓ 発酵熱 濾過水 ↓ ↓ 自然 都市

都市の廃棄物と植生する木を用いて再び空間を構築する。土は粒径と有機物の有無により区別され建材に最適化される。

建材化された物は循環しやすい形へ分解され自然に還る。解体・構築が繰り返され風土に合う形状へと変化する。

収穫された野菜や濾過水は都市へ供給し、肥料は都市の建材の源でもある自然に供給される。



卒業設計

生業に宿る 宿場町の構図と生業の関係性による小田原の再編

佐藤俊介

かつての小田原宿の姿に耳を傾け、散らばった生業を原点である、小田原漁港に集めていく。生業を集めることによって、宿場の構図を回帰する。かつての小田原宿には多くの旅人、商人、料理人が出入りする中でさまざまな生業が誕生し、連鎖していた。「小田原では魚がよく獲れる」「しかし箱根に新鮮な魚を提供できない」「日持ちのする魚の加工品に需要が出るので

は」というところから小田原蒲鉾が誕生し、「あの料理人は蒲鉾を生業とするのか」「他にも日持ちのする魚の加工品があるのでは」と発想を得て、干物の生産が盛んになり今度は「魚の加工に使う刃物に需要が出るのでは」というようにどんどんと生業が連鎖していった。宿場の構図を小田原に回帰し、連鎖を再び起こしていく。ただ小田原に残る生業を集めるだけでなく、現在、小田原の生業と関わりのない、新たな生業を取り込んでいく。

小田原に残る生業と、新たな生業を掛け合わせることによって、発展する可能性を見出していく。その受け皿となる建築を今回提案していく。

受け皿となる建築となるために、ま

ず小田原宿の客間のスケールを抽出し、客間のスケールに旅籠屋、生業を取り込むためにグリッドを構築する。上に積み上げていき、生業の受け皿にすることで、生業の変化に対応していく。かつて、城を囲むように宿場が広がっていた横のつながりを、今回は生業の連鎖を引き起こすために上に積み上げていく。

一定の期間で小田原に残る生業・新たな生業・旅籠屋の配置が入れ替わりながら拡張する。建築の部材は生業の掛け合わせによって段々と変化していくことを想定している。城と城下の関係を現代に合うカタチに再編していく。

箱根の山に沿ったデザインとすることで、海の生業だけでなく山の生業

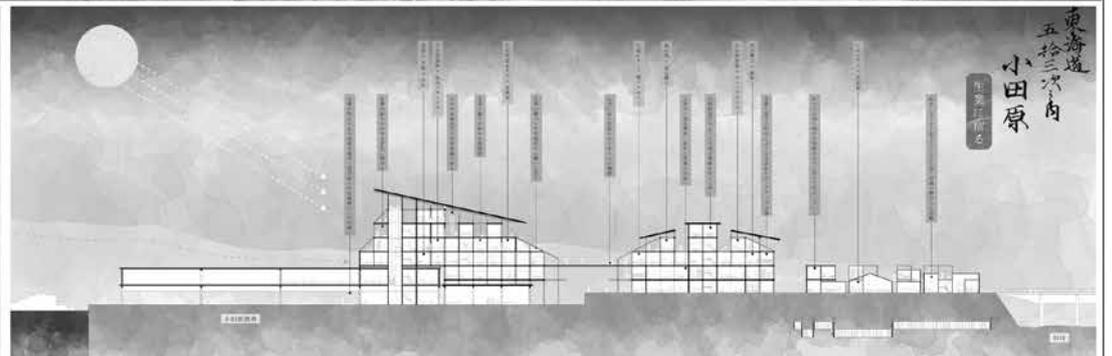
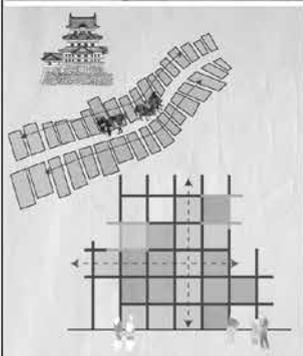
や、豊富な水に恵まれた小田原の地勢を次の世代に継承する。生産から消費までの流れが見えるデザインとすることで、生業の掛け合わせによる連鎖を促進する。既存の建築に寄り添う提案とすることで、生業の存続意識を育みながら、段々と町に馴染んでいく。

通路の隣に設けられたスキマは、他の階へ生業の音や匂いを伝搬する。生業と隣り合わせの旅籠屋が、新たな体験を提供し宿泊する価値を見出す。生業同士は他の階ともつながりやすく、次の期間の生業の掛け合わせの伏線となる。

かつての小田原宿の姿に耳を傾けながら生業に宿ることで、小田原らしさを守り、次の世代へつないでいく。

生業に宿る

宿場町の構図と生業の関係性による小田原の再編



土による都市の回帰 建設残土を用いた都市の新しい姿

的問題が立ち現れつつある。また、大規模な開発に伴う副産物として、行き場を失った建設残土の問題が存在する。

本来、都市は自然が溢れていたことで庭園都市と呼ばれ、日本の美しさの象徴だった。

しかし、今の大都市には人々が利用できる緑地空間は限られている。

そこで、これから日本の象徴となる常磐橋に残土の行き場を作り、土を纏った超高層を設計する。

土が都市の自然環境を循環させ、新しい風景を創る。本計画ではケーススタディとして計画したが、土を纏った建築が都市全体に展開することで、「建築と自然が立体的に共存した都市」を作り上げる。

古角虎之助

本提案は、大規模開発に伴う副産物として存在する建設残土を用いた都市の新しいあり方の提案である。

土は生命の源であり、地球環境や生態系を支える大きな役割を担っている。私たち人間は土から生まれ、自然の流れによる癒しや居心地良さを感じてきたことで、さまざまな恩恵を受けてきた。しかし、大規模な開発を繰り返してきた都市では、徐々に、土と共存していた生活が失われ、さまざまな環境



自然豊かな風景を壊して都市開発することに建築のあり方について違和感を感じるようになりました。そこで、「土と都市開発の融合」と挑戦しました。これから日本の象徴となる常磐橋に残土の行き場を作り、様々な生態系が自然を纏った建築と共存していく提案です。



ケーススタディとして計画しましたが、土を纏った建築が都市全体に展開することで、建築と自然が立体的に共存する都市を作ることができました。



光や風、緑など自然環境と触れ合うことで知的生産性を向上させます



土という柔軟な素材が長い年月をかけて人と土の空間を混在化します



貯水槽を設け溜まった雨水は土を介し濾過を行いながら建物内で循環します

背景：土から受ける恩恵



土は生命の源であり、地球環境や生態系を支える大きな役割を担っています。私たちは、自然の流れによる癒しや居心地良さを感じてきたことで恩恵を受けてきました。

提案：建設残土による再開発

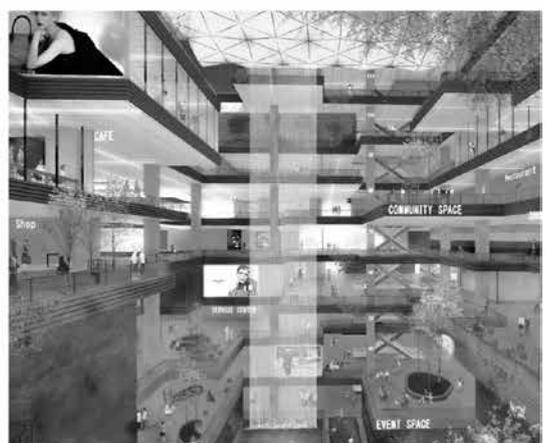


従来の無機質なガラスで覆われたビルではなく、大地からの恩恵を受ける形で土を積層していきます。そうすることで、土を媒介に水や緑、風、光など様々な自然環境と共生する事で、多様な生態系が育る建築を提案します。

課題：都市の傷



超高層部 詳細断面



水や緑が空間を彩り、土による調湿効果が商業施設の冷暖房負荷を軽減させます

今回の設計手法で参考にしたのは抽象表現主義を代表する画家ジャクソンポロックの制作手法である。建築の完成形ではなく手法を設計し、手法に作家性が表れてくる。ポロックの作品からはフラクタルが発見された。その全体における部分の自己相似性を本提案の空間展開の手法として用いる。作家性を持たせた部分（内）を連続させ、全体（表層）を構築することで、表層となる全体と部分となる空間に自己相似性を出す。認識内で生まれるものはわずかでその他はすべて認識外となり、この設計手法によって生まれた認識外の空間の先に完成形はない。そしてこの建築は未完成として人々の創造行為を充分に受容する。

福田晃平

媒体上での消費・評価が当たり前になった現代社会において、建築が単なる視覚体験、表層上での消費物になりうる可能性がある。私は三次元空間の消費が伴う建築を評価したい。芸術の分野において抽象表現主義は難解で不可解であるがゆえに、鑑賞者の創造行為が求められる。それらの制作過程を建築に用い、設計手法を改替することで、今後の建築の在り方を再考する。

-1つの空間を異なるスケールで考え、多様なポテンシャルを見出す-

■都市スケール - 街の動線となる空間

建築□・機能スケール□の集積を区画する街のファサードが作れる

scale 3
vertical city



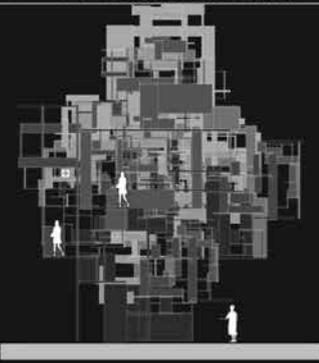
自由消費が積層する垂直都市



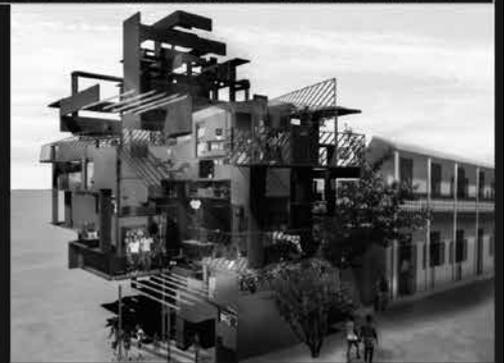
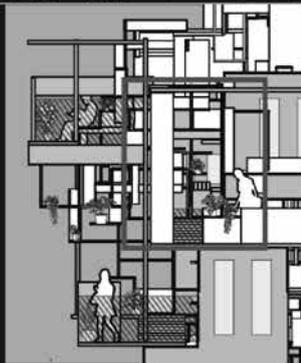
■建築スケール - 人の動線となる空間

建築・機能スケール□による人・物動線の集積から住空間が作れる

scale 2
apartment



木陰生む熱帯のツリーハウス



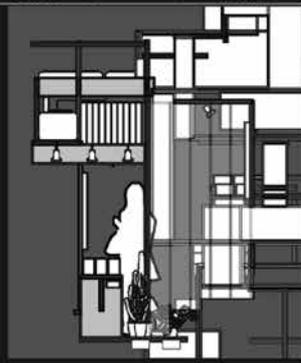
■機能スケール - 物の動線となる空間

機能スケールでは什器や家具として活用した展示空間が作れる

scale 1
exhibition



街に彩を与える都市型店舗



生まれるのではない。建築は町内意識の強いこの街で交流の場所になる。環境が快適になり住み続けられることで、街の継承にもつながるのではないだろうか。そう思い、恒久的な環境装置を都市の隙間に設えた。

通り過ぎる自然、都市構造、文化などその場にある感動したものを一つひとつ共有するように作ることで、結果的に建ち上がってきた建築が都市を対象化させ、自分の居場所が際立って見えてくる。都市を対象化する大きなサイクルを持つ象徴空間、その可能性として自然の流れを生む「たまり」を都市の中に入れる。これは過ぎゆく自然や人を捉える新たな都市の居場所となる。

神林慶彦

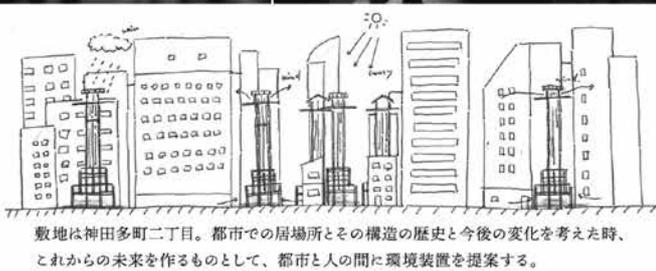
かつて会所地であった街区内側にある細かい地割の低層建物と、周囲の高層建物との間に、「都市の谷」が形成されている。時代の変化とともに地割に残る都市の「ひだ」は、更新とともに淘汰され消えゆく場所となっている。この場所の本質的な受け継ぎ方は何か。

そこで自然の通り道を作ることにより、排気などで淀んだ都市の裏側の換気を図る。そして環境が改善されていくにつれ、街区住人の生活が風の通る外に開いたものに変わり交流がさらに

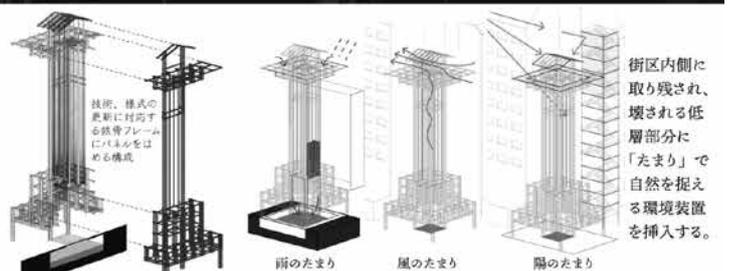
全国合同卒業設計展「卒、21」八木祐理子賞



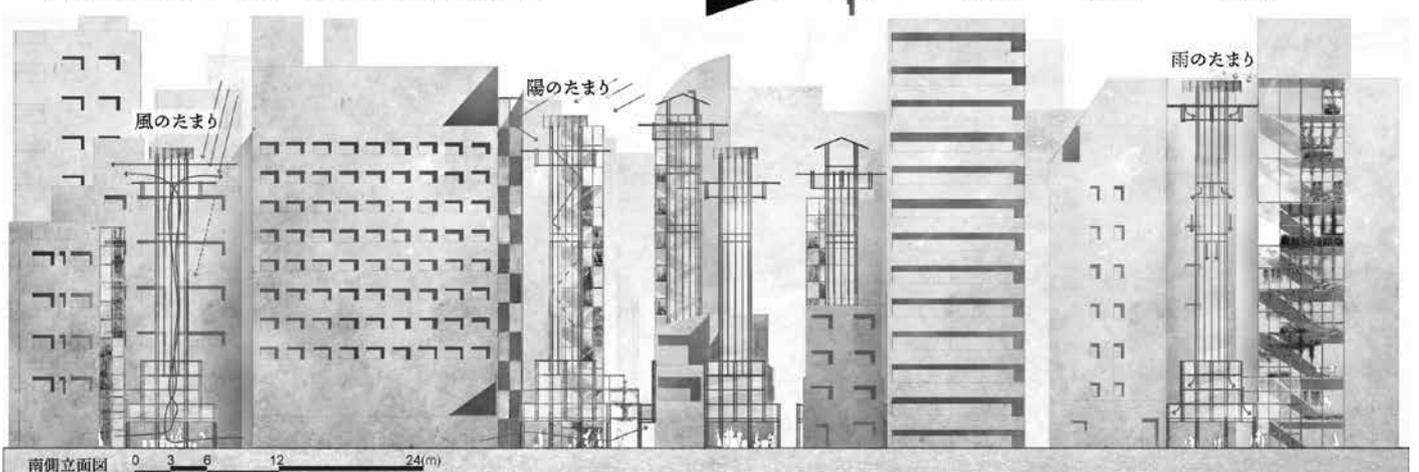
建物が立つことで、見えていなかった領域が見えてくる。街の見方が変わるきっかけを持つ、土地を受け継ぐ建築を作ることを目指した。



敷地は神田多町二丁目。都市での居場所とその構造の歴史と今後の変化を考え、これからの未来を作るものとして、都市と人の間に環境装置を提案する。



街区内側に取り残され、壊される低層部分に「たまり」で自然を捉える環境装置を挿入する。



修士設計

インドネシア共和国における水上交通を活用した首都移転計画の提案
—木質資源を活かした環境配慮型の複合庁舎の設計—

黄 起範

はじめに

2019年8月、インドネシア共和国政府は現在の首都であるジャカルタから北東方向に1000km以上離れたボルネオ島への首都移転計画を発表した。これはジャカルタの抱える地震・火山などの自然リスクや人口増加による渋滞・大気汚染・水質汚濁・地下水の過剰汲み上げによる地盤沈下などから逃れることが主目的であり、政府発表

は2024年に第1弾の移転を開始、建国100周年の節目となる2045年までに首都機能を完全移転する計画であると発表された。しかし発表された計画を見ると大陸型の都市計画がなされており、群島国家群が広がる東南アジア地域で持続可能で効果的に機能するかには疑問が残る。多数の島々で構成されるインドネシア共和国等の東南アジア諸国が均衡ある発展を遂げるには、大陸で発展した陸路を主軸とした交通インフラよりも舟運を利用した都市設計が効率的であると考えられる。そこで東南アジア地域の地理的特性を重視した舟運物流を主軸とした都市を計画し、そのシステム上で効率的な建築形態の1つとしてCLTプレファブコンテナ

ユニット（CLT-PCU）建築を提案する。これは東南アジア地域の木質資源を活用した気候風土に調和した新しい建築の在り方を考えるもので、本移転計画で最初に移転する8つの国家省庁が入る複合庁舎施設を設計・提案する。

計画方針

現在インドネシアが進める首都移転計画は更地に一から理想都市を建設する20世紀型の首都移転計画である。しかし過去の例を見るにすべてが規格で統一された理想都市は必ず拡張に際して破綻するものである。そこで私は都市の拡張方法に重点を置いた首都移転計画を提案すべきであるとする。本計画で私が重要視し、新たに提案する要素は以下の4つである。

1. 東南アジア地域に最適な都市交通・物流の在り方としての舟運ネットワークの提案

諸島国家が多い東南アジアの地域インフラとしてまずは今回の新首都で舟運物流システムを導入、湾を挟んだ都市圏内での交流から始まり内海を通過してインドネシア中に新首都建設による開発の熱気を広げ、地域の発展を補助する。

2. 運河ネットワークを利用して上流・下流をつなぐ循環農林漁業システムの構築

首都移転先である東カリマンタンの大部分を覆うアブラヤシのプランテーションから出る木材を利用して都市にCLT建材を提供し、プランテーション（林業）↔農業↔漁業をつなぐ循環農林業を行う。

インドネシア共和国における水上交通を活用した首都移転計画の提案

—木質資源を活かした環境配慮型の複合庁舎の設計—



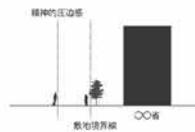
設計ダイアグラム



物理的に庁舎を接続することで省庁間連携を強化



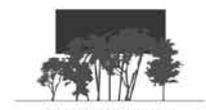
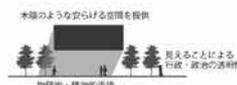
原生林の再現による環境保護意識の醸成



庁舎建築の圧迫感を敷地を開放することで消す



木々に紛れる構造体で作るシームレスなアプローチ



3. 舟運ネットワークと循環林業に支えられる CLT-PCU 建築

プランテーション廃材を原料とした CLT 産業を上流域で発展させる。居住ユニットの骨組みとして使用する RC/PC 構造物に比して寿命の短い CLT ユニットを入れ替えることで建築の用途転換やリフォームを迅速に行い、中古住宅ユニット市場を形成することで都市部のリノベーション需要に迅速にこたえるだけでなく郊外や未発達地域に安価で良質な住宅を供給できるようになる。

4. 河川からの水の供給量によって開発を制限する、運河を基軸として面的に拡張する都市の提案

現在のジャカルタが抱える問題は狭い地域に過剰な人口が流入したことが

すべての原因である。そのため本提案では降雨量により制限される水の供給量で都市の計画拡張範囲と計画人口を設定し、土地の限り都市を広げることのできる陸上交通ではなく絶対量で制限される運河の水量で都市を拡張する。

基本計画

計画地の Tik.Adang に注ぐ 4 + 1 運河を基軸に都市を面的に拡張する運河都市システムを提案する。この都市はブラジル：クリティバ市のような公共交通志向型開発 (Transit-Oriented Development) を念頭に計画し、都市区画は「風の道」と命名した線状緑地帯に沿って存在する幅 200m 程度の住区を大小の運河でおおよそ 0.75km × 3km のグリッドに区

切ったセルで構成される。セル間の縦方向 (運河の流れに沿った方向) 移動を水上バスが、横方向をバスと携帯型個人移動手段が主に担当する。その環境で効率的と思われる建築様式として、耐用年数の差によるユニット入れ替えの促進と居住空間を CLT・骨組みを RC により構成したスケルトンインフィル方式の CLT-PCU 建築を提案し、例として 8 省と都市基幹公園で構成される複合庁舎施設を設計する。

建築計画

設計に際してはインドネシア共和国の新首都に建つ庁舎として将来の発展、持続的な開発を可能にするための自然保護、信頼できる透明性の高い政治をテーマとして設計する。省庁間連

携の強化による行政の効率化と規制撤廃による経済の活性化を物理的・視覚的に示すために各棟が会議塔を介して接続しているクラスター形状の配置計画となっている。地表部分を都市基幹公園として市民に開放することで開かれた行政をアピールし、建築ボリュームを宙に浮かすことで物理的にも市民との距離が近い庁舎を目指す。現在進行中の首都移転計画のテーマである「Forest City」を継承し、プランテーションで失われたインドネシアの原生林を公園内・庁舎周辺に再現する。庁舎の構造を株立ちした樹木のような複数の柱で吊ることで地表レベルからは木々の幹に紛れるように庁舎を浮かせる。

CLT-PCUのライフサイクル

アブラヤシプランテーション



伐採されたアブラヤシの活用



CLT-PCU化

船による大量輸送

CLT-PCUの設置

改装・リノベーションに伴うユニット入れ替え

中古市場でストック

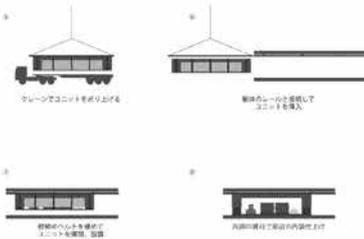
郊外・地方へ住宅キットとして提供

耐用限界を迎えたら粉砕されて土壌改良材に

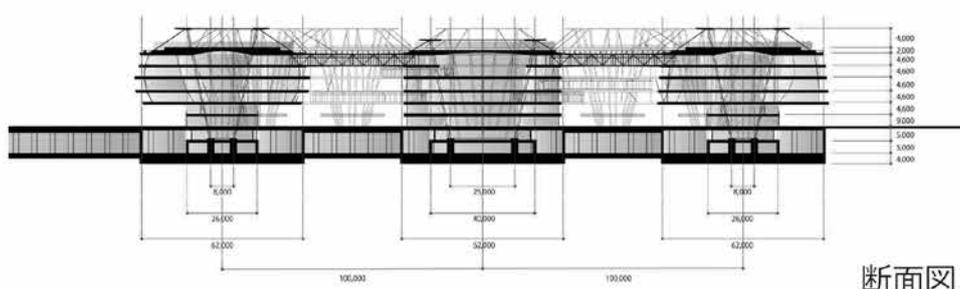


土中に還元することでカーボン・マイナスを実現

CLT-PCUの施工方法



階層	用途	面積	構造	設備	備考
1F	ロビー	10,000	RC	エレベーター	主要動線
2F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
3F	事務室	20,000	RC	空調	主要業務
4F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
5F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
6F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
7F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
8F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
9F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
10F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
11F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
12F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
13F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
14F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
15F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
16F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
17F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
18F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
19F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
20F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
21F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
22F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
23F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
24F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
25F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
26F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
27F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
28F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
29F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
30F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
31F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
32F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
33F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
34F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
35F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
36F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
37F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
38F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
39F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
40F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
41F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
42F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
43F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
44F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
45F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
46F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
47F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
48F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
49F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議
50F	会議室	5,000	RC	空調	重要会議



断面図

修士設計

北極点における浮体式活動拠点の提案

—環境配慮型ホテルを併設した国際研究施設の設計—

山本壮一郎

■コンセプト

私は本計画において、「海洋建築工学科と海洋建築工学専攻での学びの総

決算となる建築」を軸として設計に取り組みました。この中心軸を支える要素として、1. 海洋建築ならではのフィールドを選定し 2. そのフィールドにおける社会的要請に応え 3. 海洋建築工学の技術のうえに立脚する建築計画、の以上3点を基本方針として設定。詳細な調査や専門機関へのインタビュー、海洋建築工学専攻の教員諸氏の協力を通してこれらをより具体化していくことで、1. 陸地がないためにその重要性に反して活動拠点が整っていない、北極点上の海域を対象とし 2. 世界的な需要が見込まれる「科学やツーリズムに軸足を置き、開かれた運営形態の活動拠点」であり 3. 大深度かつ海水圧にさらされる海域に適

した、トート係留によるトラスパー型浮体式建築物、という計画方針を策定しました。これらを踏まえ、この北極点上に位置する浮体式建築物は、官民間問わずすべての人々に等しく開かれた研究・観測施設、宿泊施設、観光拠点の複合施設という構想の上に成り立っています。

■建築計画

前述のコンセプトを実現するために、以下の5つの要件に照らした具体的建築計画を策定しました。

1. 海水圧の影響を抑えながら大規模な建築空間を確保すること
対象海域は年間の多くを海氷に閉ざされており、海水の圧力を受け続ける

こととなります。こうした環境下に適応すべく、水面における面積を抑え、同時に外部からの力に強く安定した円形平面をとることが可能なスパ型浮体（深さ方向に大きな躯体とすることで外力に対する安定性を確保する型式）を採用しました。また、上部バラストと躯体によって副次的に生まれる静水域は水中ドローンの格納庫として活用しています。

2. 大型砕氷船が接舷可能なデッキを確保すること

対象海域へのエントリーには、時期によっては大型砕氷船が必須となります。これに加え、将来的にコンテナ船による物資搬入などを見据えると大型船が接舷可能な大規模デッキの整備は



必要不可欠です。その一方で、前述の海氷圧の影響を抑えるためには海水面の面積を可能な限り小さくすることが求められます。これらの両立を、スパイ型浮体をもつ噴水調整機能を高度化することによって解決します。平時は面積の小さい建築下部に噴水線を設定し、大型船の接舷時は高度調整により建築上部に噴水線を移動させ、大規模デッキを活用することができる形態としました。

3. 研究機能と観光機能を両立すること

本計画の主要機能は、研究機能と観光機能に大別されます。トップサイド（上部構造物）では平面計画上電波望遠鏡を有する区画を研究機能の中核、ホテルを有する区画を観光機能の中核

とし、これらの中間領域にミュージアムや教育機能など段階的に区画を設定することで、セキュリティの担保と交流を可能とします。一方噴水調整によって水際線と接するスパイ部分（下部構造物）は円形の平面構成とし、これを居室とバラストタンクに分けるものとしました。浮体と重量物という構成上、バランスの取れた平面形を実現するものうち最もシンプルな6等分の平面形を採用しています。

4. 基地人口や両機能の需要の変化に応じて柔軟な用途変更が可能であること

極地の基地では夏季と冬季で施設人口に大きな開きがあり、夏季の人員に合わせた施設規模は越冬時には過剰となってしまいます。この問題に対応す

るため、トップサイドの躯体をモジュール化することで両機能の需要バランスに応じて柔軟に用途を変更でき、また冬季は一部を閉鎖して稼働フロアを集中することで空調を効率化することが可能な構成としています。

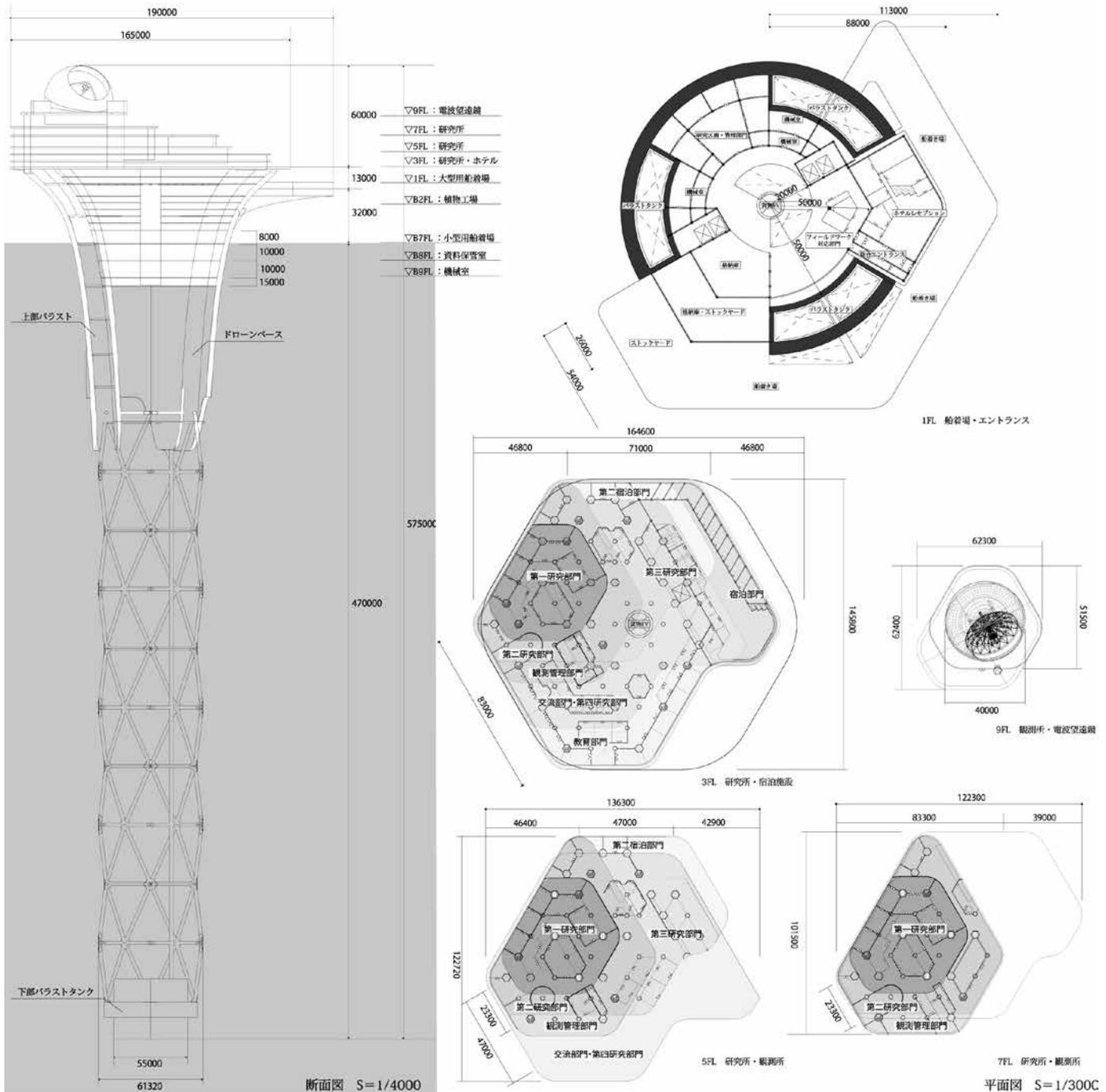
5. 環境に配慮した施設計画とすること

海洋環境における環境配慮の方策は多岐にわたりますが、本計画では①施設内部で生じた熱を外部環境に放出しない②排泄物を含めた廃棄物を外部環境に放出しない③化石燃料由来のエネルギーを利用しないの以上3つの方策に重点を置く方針を取っています。マクロな視点では本施設が稼働することによって得られる知見によって北極域の環境に与えるプラスの影響でもって

本施設を設置することによる環境負荷を上回る成果を出し、ミクロな視点でも周辺環境への負荷を可能な限り減ずることをもって、本計画における環境配慮としました。

■総括

本計画は、冒頭に述べたコンセプトをかたちにすべく、10年、20年先の未来に実現可能なラインを見据えた提案となっています。本計画に用いた技術や構法の多くが既存のものであることからわかるように、すでに技術的なハードルは解消されつつあります。いつの日か、こうした海洋建築の知見が社会の求めに応じて現実のものとなることを期待して、本提案の締めくくりとしたいと思います。



■コンペ受賞歴一覧

日本一 35作品 (卒業設計 23作品、建築学会コンペ 1作品、その他のコンペ 11作品)

日本二 23作品 (卒業設計 2作品、建築学会コンペ 4作品、その他のコンペ 17作品)

日本三 12作品 (卒業設計 1作品、建築学会コンペ 5作品、その他のコンペ 6作品)

その他受賞数 365作品

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
昭和52年	●第10回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/石渡孝夫(建築学科海洋コース) 日本一		
53	●第11回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/富田善弘(建築学科海洋コース) 日本一		
54	●第12回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/小林直明(建築学科海洋コース) 日本一		
56	●第14回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/吉本宏 日本一 ・同入選/松本康治		
57	●第15回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞/稲村健一 日本一	●「地場産業振興のための拠点施設」 ・支部入選/鈴木洋一	
58	●第16回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/遠藤卓郎 日本一 ○(社)日本港湾協会主催マリノポリス計画コンテスト ・優秀特別賞/川口利之	●「国際学生交流センター」 ・全国入選佳作/稲村健一 ・支部入選/大久保豪、杉田祐之、花岡豊、星野博史	
59	○第17回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/稲村健一		●第11回日新工業設計競技「ノアの箱船」 ・3等/遠藤卓郎、岩崎博一 日本三 ●R.I.B.A 英国王立建築家協会国際学生デザインコンペ ・入賞/中村耕史、秋江康弘、稲村健一 ●第19回セントラル硝子国際設計競技「グラスタワー」 ・佳作/秋江康弘 ●三井ホーム住宅設計競技「2×4による新しい住まい」 ・佳作/川口利之、菅沼徹、筒井毅 ●桜門建築会第1回学生設計コンクール「建築学生交流センター」 ・佳作/稲村健一
60	●第18回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/富田誠	●「商店街における地域のアゴラ」 ・全国入選3等/藤沢伸佳、柳泰彦、林和樹 日本三	●A.I.A アメリカ建築家協会国際学生コンペ ・2等/秋江康弘 日本二
61	●第19回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/小野正人	●「外国に建てる日本文化センター」 ・全国入選3等/小林達也、佐藤信治、小川克巳 日本三 ・支部入選/渋谷文幸 ・支部入選/林和樹、鶴飼聡(建築)、高橋義弘(建築)	●桜門建築会第2回学生設計コンクール「桜門校友クラブ」 ・1等/山崎淳一、松尾茂 ・佳作/小林達也、佐藤信治 ●第6回ホクストン建築装飾デザインコンクール「まちなかの公共トイレ」 ・佳作/小林達也
62	●第20回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/海老澤克	●「建築博物館」 ・支部入選/松尾茂、横堀士郎、石川仁、鳥海清二(建築) ・支部入選/小野正人、小沢一実、渡邊俊幸	●ミサワホーム住宅設計競技 ・入選/小林達也
63	●千葉県建築三会学生賞 ・銅賞/近藤陽次 地域三 ・奨励賞/毛見究	●「わが町のウォーターフロント」 ・全国入選1等/新岡英一、橋本樹宜、丹羽雄一(建築)、毛見究、草薙茂雄 日本一 ・全国入選佳作/園部智英、石川和浩、原田庄一郎 ・支部入選/松尾茂、山本和清 ・支部入選/岩川卓也	●'88膜構造デザインコンペ ・佳作/山口明彦 ●第2回千葉ふるさと住宅設計コンクール ・佳作/川村佳之 ●桜門建築会第3回学生設計コンクール「ゲストハウス」 ・1等/山口明彦、原利明(建築)、渡辺一雄(建築) ・2等/加藤麻生 ・3等/飯田隆弘、丹羽雄一(建築)、有馬哲也(建築) ・佳作/小堀泰毅、伊藤剛 ・佳作/長谷川晃三郎、佐久間明

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成1年	<ul style="list-style-type: none"> ●第22回毎日・DAS学生デザイン賞 ・建築部門賞／長谷川晃三郎 日本一 ・入選／佐久周明 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／佐久周明 地域一 ・奨励賞／長谷川晃三郎 	<ul style="list-style-type: none"> ●「ふるさとの芸能空間」 ・全国入選2等／新岡英一、長谷川晃三郎、佐久周明、岡里潤 日本二 ・全国入選3等／丹羽雄一(建築)、益田勝郎 日本三 	<ul style="list-style-type: none"> ●石川県建築士会設計競技「垂直複合体」 ・1等／矢野一志、佐藤教明、菊池貴紀、廣川雅樹、安田友彦、鈴木宏佑 日本一 ●第1回横浜アーバンデザイン国際コンペ ・選外入選／長谷川晃三郎 ●第3回千葉ふるさと住宅設計コンクール「安全で魅力ある三世代住宅」 ・入選／山本和清
2	<ul style="list-style-type: none"> ●第23回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／山口哲也 ●千葉県建築四学生会賞 ・金賞／矢野一志 地域一 ・銅賞／山口哲也 地域二 	<ul style="list-style-type: none"> ●「交流の場としてのわが駅わが駅前」 ・全国入選2等／植竹和弘、根岸延行(建築)、中西邦弘(建築) 日本一 ・全国入選3等／飯田隆弘、佐藤教明、山口哲也 日本三 	<ul style="list-style-type: none"> ●石川県建築士会設計競技「海に浮かぶ市場」 ・3等／川久保智康、野沢良太 日本三 ●第2回横浜アーバンデザイン国際コンペ「ウォーターフロントの再生に向けて」 ・佳作／矢野一志、佐藤教明、大坪一之、屋田直樹、佐藤滋晃、菊池貴紀、菅野聡明、門脇桂子、馬場昭光 ●BAY'90デザインコンペ (BAY'90開催記念学生建築設計競技) ・優秀賞／佐久周明 日本一 ・佳作／益田勝郎 ●桜門建築会第4回学生設計コンクール「建築家ギャラリー」 ・2等／岡里潤、寺尾浩康、馬場昭光 ・佳作／植竹和弘、白石充、根岸延行(建築) ・佳作／山口哲也、佐藤教明 ・佳作／広部剛司、佐藤岳志、菅浩康 ●第10回ホクストン建築装飾デザインコンペ「都市公園に建つフォーリー」 ・佳作／武田和之、岡里潤
3	<ul style="list-style-type: none"> ●第24回毎日・DAS学生デザイン賞 ・建築部門賞／高橋武志 日本一 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／高橋武志 地域一 ・奨励賞／廣川雅樹 	<ul style="list-style-type: none"> ●「都市の森」 ・1部全国入選2等／山口哲也、河本憲一、廣川雅樹、日下部仁志、伊藤康史、高橋武志 日本二 ・2部全国入選最優秀／片桐岳志 ・2部支部入選／布川亨、八代国彦(建築)、堤秀樹 	<ul style="list-style-type: none"> ●JIA オープンデザインコンペ「都市の解体と再構築」 ・1等／佐藤教明、山口哲也、木口英俊 日本一 ・佳作／川久保智康、野沢良太 ●'91メンブレインデザインコンペ「アーバンビルとメンブレイン」 ・最優秀賞／河本憲一、石井昭博、関戸浩二、福田昌弘 日本一 ●第2回長谷工イメージデザインコンペ「現代の夢殿」 ・入選／川添隆史、渡辺千香子 ●第18回日新工業建築設計競技「都市空間の再生計画」 ・入選／川久保智康、野沢良太、花沢真哉、高山一頼、伊藤裕、森泉尚之、額村康博、布川亨、八代国彦(建築) ●第3回タキロンデザインコンペ「時代の風をはらむ都市装置」 ・3等／降旗恭子、黒田佳代 日本三 ・入選／木口英俊 ●第5回千葉ふるさと住宅設計コンクール「共働き家族のための住宅」 ・奨励賞／川添隆史 ●第2回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・フレッシュデザイン賞／木口英俊、渡辺昇 ●1991第1回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京の住まい」 ・佳作／佐藤教明
4	<ul style="list-style-type: none"> ●第25回毎日・DAS学生デザイン賞 ・建築部門賞／片桐岳志 日本一 ・入選／寶田陵 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／片桐岳志 地域一 ・銅賞／寶田陵 地域二 ●東京ガス・銀座ポケットパーク「卒業設計制作展」第10回記念『1993卒業設計制作大賞』 ・金賞／寶田陵 日本一 ・銅賞／片桐岳志 日本三 	<ul style="list-style-type: none"> ●「わが町のタウンカレッジをつくる」 ・1部全国入選3等／佐藤教明、木口英俊 日本三 ・1部全国入選佳作／廣川雅樹、寶田陵 ・1部支部入選／山口哲也、河本憲一 ・1部支部入選／木口英俊、高橋武志 ・2部支部入選／関谷和則、石渡義隆 ・2部支部入選／平崎彰、望月喜之 	<ul style="list-style-type: none"> ●盛岡・水辺のデザイン大賞 ・専門部門佳作／佐藤信治、河本憲一、廣川雅樹、伊藤康史、日下部仁志、高橋武志、伊藤賢 ●奈良・TOTO 世界建築トリエンナーレ ・佳作／川久保智康、野沢良太、永島元秀 ●'92メンブレインデザインコンペ「オートキャンプ場」 ・2等／片桐岳志 日本二 ・佳作／高橋武志、関戸浩二 ●桜門建築会第5回学生設計コンクール「わがヒーローとの出会い」 ・2等／片桐岳志、岡田和紀 ●アーキテクチャー・フェア KOBE 学生設計競技「神戸・学園東地域福祉センター」 ・佳作／吉田幸正 ●川鉄デザインコンペ'92 ・佳作／三輪政幸 ●第3回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・フレッシュデザイン賞／佐藤教明 ●第19回日新工業建築設計競技「記憶の住む家」 ・佳作／野沢良太 ●1992第2回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京屋台空間」 ・佳作／竹内大介、高山一頼、宍倉尚行 ●DYNAX 第2回建築学生・設計大賞'92「〈太陽・月・炎〉の家」 ・奨励賞／竹内大介、高山一頼、宍倉尚行 ・奨励賞／石井昭博、寶田陵、西上順久

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成4年			<ul style="list-style-type: none"> ●第4回タキロン国際デザインコンペ「風の道・水の道」 ・3等/山口哲也、川久保智康、木口英俊、永島元秀、布川亨 日本三 ・3等/高橋武志、石井昭博 日本三 ●1992新建築住宅設計競技「スタイルのない住宅」 ・佳作/川久保智康、高山一頼 ●「(仮称)中原中也記念館公開設計競技」 ・佳作/山口哲也、木口英俊
5	<ul style="list-style-type: none"> ●第26回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・洋々賞/吉田幸正 日本二 ・入選/関谷和則 ●千葉県建築三会学生賞 ・金賞/関谷和則 地域二 ・銀賞/吉田幸正 地域二 	<ul style="list-style-type: none"> ●「川のある風景」 ・1部全国入選佳作/片桐岳志、小野和幸 ・1部支部入選/石井昭博、林正輝、福田昌弘、山口泰永 ・2部全国入選佳作/橋本廉太郎、神蔵良隆、藤生利道 ・2部全国入選佳作/関谷和則、三輪政幸 	<ul style="list-style-type: none"> ●石川県建築士会設計競技「21世紀の公園」 ・佳作/片桐岳志 ●第4回長谷工イメージデザインコンペ「現代のさや堂」 ・入選/片桐岳志 ●JIA 東海・北陸支部第10回設計競技「磐座〜いわくら〜」 ・銀賞/田中宏、岡田和紀、澤田憲子、倉川友紀 日本二 ・佳作/岡田和紀、田中宏、澤田憲子、倉川友紀 ●新知的生産環境1993デザインコンペティション「グループによる新しい知的生産環境の在り方」 ・優秀賞/小野和幸 日本二 ●第4回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・フレッシュデザイン賞/岡田和紀、田中宏、木口英俊、川久保智康
6	<ul style="list-style-type: none"> ●第27回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/清水信友 ・入選/戸國義直 ●千葉県建築三会学生賞 ・金賞/清水信友 地域二 	<ul style="list-style-type: none"> ●「21世紀の集住体」 ・1部支部入選/小野和幸、田村裕彦、高野勇治(建築)、國武陽一郎(建築) 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりコンクール'94「都市を水からデザイン」 ・優秀賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 日本二 ・佳作/田村裕彦、岡田和紀、小野和幸、鳥居延行 ・特別賞/井上真樹、馬淵晃 ●桜門建築会第6回学生設計コンクール「磯野家のすまい」 ・優秀賞/小野和幸、井上真樹、小山貴雄 ●川鉄デザインコンペ'94 ・学生大賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 日本二 ●小山市城東地区街角広場デザインコンペ ・佳作/坪山幸王、佐藤信治、石井昭博、林正輝、福田昌弘、石渡義隆、関谷和則、館吉保、清水信友 ●新知的生産環境1994デザインコンペティション「高齢者のための新しい知的生産環境の在り方」 ・入賞/小野和幸 ●第1回ARCASIA 学生賞1994「永続性ある発展を目指した都市居住と住宅改革」 ・優秀賞/小野和幸、高野勇治(建築)、岡田和紀、山越寧(建築) 日本二
7	<ul style="list-style-type: none"> ●第28回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/田村裕彦 ●千葉県建築四会学生賞 ・銅賞/浦野雄一 地域三 ・奨励賞/田中厚三 	<ul style="list-style-type: none"> ●「テンポラリー・ハウジング」 ・1部支部入選/清水信友 	<ul style="list-style-type: none"> ●JIA 東海支部第12回建築設計競技「紙〜紙で街に仕掛ける〜」 ・銀賞/井上真樹、馬淵晃 日本二 ●第9回千葉ふるさと住宅設計競技「ライフサイクルを見据えた安全で快適な住まい」 ・奨励賞/田中厚三 ●第5回BUFF 国際建築デザインコンペ「東京水空間」 ・選外優秀作品賞/広瀬倫恒 ●世界の民族人形博物館国際学生アイデアコンペ ・佳作/梶原崇宏、村松保洋 ●第3回札幌国際デザイン賞「雪の生活文化」 ・佳作/馬淵晃 ●第6回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・作品展示/下平将也 ・作品展示/川崎拓二
8	<ul style="list-style-type: none"> ●第29回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/富永恒太 ●千葉県建築四会学生賞 ・銀賞/中村武晃 地域二 ・奨励賞/小川太士 		<ul style="list-style-type: none"> ●石川県建築士会設計競技「インテリジェンスファクトリー」 ・選外優秀作品賞/小山貴雄 ●第10回千葉県街並み景観賞 ・準特選/鳥居延行 地域二 ●桜門建築会第7回学生設計コンクール「キャンパスコア」 ・キャンパス賞/田中厚三、松元理恵 ●第10回千葉県ふるさと住宅設計競技「増改築を考慮したロングライフの住宅」 ・奨励賞/田中厚三 ●第10回建築環境デザインコンペティション「東京湾内のエコシティー」 ・佳作/小山貴雄 ●第2回九州デザインコンペティション「バリアフリーデザイン」 ・協賛企業賞/小山貴雄、田中厚三、安藤亮、北田紀子、峰村亮(生産建築) ●第6回優しい食空間コンテスト「食空間デザイン」 ・入選/馬淵晃 ●第9回ゆとりある住まいコンテスト「住まいの収納」 ・1等/田中厚三 日本二

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成8年			●'97GREEN DESIGNING IN YAMAGATA「地球環境にやさしいデザイン」 ・奨励賞／馬淵晃
9	●第30回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／市原裕之 ・入選／針生康 ●千葉県建築四会学生会賞 ・奨励賞／市原裕之 ・奨励賞／針生康	●「21世紀の学校」 ・1部全国入選2等／村松保洋、渡辺泰夫 日本二	●石川県建築士会設計競技「ヒーリング・プレイス」 ・優秀賞／富永恒太 日本二 ●第8回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・作品展示／宮下新 ・作品展示／佐藤洋、木村太輔、村松可奈子、北田紀子 ●桜門建築会三学部建築学生交流フォーラム ・審査員特別賞／長井厚、田中啓一、寺内学、関香織、村田昌彦 ●運輸省「みんなでつくろう海洋国日本 未来のアイデア大募集」 ・学校部門 フロンティア賞／鳥居延行、若山喜信、金田岩光 ●日本大学理工学部建築学科「TEMPORARY SPACE COMPETITION(DOME COMPE)」 ・優秀賞／石川阿弥子、大野貴司、桶川嘉子、山田博栄 ●第5回秀光学生コンペティション 新知的生産環境1997「挑戦するオフィス」 ・入賞／富永恒太 ●東京建築士会第33回建築設計競技「コミュニティコアとしての小学校の再生」 ・佳作／佐藤信治、市原裕之、田中克典、長井厚
10	●第31回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／大野貴司 ●千葉県建築四会学生会賞 ・金賞／大野貴司 地域二		●第4回北陸の家づくりコンペ「環境共生住宅」 ・最優秀賞／田中克典 日本一 ・優秀賞／長井厚 日本二 ●第2回太陽電池を用いた創造的構築物「太陽の恵みと建築との調和」 ・奨励賞／市原裕之 ●壁装材料協会主催「第6回明日のインテリア・アイデア・コンクール」 ・会員企業賞／伊藤昌明
11	●千葉県建築四会学生会賞 ・銀賞／寺田健 地域二 ・特別賞／江橋亜希子		●第5回北陸の家づくり設計コンペ「60年住む家」 ・優秀賞／塙貴宏 日本二
12	●第33回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／渡邊昌也 ●千葉県建築四会学生会賞 ・奨励賞／原香菜子 ・奨励賞／渡邊昌也	●「新世紀の田園居住」 ・タジマ奨励賞／青山純、岡田俊博、岡部敏明、木村輝之、斉藤洋平、重松研二、秦野浩司	
13	●第34回毎日・DAS学生デザイン賞 ・建築部門賞／秦野浩司 日本二 ●千葉県建築四会学生会賞 ・奨励賞／秦野浩司 ・奨励賞／木村輝之	●「子どもの居場所」 ・関東支部入選／齋藤洋平、木村輝之	●栃都市開発技術サービス「坪井地区を対象としたエコ・テクノロジーの活用によるまちづくり計画の提案」 ・優秀賞／山端俊也 日本二 ・佳作／大工原洋充、舟岡徳朗 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選／羽根田治
14	●第35回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／丸山貴広 ・入選／山下忠相 ●千葉県建築四会学生会賞 ・奨励賞／栗田耕史 ・奨励賞／長坂悠司		●第2回仏壇デザインコンペティション2002 森正 ・審査員長特別賞／鷺淵正憲、渡邊昌也、伊藤麻也、坂元晋介 ●福山大学建築会デザインコンペティション2002 ・佳作／白砂孝洋 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選／清水大地 ●第8回飛騨・高山学生家具デザイン大賞 ・入選／丸山貴広
15	●第36回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／川崎未来生 ●千葉県建築四会学生会賞 ・奨励賞／川崎未来生 ・奨励賞／白砂孝洋		●新建築住宅設計競技2003 ・2等／川崎未来生 日本二 ●福山大学建築会デザインコンペティション2003 ・金賞／片桐雄歩 日本一 ・入選／白砂孝洋 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選／中村智裕
16	●第37回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／永嶋順一 ・入選／佐藤俊介 ●千葉県建築四会学生会賞 ・特別賞／稲垣直秀 ・奨励賞／勝又洋	●「建築の転生・都市の転生」 ・全国入選佳作／丸山貴広、鈴木貴之、塚本哲也、長坂悠司、吉田健一郎 ・東海支部入選／土井涼恵、内田真紀子	●福山大学建築会デザインコンペティション2004 ・佳作／土井涼恵 ・入賞／勝又洋 ・入賞／奥田祥吾 ・佳作／三村舞、勝間田洋子、望月菜生 ・佳作／渡辺秀哉 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 ・入賞／賀山雄一

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成17年	<ul style="list-style-type: none"> ●第38回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/鈴木啓史 ・入選/渡辺秀哉 ●第18回千葉県建築学生賞 ・優秀賞/渡辺秀哉 地域二 ・奨励賞/鈴木啓史 ○第4回 JIA 大学院修士設計展 ・出展/京野宏亮 	<ul style="list-style-type: none"> ●「風景の構想—建築をとおしての場所の発見」 ・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕 	<ul style="list-style-type: none"> ●9坪ハウスコンペ2005 ・佳作/金子太亮 ●TEPCOインターカレッジデザイン選手権 ・優秀賞/金子太亮、京野宏亮 日本一 ●福山大学建築会デザインコンペティション2005 ・入賞/桔川卓也 ・佳作/河原一也、信戸佑里 ●(株)東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選/五十嵐大輔
18	<ul style="list-style-type: none"> ●第39回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/桔川卓也 ●卒業設計日本一決定戦 ・日本三/桔川卓也 日本三 ●卒業設計裏日本一決定戦 ・裏日本一/桔川卓也 日本一 ●第19回千葉県建築学生賞 ・特別賞/河原一也 ・奨励賞/丹沢裕太 ●第30回学生設計優秀作品展 ・レモン賞/桔川卓也 ○第5回 JIA 大学院修士設計展 ・出展/勝又洋 ・出展/金子太亮 	<ul style="list-style-type: none"> ●「近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生」 ・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕 ・関東支部入選/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉 ●「美しいまちをつくる むらをつくる」 ・最優秀賞/渡辺秀哉 ・足立区長賞/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉 	<ul style="list-style-type: none"> ●SMOKERS' STYLE COMPETITION 2006「パブリックスペースと分煙」 ・佳作/勝又洋 ●TEPCO インターカレッジデザイン選手権「現実を虚構化する住宅/虚構を現実化する住宅」 ・最優秀作/勝又洋 日本一 ●(株)ナムラコンチネンタルホーム事業本部・(株)日本住研 第3回住まいのデザインコンテスト「わたしが暮らす家」 ・優秀賞/勝又洋、金子太亮 日本一 ●(株)東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選/島田かおり
19	<ul style="list-style-type: none"> ●第40回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/赤澤知也 ・入選/丸山大史 ●第20回千葉県建築学生賞 ・優秀賞/小松崎博敬 地域二 ・奨励賞/西村秀勇 ○第6回 JIA 大学院修士設計展 ・出展/三村舞 		
20	<ul style="list-style-type: none"> ●第41回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞/椎橋亮 日本一 ●第21回千葉県建築学生賞 ・奨励賞/上條経伍 ・奨励賞/爲季仁 ●第32回学生設計優秀作品展 ・出展/椎橋亮 ●第49回全国大会・高専卒業設計展示会 ・出展/椎川恵太 ○第7回 JIA 大学院修士設計展 ・出展/五十嵐大輔 		<ul style="list-style-type: none"> ●木愛の会 第1回設計競技「新しい木の建築—魅了する木造都市へ—」 ・入賞/大西慧
21	<ul style="list-style-type: none"> ●第42回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞/細矢祥太 日本一 ・出展/下泉宏記 ●卒業設計日本一決定戦 ・100選/鴨志田航 ●第22回千葉県建築学生賞 ・市民賞/永田陽子 地域二 ・奨励賞/永田陽子 ・奨励賞/鴨志田航 ●第33回学生設計優秀作品展 ・出展/鴨志田航 ●第50回全国大会・高専卒業設計展示会 ・出展/細矢祥太 ●全国合同卒業設計展「卒、10」 ・7選入選/大西慧 ○第8回 JIA 大学院修士設計展 ・出展/小松崎博敬 	<ul style="list-style-type: none"> ●「アーバンフィジクスの構想」 ・関東支部入選/鴨志田航、本多美月 ●「美しくまちをつくる むらをつくる」 ・最優秀賞/朽木健二 地域二 	<ul style="list-style-type: none"> ●第1回日本大学桜門建築会学生設計コンペティション「未来の住処をデザインする」 ・東京ガス SUMIKA 賞/細矢祥太、益山未樹 ・佳作/細矢祥太、益山未樹 ・佳作/椎橋亮 ●第7回「真の日本のすまい」 ・日本建築士会連合会会長賞/爲季仁、鈴木啓史 日本一 ●(株)東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選/増田佳菜子

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成22年	<ul style="list-style-type: none"> ●第43回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞「金の卵」賞/杉田陽平 日本一 ・入賞/松井創斗 ●第23回千葉県建築学生賞 ●優秀賞/杉田陽平 地域二 ●特別賞/松井創斗 ●JIA東海学生卒業設計コンクール2011 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/杉田陽平 ●赤レンガ卒業設計展2011 <ul style="list-style-type: none"> ・一般賞 8位/杉山洋太 ●JIA 全国卒業設計コンクール2011 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/松井創斗 ●第34回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/古明地雲母 ●全国大学・高専卒業設計展示会 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/杉山洋太 	<ul style="list-style-type: none"> ●大きな自然に呼応する建築 <ul style="list-style-type: none"> ・関東支部入選/大西慧、菅原遼 	<ul style="list-style-type: none"> ●ハンサムプレゼンテーションコンペ2010 <ul style="list-style-type: none"> ・アーキテクタ賞/小川雅人 ●第6回「新・木造の家」設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/嶋真史 ●第2回文化遺産防災アイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/爲季仁、平山雄基 ●第2回日本大学校門建築会学生設計コンペティション <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/増田佳菜子、小山勇氣 ●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> ・100選/小山勇氣 ●椅子のある風景 北の創作椅子展2010 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/永田陽子、椎橋亮 ●ハンスグローエ ジャパン パスルーム デザインコンペ2010 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/椎橋亮、永田陽子
23	<ul style="list-style-type: none"> ●第44回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・建築部門賞/石原幹太 日本一 ・入賞/渡部亘 ●第24回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/石原幹太 地域二 ・市民賞/石原幹太 地域二 ・奨励賞/渡部亘 ●赤レンガ卒業設計展2012 <ul style="list-style-type: none"> ・特別賞/石原幹太 ●JIA 全国卒業設計コンクール2012 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/渡部亘 ●第35回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/井上彩花 ●卒業設計日本一決定戦2012 <ul style="list-style-type: none"> ・20選/菅原雅之 ・100選/渡部亘 ●全国合同卒業設計展「卒、12」 <ul style="list-style-type: none"> ・7選/菅原雅之 ●DIPLOMA 2012 <ul style="list-style-type: none"> ・学科代表掲載作品/菅原雅之 ●日本建築学会 建築デザイン発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・部門優秀賞/菅原雅之 ・部門優秀賞/石原幹太 ●Vectorworks 教育支援プログラム OASIS <ul style="list-style-type: none"> ・優秀研究賞/菅原雅之 ●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2012 <ul style="list-style-type: none"> ・都築響一賞/菅原雅之 日本一 ●全国大学・高専卒業設計展示会 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/渡部亘 	<ul style="list-style-type: none"> ●第17回北陸の家づくり設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> ・北日本新聞社賞/杉田陽平、菅原雅之、渡部亘 ●第3回日本大学校門建築会学生設計コンペティション <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/渡部亘 ・佳作/涌井匠、海藤航、斉藤亮介 ●キルコス国際建築設計コンペティション2011 <ul style="list-style-type: none"> ・満田衛資賞佳作/涌井匠、福田雄太 	
24	<ul style="list-style-type: none"> ●第45回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入賞/涌井匠 ●第25回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・特別賞/涌井匠 ・奨励賞/海藤航 ●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/涌井匠 日本一 	<ul style="list-style-type: none"> ●第10回 R&R 設計アイデアコンテスト <ul style="list-style-type: none"> ・入賞/松井創斗、斎藤亮介、山川大喜、川崎将 ●FUTURE DESIGN 2012 未来エレベーターコンテスト <ul style="list-style-type: none"> ・審査員賞/田原拓、川崎将、山川大喜、善財寛之 ●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> ・100選/山川大喜 ●第4回ハーフェレ学生デザインコンペティション <ul style="list-style-type: none"> ・妹尾賞/石原幹太、伊藤春樹、古江志人、遠洞躍斗 ●ALA 建築 Project 建築学生の挑戦「都市と空き地」Vol.2 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀作品/松井創斗、堤昭文、辻普 ●第4回文化遺産防災アイデアコンペティション <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/榎本翔太、涌井匠、杉田陽平 ●歴史的空間再編コンペティション2012 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/杉田陽平、涌井匠、川崎将、徳永尚亮 ●平成24年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞/梅田淳、海藤航、福田雄太、涌井匠 地域三 ・企画賞、デザイン賞/伊藤春樹、斉藤亮介、中山淳雄、望月堅二 	

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成24年			●キルコス国際建築設計コンペティション2012 ・永山祐子賞佳作/涌井匠
25	●第26回千葉県建築学生賞 ・奨励賞/山川大喜 ・奨励賞/川崎将		●歴史的空間再編コンペティション2013 ・入選/菅原雅之、遠洞躍斗、樋浦直紀、井出健、鶴田亜有美、中山博貴 ●建築新人戦 ・100選/出山亮 ●平成25年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ ・最優秀賞/遠洞躍斗、田原拓、堤昭文、岩本桃果、阿部紘樹 地域 ・企画賞、デザイン賞/山川大喜、森浩平、徳永尚亮、善財寛之、鈴木彩美、大谷涼 ●キルコス国際建築設計コンペティション2013 ・遠藤秀平賞銀賞/山川大喜、辻普、藤本幸汰、白坂真 ・古谷誠章賞佳作/菅原雅之
26	●第47回毎日・DAS デザイン賞 ・入賞/滝村菜香 ・入賞/出山亮 ・入賞/藤本幸汰 ●第27回千葉県建築学生賞 ・特別賞(JIA 全国出展)/山影悠時 ・奨励賞・市民賞2位/志萱侑太 ●全国合同卒業設計展「卒、15」 ・審査委員賞(藤村龍至賞)/山影悠時 ●卒業設計日本一決定戦2015 ・100選/山影悠時 ・100選/志萱侑太 ●福岡デザインレビュー2015 ・最優秀賞/堤昭文 日本一 ●赤レンガ卒業設計展2015 ・審査委員賞(中山英之賞)/滝村菜香 ●第38回学生設計優秀作品展 ・レモン賞/堤昭文 ●日本建築学会 建築デザイン発表会 ・審査委員賞(篠原聡子)/山影悠時 ●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2015 ・入選/志萱侑太 ・入選/山影悠時		●建築新人戦 ・101選/高橋翔 ●第8回 JACS 住宅設計コンペ2014 ・佳作/川崎将、志萱侑太、高橋翔 ●キルコス国際建築設計コンペティション2014 ・五十嵐淳賞(銅賞)/遠洞躍斗、森浩平、浅見花 ●第6回日本大学桜門建築会学生設計コンペティション ・審査委員賞/山川大喜、滝村菜香、斉藤賢司 ・佳作/涌井匠、遠洞躍斗、山影悠時 ●歴史的空間再編コンペティション2014 ・20選/涌井匠、出山亮、森浩平、樋浦直樹、染谷萌衣、高橋政頼 ●平成26年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ ・デザイン賞/出山亮、井出健、宇山浩和、戸田寛康、樋浦直樹 ・佳作/志萱侑太、亀田宏樹、滝村采香、福島弘明、増田顕弘
27	●第48回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞/高橋翔 日本一 ●第28回千葉県建築学生賞 ・市民賞2位・奨励賞/高橋翔 ・奨励賞/重田秀之 ●第39回学生設計優秀作品展 ・出展/高橋翔 ○第39回学生設計優秀作品展 ・出展/山川大喜 ○第14回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2016 ・出展/川崎将	●日本建築学会建築文化週間学生グランプリ2015 ・入選/志萱侑太、重田秀之、高橋翔、千葉雄介、中西宏直、濱嶋杜人	●日本造園学会90周年記念全国大会 U-30国際アイデアコンペティション ・佳作/森浩平、杉田陽平、松井創斗 ●Floating City Project Architectural Design Contest ・佳作/佐藤信治研究室 ●シェルターインターナショナル学生設計競技2015 ・一次予選通過/出山亮、森浩平、蒲生良輔 ●第9回 JACS 住宅設計コンペ2015 ・特別賞(長谷川豪賞)/遠洞躍斗、滝村菜香、小貫笑美依、佐々木秀人 ・佳作/志萱侑太 ●平成27年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ ・最優秀賞/高橋翔、千葉雄介、中西宏直、今村夏波 地域 ●公共施設オープンリノベーションマッチングコンペティション ・実施採択/川崎将 ●第7回日本大学桜門建築会学生設計コンペティション ・佳作/出山亮、森浩平、蒲生良輔 ●歴史的空間再編コンペティション2015 ・10選/出山亮 ・20選/遠藤躍斗、山影悠時、森浩平、上田紗矢香、小貫笑美衣 ・50選/川崎将、滝村菜香、高橋政頼、中西宏直、門口雅奈、蒲生良輔、濱嶋杜人 ●第13回主張する「みせ」学生デザインコンペ ・審査委員特別部門賞/志萱侑太、山本雄太郎 ●第1回学生、コンペティション「共のレシビ」 ・特別賞/山川大喜、志萱侑太、千葉雄介 ●キルコス国際建築設計コンペティション2015 ・近藤哲雄賞銀賞/志萱侑太

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成28年	<ul style="list-style-type: none"> ●第29回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・市民賞／蒲生良輔 地域二 ・奨励賞／蒲生良輔 ・奨励賞／濱嶋杜人 ●せんだいデザインリーグ <ul style="list-style-type: none"> 卒業設計日本一決定戦 ・100選／上田紗矢香 ・100選／宮嶋悠輔 ●全国合同卒業設計展「卒、17」 <ul style="list-style-type: none"> ・総合資格学院賞／上田紗矢香 ●第40回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展／蒲生良輔 ○第40回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展／志萱侑太 ○第15回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2017 <ul style="list-style-type: none"> ・出展／出山亮 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本建築学会設計競技 <ul style="list-style-type: none"> ・タジマ奨励賞／宮嶋悠輔、門口稚奈、谷醒龍、濱嶋杜人 	<ul style="list-style-type: none"> ●ERI 学生デザインコンペ2016 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作／蒲生良輔、小貫笑美依、福富大真 ●歴史的空間再編コンペティション2016 <ul style="list-style-type: none"> ・50選／佐々木秀人、新部瑠介、加藤毅三 ●都市のパブリックスペースデザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> ・佳作／志萱侑太、金井亮祐 ・佳作／永富快、上田紗矢香、山本雄太郎 ●(社)東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> ・入賞／黄起範
29	<ul style="list-style-type: none"> ●第49回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・金の卵賞／黄起範 日本一 ●第30回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・特別賞／黄起範 ・奨励賞／赤堀厚史 ○第41回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展／千葉雄介 ○第16回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2018 <ul style="list-style-type: none"> ・出展／高橋翔 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本建築学会設計競技2017「地域の素材から立ち現れる建築」 <ul style="list-style-type: none"> ・全国入選佳作・タジマ奨励賞／赤堀厚史、中村圭佑、佐藤未来、加藤柚衣 ・四国支部入選／松下知可、青木給子、島田将武、浅野健 	<ul style="list-style-type: none"> ●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> ・16選／服部立 ・100選／勝部秋高 ・100選／山本壮一郎 ・100選／笹川雄基 ●歴史的空間再編コンペティション2017 <ul style="list-style-type: none"> ・50選／重田秀之、宮嶋悠輔、金井亮祐、山本淳樹、Lunenкова Anastasia、渡辺真理恵、三枝晃、笹川雄基 ●シェルターインターナショナル学生設計競技 <ul style="list-style-type: none"> ・34選／蒲生良輔、山本淳樹 ●都市のパブリックスペースデザインコンペ2017 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作／永富快、山本雄太郎、上田紗矢香 ・佳作／志萱侑太、金井亮祐
30	<ul style="list-style-type: none"> ●第50回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・金の卵賞／服部立 日本一 ●第31回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞／勝部秋高 地域二 ・特別賞／根本一希 ・市民賞／勝部秋高 地域二 ●赤レンガ卒業設計展2019 <ul style="list-style-type: none"> ・審査員賞／高橋遼太郎 ●デザイン女子 No.1 決定戦 <ul style="list-style-type: none"> ・都市・建築部門賞1位／渡辺真理恵 日本一 ○第42回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展／上田紗矢香 ○第17回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2019 <ul style="list-style-type: none"> ・出展／佐々木秀人 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本建築学会設計競技2018「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」 <ul style="list-style-type: none"> ・東海支部入選／山本壮一郎、根本一希、桜井南実、服部立、住吉文登 	<ul style="list-style-type: none"> ●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> ・8選／中村美月 ・100選／西遼 ●歴史的空間再編コンペティション2018 <ul style="list-style-type: none"> ・第5位／佐々木秀人、金井亮祐、根本一希、桜井南実、小林陽太、中村美月、松下将也 ●キルコス国際建築設計コンペティション2018 <ul style="list-style-type: none"> ・金賞／蒲生良輔、山本淳樹、三枝晃、山内颯、西村寿々美、郎敬萬 日本一 ・銀賞／勝部秋高、篠原健 ●桜建デザイン・コンクール2018 <ul style="list-style-type: none"> ・入選／佐々木秀人、山本壮一郎、渡辺真理恵、西村寿々美 ●住宅課題賞2018 <ul style="list-style-type: none"> ・入選／小山田駿志 ●ひろしま建築学生チャレンジコンペ2018 <ul style="list-style-type: none"> ・9選／西遼、小山田駿志、山内颯
31 (令和元年)	<ul style="list-style-type: none"> ●第51回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・出展／中村美月 ●第32回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞／横畑佑樹 地域二 ・特別審査委員賞／横畑佑樹 ●せんだいデザインリーグ2020 <ul style="list-style-type: none"> 卒業設計日本一決定戦 ・20選／中村美月 ・100選／小山田駿志 ・100選／横畑佑樹 ●全国合同卒業設計展「卒、20」 <ul style="list-style-type: none"> ・特別賞(総合資格賞)／横畑佑樹 ・8選／西村寿々美 ●赤レンガ卒業設計展2020 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞／中村美月 日本一 ○第43回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展／横畑佑樹 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本建築学会設計競技2019「ダンチを再考する」 <ul style="list-style-type: none"> ・関東支部入選／小山田駿志、大石展洋、中村美月、渡邊康介 ・タジマ奨励賞／小山田駿志、大石展洋、中村美月、渡邊康介 ・全国入選佳作／根本一希、勝部秋高 	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史的空間再編コンペティション2019 <ul style="list-style-type: none"> ・グランプリ／横畑佑樹、山本壮一郎、中村美月、大石展洋、大久保将吾、駒形史紗、臼杵葵

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
令和2年	<ul style="list-style-type: none"> ●第52回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/藤田大輝 ●全国合同卒業設計展「卒、21」 <ul style="list-style-type: none"> ・総合資格賞/中村正基 ・八木祐理子賞/神林慶彦 ●オンライン卒制展2021 <ul style="list-style-type: none"> ・秋吉浩気賞/藤田大輝 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本建築学会設計競技2020「外との新しいつながりをもった住まい」 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/根本一希、渡邊康介、中村美月 ・佳作/勝部秋高、篠原健 ・タジマ奨励賞/石井健聖、大久保将吾、駒形吏紗、佐藤駿介、鈴木亜実 ・四国支部入選/鷹田知輝(日本大学)、横畑佑樹(同)、西遼(岡山県立大学)、植田美鈴(日本大学) 	<ul style="list-style-type: none"> ●JIA・テスクチャレンジ設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> ・山脇賞/古角虎之介、小山田駿、鷹田知輝、横畑佑樹 ●第7回宇宙建築賞 <ul style="list-style-type: none"> ・3位/福田晃平、水口隆、佐藤宏樹(芝浦工大) ●歴史的空間再編コンペティション2020 <ul style="list-style-type: none"> ・準グランプリ/根本一希、中村美月、渡邊康介 日本一 ・ベスト16/古角虎之介、山戸善伸、神林慶彦、中村正基 ・最優秀 SNOU 賞/古角虎之介、山戸善伸、神林慶彦、中村正基 ●土木デザイン設計競技景観開花。2020 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀作品賞/横畑佑樹、根本一希、中村数基、藤田大輝、小林功基、有馬成美 日本一 ●木の家設計グランプリ2020 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/中村正基、山本壮一郎、中村美月、山田遥南、石本かえで、田畑輝 日本二